

ハ賣拂代金ノ百分ノ十二相當スル違約金ヲ徴收ス

第三條 國有林野ノ產物又ハ土石ハ其ノ賣拂代金ヲ完納シタル後ニ非サレハ之カ引渡ヲ爲サス

國有林野ノ產物又ハ土石ノ賣拂ヲ受ケタル者買受代金ヲ完納シタルトキハ其ノ領收書ヲ示シ引渡ヲ受クヘシ

第四條 賣拂ヒタル國有林野ノ產物又ハ土石ノ品質數量等ニ差異アリ又ハ瑕疵アルモ當該官廳ハ其ノ責ニ任セス

第五條 賣拂ヒタル國有林野ノ產物又ハ土石ニシテ引渡以前官廳又ハ公共ノ用ニ必要アルトキハ其ノ賣拂ヲ取消スコトアルヘシ

第六條 國有林野ノ產物又ハ土石ノ買受人ハ引渡ヲ受クル以前其ノ買受物件ニ對シ一切ノ處分ヲ爲スコトヲ得ス

前項ニ違背シタルトキハ賣拂代金ノ百分ノ十二相當スル違約金ヲ徴收シ尙其ノ契約ヲ解除スルコトアルヘシ

第七條 買受人其ノ國有野林ノ產物又ハ土石ノ引渡ヲ受ケタルトキハ二箇年以内ニ之ヲ搬出スヘシ買受人前項ノ期間ニ搬出ヲ終ラサルトキハ出願ニ依リ其ノ延期ヲ許可スルコトアルヘシ此ノ場合ニ於テハ當該官廳ハ相當期間ヲ指定シ違約金トシテ左ノ金額ヲ徴收スルコトアルヘシ

一、賣拂代金百圓以上ナルトキハ一日ニ付其ノ千分ノ一

二、賣拂代金百圓未満ナルトキハ一日ニ付金拾錢

但シ特ニ必要アル片ハ契約ヲ以テ此ノ期間ヲ短縮スルコトアルヘシ

第八條 不可抗力ニ因リ產物又ハ土石ノ搬出若ハ採取スルコト能ハサリシ期間ハ其ノ障礙ノ止ミタル後十四日以内ニ其ノ事由ヲ具シテ當該官廳ノ承認ヲ受ケタルトキハ之ヲ搬出又ハ採取ノ期間ニ算入セス

第九條 買受物件ノ搬出ヲ終リタルトキハ五日以内ニ其ノ旨ヲ當該官廳ニ届出ツヘシ

第十條 第七條ノ搬出期限ヲ過クルモ搬出ヲ終ラサル物件ハ國ノ所有トシ既納代金ハ還付セス

第十一條 買受物件ハ許可ヲ受クルニ非サレハ搬出前之ヲ轉賣讓與スルコトヲ得ス

第十二條 國有林野ノ產物又ハ土石ノ買受人買受物件ノ伐採、採取、運搬等ニ際シ其ノ林野ニ對シ損害ヲ加ヘタルトキハ其ノ損害ノ辨償ヲ終ル迄伐採搬出ヲ中止セシメ搬出未済ノ物件ヲ差押フルコトアルヘシ

第十三條 前條ノ辨償金ヲ指定ノ日限内ニ納付セサル場合ニ於テ差押ヘタル物件アルトキハ之ヲ官收シ其ノ代金ハ還付セス

第十四條 特別ノ契約アルモノ、外國有林野產物ノ根株ハ賣拂以外トス

第十五條 二人以上共同シテ賣拂ヲ受ケントスルトキハ代表者一人ヲ定メ當該官廳ニ届出又ハ賣拂願書ニ記載スヘシ

第十六條 其ノ届出又ハ記載ナキトキハ各人互ニ全員ヲ代表スルモノト看做ス

第十七條 本則ニ依ル賣拂ノ取消又ハ契約ノ解除ニ由リ買人ニ損失ヲ生スルモ當該官廳ハ其ノ責ニ任セス

第二款 競争契約

第十七條 競争ニ依リ國有林野ノ產物又ハ土石ヲ賣拂ハントスルトキハ左ノ事項ヲ公示ス但シ郵便ヲ以テ入札ヲ爲スコトヲ許ス場合ニ於テハ入札書ヲ送達スヘキ場所及其ノ到達ヲ要スル年月日時ヲ加フ

- 一、賣拂番號
 - 二、物件ノ所在
 - 三、物件ノ種類數量
 - 四、入札開札ノ場所及年月日時
 - 五、入札保證金ヲ定ムル率
 - 六、明細書、契約書案等閱覽ノ場所
 - 七、契約ノ締結ヲ擔任スル官吏ノ官職氏名
 - 八、其ノ他必要ト認ムル事項
- 第十八條 入札人ハ第一號書式ニ依リ賣拂番號毎ニ入札書ヲ作り入札保證金ヲ保證金取扱官吏ニ示シ封緘ノ上之ヲ差出シタル後其ノ入札書ヲ入札函ニ投入スヘシ
- 第十九條 郵便入札書ハ其ノ封ヲ二重ト爲シ内封ニハ入札スヘキ國有林野產物ノ賣拂番號ヲ記シ外封ニハ其ノ表面ニ入札書ノ三字ヲ明記シ書留郵便ヲ以テ之ヲ差出スヘシ
- 第二十條 入札人入札書ヲ郵便ニ付スルトキハ入札保證金ヲ爲替ト爲シ若ハ金庫ニ寄託シ其ノ爲替證書又ハ金庫ノ保管證書ヲ入札書ノ外封中ニ封入シ入札書ト共ニ之ヲ送付スヘシ
- 郵便入札人入札保證金ヲ金庫ニ寄託セントスルトキハ便宜ノ營林區署又ハ營林區分署ニ差出シ寄託通知書ノ交付ヲ受ケ之ニ現金又ハ有價證券ヲ添ヘ指定ノ金庫ニ納付シ其ノ保管證書ヲ受クヘシ郵便入札人ハ第二十五條第一項郵便爲替證書又ハ金庫保管證書ノ還付若ハ返送ニ必要ナル郵便切手ヲ證書ト同時ニ送付スヘシ
- 第二十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル入札ハ無効トス
一、賣拂番號、入札金額、氏名若ハ名稱其ノ他緊要ナル文字ノ不明瞭ナルトキ

- 二、入札保證金不足ナルトキ
 - 第二十二條 落札人ハ豫定價格以上ノ最高入札人トス
 - 第二十三條 落札人定マリタルトキハ契約擔任官吏其ノ旨ヲ落札人ニ通告ス
落札人前項ノ通告ヲ受ケタルトキハ即時若ハ指定ノ期日內ニ契約擔任官吏ト第四號書式ノ契約書ヲ作製シ指定ノ契約保證金ヲ納付スヘシ
 - 第二十四條 保證金取扱官吏ハ左ノ各號ニ依リ入札保證金ヲ還付スルモノトス
一、競争ニ依ル賣拂ヲ取消シタルトキハ入札人全部ノ入札保證金
二、入札無効トナリタルトキハ其ノ入札人ノ入札保證金
三、落札人定マリタルトキハ其ノ他ノ入札人ノ入札保證金
四、落札人契約ヲ締結シ契約保證金ヲ納付シタルトキハ其ノ入札保證金
 - 第二十五條 前條ニ依リ還付スヘキ入札保證金ニシテ郵便爲替證書ナルトキハ保證金取扱官吏ハ書留郵便ヲ以テ直ニ之ヲ入札人ニ還付シ金庫保管證書ナルトキハ保證金寄託ノ取扱ヲ爲シタル營林區署又ハ營林區分署ニ返送シ其ノ旨ヲ入札人ニ通知ス但シ第二十條第三項ニ依ル郵便切手ノ送付ナキトキハ其ノ送付アル迄保證金ノ證書ヲ還付又ハ返送セス
入札人前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ該通知書ヲ前項ノ營林區署又ハ營林區分署ニ差出シ保管證書ノ還付ヲ受クヘシ
 - 第二十六條 入札人ノ連合若ハ不穩ノ舉動其ノ他ノ事由ニ依リ正當ニ入札ヲ行フコト能ハスト認ムルトキハ競争ニ依ル賣拂ヲ取消スコトアルヘシ
- 第三款 隨意契約

第二十七條 隨意契約ニ依リ國有林野ノ產物又ハ土石ノ賣拂ヲ受ケントスル者ハ第二號書式ノ願書ヲ作リ左記各號ニ依リ之ヲ差出スヘシ但シ年期ニ係ルモノハ其ノ期間年割數量ヲ前書ニ明記シ且區域及四圍ノ狀況ヲ明示シタル地形圖ヲ添付スヘシ

一、公共ノ利益トナルヘキ事業ノ爲メ出願スル者ハ其ノ公共ノ利益トナルヘキ事業及之ニ必要ナル事由ヲ疎明スヘシ

二、鑛業ニ必要ノ爲メ出願スル者ハ其ノ鑛業者タルコトヲ疎明スヘシ

三、北海道國有林野產物處分令ノ規定ニ依ル重要製產品ノ製造業ニ必要ノ爲メ出願スル者及同令第三條第五號ノ木材業者ニ在リテハ其ノ資格ヲ證スヘキ書類及第三號書式ノ工場調書ヲ添付スヘシ

但シ年期ニ係ルモノハ其期間年割數量ヲ前書ニ明記シ且區域及周圍ノ狀況ヲ明示シタル地形圖ヲ添付スヘシ

第二十八條 隨意契約ニ依リ國有林野ノ產物又ハ土石ノ賣拂ヲ受ケタル者ハ即時又ハ指定ノ期限内ニ契約擔任官吏ト第四號書式ノ契約書ヲ作製スヘシ但シ買受代金壹千圓未滿ノモノニ在リテハ契約書ニ代ヘ第五號書式ノ請書ヲ徵スルコトアルヘシ

前項ノ場合ニ於テハ直ニ指定ノ契約保證金ヲ納付スヘシ但シ年期ニ係ルモノ及買受代金壹百圓未滿ノモノニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

隨意契約ニ依リ國有林野ノ產物又ハ土石ノ賣拂ヲ受ケタル者第一項ノ契約書又ハ請書ヲ差出ササルトキハ其ノ賣拂ハ無効トス此ノ場合ニ於テハ其ノ代金ノ百分ノ十二相當スル違約金ヲ徵收ス但シ年期賣拂ニ係ルモノナルトキハ時價ニ應シ賣拂物件ノ全額ニ對スル見積價格百分ノ十以内ノ違約金ヲ徵收ス

第二十九條 國有林野ノ主產物ハ北海道國有林野及產物處分令第三條第三號乃至第五號及第八號ノ場合ノ外年期ヲ以テ賣拂ヲ爲サス

第二十條 國有林野ノ產物及土石ノ年期賣拂ハ主產物ニ在リテハ十箇年副產物及土石ニ在リテハ五箇年ヲ超ユルコトヲ得ス

第二十一條 年期ヲ以テ國有林野ノ產物又ハ土石ヲ賣拂ヒタルトキハ毎年度其ノ年割額ニ對シ時價ヲ以テ代金ヲ徵收ス
年割額ノ年度ハ政府ノ會計年度ニ據ルモノトス

第二十二條 國有林野ノ產物又ハ土石ノ年期買受人ハ當該官吏立會ノ上其ノ林野内所在ノ區域ニ標木ヲ建設シ買受物件ノ搬出ヲ終ル迄之ヲ存置スヘシ

第二十三條 國有林野ノ產物又ハ土石ノ年期買受人當該年度内ニ其ノ年割額ノ引渡ヲ受ケサルトキハ契約ヲ解除スルコトアルヘシ

第二十四條 國有林野主產物ノ年期買受人北海道ニ於ケル鑛業、木材業又ハ重要製產品ノ製造ヲ廢止シ若ハ一箇年以上休止シタルトキハ其ノ契約ヲ解除スルコトアルヘシ

第二十五條 北海道國有林野及產物處分令第三條第一號第三號第六號第八號及第九號ニ依ル林野ノ產物又ハ土石ノ買受人ハ許可ナクシテ其ノ使用目的ヲ變更シ又ハ轉賣讓與スルコトヲ得ス

前項ニ違背シタルトキハ違約金トシテ其ノ使用目的ヲ變更シ又ハ轉賣讓與シタル數額ニ應スル賣拂代金ニ相當スル金額ヲ徵收シ尙其ノ契約ヲ解除スルコトアルヘシ

第二十六條 前三條ニ依ル契約ノ解除及第二條第五條第六條ノ取消又ハ解除ニシテ年期賣拂ニ係ルモノナルトキハ將來ニノミ其ノ効力ヲ生スルモノトス

第二十七條 第二條及第六條ノ違約金ニシテ年期賣拂ニ係ルモノナルトキハ時價ニ應シ引渡未濟ニ

屬スル賣拂物件ノ全額ニ對シ見積リタル價額百分ノ十以內トス

附 則

明治二十七年九月廳令第四十九號北海道官有森林原野產物特賣規程及同年同月廳令第五十號北海道官有森林原野產物公賣規程ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

(第一號書式)

入 札 書

第何號 (公示ニ示シタル賣拂番號ヲ記ス)

代金 何 程

右代金ヲ以テ買受可申北海道國有林野產物賣拂規則ヲ遵守シ入札書差出候也

年 月 日

住 所

氏 名 印

(第二號書式)

國有林(野)產物賣拂願

北海道何國何郡(區)何村(町)大字何字何(地番アルモノハ之ヲ掲グ)

何々國有林(年期ノモノニ在リテハ別紙圖面ノ箇所)

一何々何程(年期ノモノニ在リテハ年割額ヲ掲記ス)

此代金何程(年期ノモノニ在リテハ代金ハ年割額引渡ノ都度賣人ノ定ムル所ニ依ルト記ス)

右何々(賣拂ヲ受ケントスル事由)ニ付賣拂相受度北海道國有林野產物賣拂規則ヲ遵守シ(添付書類アルモノハ別紙何々添附)此段奉願候也

住 所

年 月 日

宛

願 人

氏

名

印

(第三號書式)

工場 調 書

一、工場ノ所在

一、原動力ノ種類(火力、電力、水力等ノ類)

一、馬力 公稱馬力何程 實馬力何程

一、汽罐ノ種類數

一、汽機ノ種類數

内 譯

剥出器械 (何種)何臺

刻器機 (何種)何臺

乾燥器 (何種)何臺

其ノ他重ナル器械ヲ掲上スベシ

一、工場建物 何棟

内 譯

機關室 (石造又ハ何々) 何棟此建坪何程

工 場 (木造又ハ何々) 何棟此建坪何程

乾燥室 (煉瓦石造又ハ何々) 何棟此建坪何程

木挽室 (何 々) 何棟此建坪何程

荷造室	(何々々)	同	同	同
倉庫	(何々々)	同	同	同
其ノ他何々(何々々)		同	同	同

一、創業年月
(第四號書式)

賣買契約書

(箇所、物件、數量其ノ他ノ前書事項ハ第二號書式ニ準ス)

右賣買シタルニ由リ買人ハ明治四十二年七月十六日北海道廳令第六十五號北海道國有林野產物賣拂規則及左記各項ヲ遵守スヘク仍テ本書ニ通ヲ製作シ各一通ヲ領有スルモノ也

年 月 日

賣主	官職	氏名	印
住	所	氏名	印
買主		氏名	印

- 一、契約保證金ハ何圓トス(保證金ヲ免除シタルモノハ本項ヲ除ク)
- 二、代金何程(年期ノモノニ在リテハ年割額代金)ハ明治年月日限リ(年期ノモノニアリテハ年々指定ノ期限内ニ)何金庫又ハ何收入官吏ニ納付スヘシ
- 三、賣拂物件ノ引渡ハ代金(年期ノモノニ在リテハ年割額代金)完納後十日以内ニ何營林區署(又ハ營林區分署)ニ就キ之ヲ受クヘシ
- 四、其ノ他必要ト認ムル事項ヲ列記ス
(第五號書式)

請書

(箇所、物件、數量其ノ他ノ前書事項ハ第二號書式ニ準ス)

右賣拂相受候ニ付テハ明治四十二年七月十六日北海道廳令第六十五號北海道國有林野產物賣拂規則及左記ノ各項ヲ遵守可致仍テ請書差出候也

年 月 日

住	所	氏名	印
---	---	----	---

- 宛 (契約擔任官吏ノ官職氏名ヲ記ス)
- 一、何々 (本項以下各項ハ第四號書式ニ準ス)
- (第六號書式)

領收書

北海道何國何郡(區)何村(町)何國有林

一、何々 何程

右物件(年期ノモノニ在リテハ年期買受ニ係ル何年分年割額)御引渡相成領收候也

年 月 日

住	所	氏名	印
買主		氏名	印

宛 (第二號書式ニ準ス)

○北海道國有林野產物賣拂手續

○訓第五百五十號

明治四十二年七月十六日

第五部、營林區署、同分署

北海道國有林野產物手續左ノ通定メ發布ノ日ヨリ施行ス

北海道廳長官 河 島 醇

北海道國有林野產物賣拂手續

第一條 營林區署長又ハ營林區分署長其ノ權限ニ屬セサル國有林野ノ產物又ハ土石ノ競争ニ依ル賣拂ヲ必要トスルトキハ其ノ事由ヲ具シ規定ノ公賣表及密緘シタル豫定價額調書ヲ添へ上申スヘシ

第二條 郵便ニ依ル入札ヲ許ス場合ハ特ニ必要ト認メタルトキニ限ル

第三條 郵便入札書ヲ受ケタル官吏ハ直ニ到達日時ヲ其ノ封皮ニ記入シ認印ノ上契約擔任官吏ニ交付スヘシ

第四條 契約擔任官吏ハ郵便入札書受付簿ヲ備へ受領ノ都度到達日時及差出人ノ氏名ヲ記載シ郵便入札書ノ外封ヲ開披シ郵便爲替證書又ハ金庫保管證書ヲ保證金取扱官吏ニ交付シ入札書ハ封緘ノ儘嚴重ニ保管シ入札ノ際郵便入札書受付簿ニ照合シ之ヲ入札函ニ投入スヘシ

第五條 入札ニ附スル國有林野ノ產物又ハ土石ノ豫定價格ハ之ヲ密緘シ入札ノ際豫メ之ヲ入札函ニ入置クヘシ

第六條 入札函ハ入札締切時刻ニ之ヲ閉鎖スヘシ

第七條 開札ノ場合ニハ賣拂番號入札金額及入札人ノ氏名ヲ讀上クヘシ

第八條 開札ノ結果豫定價格ニ達セサルトキハ其ノ旨ヲ出席入札人ニ告知シ直ニ再入札ヲ爲サシムヘシ

第九條 會計規則第七十八號ニ依リ抽籤ヲ爲サシムル場合ニ於テ抽籤ヲ爲シ能ハサル者アルトキハ入札ニ關係ナキ官吏ヲシテ抽籤ヲ爲サシムヘシ

第十條 落札人定マリタル場合ニ限リ請求アルトキハ契約擔任官吏ハ豫定價格ヲ各入札人ニ告知スヘシ

第十一條 落札人ノ入札書ハ之ヲ契約書ニ合綴スヘシ

第十二條 營林區署長又ハ營林區分署長入札ノ執行ヲ終ヘタルトキハ其顛末ヲ直ニ報告スヘシ

第十三條 北海道國有林野產物賣拂規則第二十七條ニ依リ競争ニ依ル賣拂ヲ取消シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ直ニ報告スヘシ

第十四條 隨意契約ニ依リ北海道廳長官處分ニ屬スル國有林野ノ產物又ハ土石ヲ賣拂ヒタルトキハ其ノ指令ヲ所屬ノ營林區署又ハ營林區分署ニ送付スヘシ

營林區署分署執務規程第六條ニ依リ契約書又ハ請書ヲ徵シタルトキハ速ニ之ヲ進達スヘシ

第十五條 營林區署長又ハ營林區分署長賣拂ヒタル國有林野ノ產物又ハ土石引渡ノ請求ヲ受ケタルトキハ其ノ代金ノ完納ヲ認メタル後之カ引渡ヲ爲スヘシ北海道廳長官ノ處分ニ屬スル物件ヲ引渡シタルトキハ其ノ領收書ヲ進達スヘシ

第十六條 營林區署長又ハ營林區分署長指令書ノ送付ヲ受ケタルモノニシテ北海道國有林野產物賣拂規則第二條第三十三條第三十四條第三十五條第二項ニ該當スルモノアルトキハ遲滯ナク事由ヲ具シ上申スヘシ

第十七條 北海道廳長官ノ處分ニ屬スル國有林野ノ產物又ハ土石ノ賣拂又ハ其ノ取消ヲ爲シタルトキハ之ヲ所屬ノ營林區署長又ハ營林區分署長ニ通達ス但シ指令書ヲ送付スルモノハ此ノ限ニ在ラス

第十八條 營林區署長又ハ營林區分署長其ノ權限ニ依リ國有林野及土石ノ賣拂又ハ落札ヲ取消シタルトキハ遲滯ナク事由ヲ具シ報告スヘシ

第十九條 營林區署長又ハ營林區分署長北海道國有林野產物賣拂規則ニ依ル違約金ノ徵收處分ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク事由ヲ具シ報告スヘシ

第二十條 本手續ニ定メナキ事項ハ從來ノ例ニ依ル

○國有林野及產物處分令第三條制限外處分ニ關スル件

○第五部長ヨリ各營林區署長へ通牒 明治四十二年一月十六日
分署長 五林務第二〇六號

舊國有未開地處分法第三條ニ依リ處分シタル未開地ノ立木ハ四十年二月訓第九號未開地立木處分手續ニ依リ受貸付人ニ對シ特賣シ來リタルモ四十年十一月勅令第二百八十六號發布ノ結果同令第三條ニ據リ處分シ得ルモノ、外ハ總テ公賣ニ據ルヘキ筋ニ有之候條現ニ照復中ノモノニシテ右制限外ニ抵觸スルモノハ此際速ニ公賣方御取運相成度爲念此段及通牒候也

○舊法第三條ニ依ル貸付地内立木處分ニ關スル件

○北海道廳告示第九十五號 明治四十年二月廿八日

爾今北海道國有未開地處分法第三條ニ依ル貸付地ノ立木ハ行政廳ニ於テ國有未開地立木處分手續ニ依リ之ヲ處分スルモノトス

○北海道國有未開地立木處分手續

○北海道廳訓令第九號 明治四十年二月二十八日 第五部、支廳、第五部林務派出所、同分所
北海道國有未開地立木處分手續

第一條 北海道國有未開地處分法第三條ニ依リ貸付スヘキ土地ノ可用立木ハ一町步ニ付約三十尺ノ割合ヲ以テ殘存シ其他ハ豫メ之ヲ賣拂フヘシ

但新ニ區畫ヲ施設シタル土地ニ限リ翌年九月三十日迄本處分ヲ爲サ、ルモノトス

第二條 第一條ニ依ル立木處分ヲ爲サ、リシ土地ニシテ貸付又ハ豫定存置ヲ要スルトキハ貸付ノ場合ニ在リテハ貸付毎ニ豫定存置ノ場合ニ在リテハ一區畫毎ニ開墾ニ適スルト認ムル個所ニ於テ全地積ノ二割ヲ除キ其他ノ地域ニ於ケル可用立木ハ其ノ土地ノ受貸付人ニ賣拂フヘシ

但貸付ノ日ヨリ六十日ヲ過クルモ買受ノ出願ヲ爲サ、ルトキハ他ニ賣拂フコトヲ得

第三條 第二條ノ場合ニ於ケル取除區域ハ速ニ畫定シ便宜ノ方法ヲ以テ現場ニ標示スヘシ

第四條 第二條但書ニ依リ受貸付人以外ノ者ニ立木ノ賣拂ヲ爲シタルトキハ受貸付人ニ對シ第一號書式ノ通告ヲ爲スヘシ

第一號書式

通告書

受貸付人 住所 氏名

明治何年何月何日北海道廳指令何號ヲ以テ許可セル貸付地ノ立木ハ左ノ通り賣拂處分セリ

明治何年何月何日 北海道廳長官

記

一、賣買契約締結ノ日

二、買受人住所氏名

三、賣拂物件搬出期限

○舊法第三條貸付地許可指令條件追加ノ件

○北海道廳訓第五百十七號 明治四十年(參照) (未開地處分法及付屬規定改正ノ結果自然消滅) 第五部、支廳、第五部林務派出所、同分署
 爾今北海道國有未開地處分法第三條ニ依リ未開地ノ貸付ヲ許可セントスル場合ニ於テハ明治三十二年三月訓第一百十七號北海道國有未開地處分法施行細則取扱手續第五號書式一ノ各條項ノ外尙左ノ二號ヲ加フヘシ

- 但既ニ立木ノ處分ヲ爲シタル土地ハ此限リニアラス
- 八、貸付地ハ其地積ノ二割ヲ除キ其他ノ區域内ニ於ケル立木ハ行政廳ニ於テ處分ス
- 但受貸付人ニ於テ買受ケントスルトキハ貸付許可ノ日ヨリ六十日以内ニ其旨出願スヘシ
- 九、前號ノ區域ハ現場ニ之ヲ標示ス若シ標示ナキトキ又ハ區域ノ判明セサルトキハ所轄第五部林務派出署又ハ分署ニ就キ指揮ヲ受クヘシ

○立木除外區域ノ件

○第五部長ヨリ各支廳長へ通牒明治四十年四月十日 五拓第一一六〇號
 殖民區畫地ニ於ケル立木處分除外區域選定ニ付便宜貸付願人ヲシテ開墾又ハ事業上至便ノ箇所ニ割ヲ添付圖ニ明示セシメ實地調査ヲ省畧シ貸付處分ヲ爲シ可然哉之旨網走支廳長ヨリ電報問合ニ對シ意見之通處分相成可然旨回答致シ候條右ニ御了知相成度此段及通牒候也

○立木除外區域表示ノ件

○第五部長ヨリ各支廳長へ通牒明治四十年五月三十一日 五拓第二一六〇號
 未開地ノ立木處分除外區域表示ノ件ニ付テハ三月二十日五地第一三八九號ヲ以テ通牒ニ及ヒ置候處右除外區域ハ速ニ決定セサレハ起業上支障ヲ來シ拓殖督勵上少ナカラサル關係有之候條若シ土地ノ貸付ヲ受ケタルモノニシテ未タ決定セサルモノ有之候ハ、直ニ其區域ヲ表示シ起業上差支ナキ候御

取計相成度爲念此段及通牒候也

追テ貸付ノ際便宜上圖面ニ於テ區劃ヲ明示セラレタル場合ニ於テモ受貸人ニ於テハ未タ其意考ヲ了解セス却テ實地ニ就キ區域指定ヲ待居ルモノ有之哉ニ聞及候條斯ル誤解者ノ無之様御取計相成度此段申添候

○同 上

○第五部長ヨリ各支廳長へ通牒明治四十年十一月二十五日 五拓第六四二四號
 未開地處分法第三條ニ依ル區畫外ノ貸付地ニシテ一町步平均三十メ以上ノ樹林地ニ對シテハ實地調査ノ際ニ割ノ立木處分除外區域ヲ標示スル事ニ相成居候處立木拂下處分ノ爲メ實地臨檢ニ際シ該區域ノ標示ナキモノ多ク之カ爲メ取扱上甚シキ不便ヲ感スルノミナラス延テ事業着手上差支可有之ト存候ニ付爾今明確ニ標示相成候様致度此段及通牒候也

追テ區畫地ニ對シテハ圖面ニ其區域ヲ表示セシメ處分スルモ差支ナキ旨豫テ及通牒候處此場合ニ於テハ受貸付人ヲシテ許可後速カニ實地ニ表示セシメラレ候様致度此段及申添候也

○立木除外區域表示ヲ要セサル件

○第五部長ヨリ各支廳長(網走支廳長ヲ除ク)へ通牒明治四十年十二月二日 五拓第六三六七號
 本年二月二十八日北海道廳訓令第九號ヲ以テ北海道國有未開地立木處分手續訓令相成候處該手續第一條ニ依リ立木ノ處分ヲ爲サ、ル土地ニシテ貸付スヘキ土地ノ可用立木カ一町步ニ付三十尺メニ充タサル土地ハ同手續第二條ニ規定セラレアルニ割ノ除外區域ヲ表示セシムルニ不及義ニ有之候尤モ本廳處分ニ屬スル土地ニシテ右様ノ土地アルトキハ願書進達ノ際其旨副申相成度此段爲念及通牒候也

○立木賣拂ノ條件ヲ付シタル貸付地内立木處分ノ件

○第五部長ヨリ各支廳長へ通牒 明治四十一年七月二十二日 五拓第五二八八號
舊未開地處分法第三條第一項ニ依リ貸付シタル土地ハ特定地ニ關スル規定ヲ適用スルヲ以テ地上立木モ特定地同様賣拂ヲ要セサルモノ、如ク解釋スル向モ有之哉ニ相聞エ候處右ハ貸付ノ際立木賣拂ノ條件ヲ付シテ貸付シタルモノハ依然立木賣拂處分ヲ要スル儀ニ有之候條爲念此段及通牒候也

○未開地内立木ハ土地ト共ニ處分ノ件

○第五部長ヨリ支廳長營林區署長及ヒ同分署長へ通牒 明治四十一年八月二十六日 五林務第三一〇一號
未開地上ノ立木ハ土地ト共ニ處分スル場合ノ外賣拂ヲ爲サ、ル方針ニ有之候條右ニ御了知相成度依命此段及通牒候也

○同 上

○釧路營林區署長ヨリ第五部長へ照會 明治四十一年十一月十二日 釧路第八九號
未開地内ノ立木ハ土地ト共ニ處分スル場合ノ外賣買ヲ爲サ、ル御方針ニ有之候趣曩ニ御通牒ノ次第モ有之候處製軸原料ニ供スヘキ白楊樹或ハ地元住民ノ需用材又ハ公共公益事業等ニ充當スヘキ材料ニシテ他ニ全ク受給ノ途ナキ場合ニ於テハ特ニ其所要材積ニ限リ拂下處分致度然ルニ右ハ絶對ニ賣拂フコト難相成義ニ有之哉取扱上承知致度ニ付何分ノ御回示相煩度此段及照會候也

追テ本文ノ件ハ目下差掛リタル事實モ有之候間特急御通牒相仰度申添候也

○第五部長ヨリ釧路營林區署長へ回答 明治四十一年十一月十八日 五林務四九九七號
十一月十二日釧路第八九號ヲ以テ未開地立木賣拂ニ關スル件ニ付照會ノ趣了承右ハ土地ト共ニ處分スルニアラサレハ絶對ニ賣却セサル御方針ニ付御了知相成度此段及回答候也

○處分法第三條以外ノ貸付地内立木處分ノ件

○第五部長ヨリ各支廳長へ通牒 明治四十一年八月二十八日 五拓第六三九六號
未開地處分法第五條ニ依ル貸付地内ニアル樹木ヲ受貸付人ニ於テ伐採スルノ必要アルトキハ拂下願ヲ提出セシメ許可ヲ受ケシメラレ度又舊法第七條ニ依ル貸付地内ノ樹木ニ就テモ右ト同様ニ取扱フ儀ト御了知相成度依命此段及通牒候也

○未開地立木賣拂未濟事件引繼ニ關スル件

○第五部長ヨリ營林區署同分署へ通牒 明治四十一年七月六日 五林務第二五九二號
國有未開地ノ處分ニ伴ヒ三萬坪以內地上產物處分ヲ支廳長ニ御委任相成三萬坪以上ハ本廳直接處分ノコトニ被定候ニ付テハ未開地立木處分ニ關スル未決事件ハ此際支廳又ハ本廳ニ引繼ヘキ義ト御承知相成度此段及通牒候也

○第五部長ヨリ各支廳長へ通牒 明治四十一年七月六日 五林務第二五九二號
未開地立木處分ニ關スル未決事件引繼方ノ件ニ付本日別紙寫ノ通營林區署及同分署へ通知致置候條御了知相成度此段及通牒候也

○舊法第三條貸付地内賣拂了セサル立木處分ノ件

○第五部長ヨリ各支廳長へ通牒 明治四十二年十一月廿五日 五拓第一〇七一〇號
御管内ニ於テ未開地處分法第三條ニ依ル貸付地内ニ於テ明治四十年ニ當應訓令第九號北海道國有未開地立木處分手續ニ依リ立木賣拂ヲ要スルモノニシテ處分未濟ニ屬スルモノ多數有之斯クテハ事務

處理上差支有之候ノミナラス惹ヒテ開拓事業ヲ遅延セシムル憾有之候ニ付此ノ際未處分ニ屬スル分ヲ悉皆取調ヘ受貸付人ニ於テ賣拂ヲ希望セサル場合ハ之ヲ公賣ノ手續ニ付シ賣却シ猶希望者ナキトキハ到底現在ニ於テハ價值ナキモノナルニ依リ受貸付人ヲシテ隨意處置セシムルコトトシ開拓事業ノ遲滞ヲ來サ、ル様取計度此段依命及通牒候也

○未開地立木價格査定ニ關スル件

○拓殖部長ヨリ各支廳長ヘ通牒 明治四十四年五月九日 拓殖第六一〇二號
木材ノ價格稍順境ニ向ヒタルヨリ往々立木ヲ目的トシテ未開地ノ賣拂ヲ出願スル者有之哉ニ相聞ヘ候間願人起業ノ確否精細調査相成度將又木材ノ市場價格ハ時々變動可有之候ニ付常ニ之ニ注意シ且ツ營林區署又ハ同分署トモ打合ノ上相當市價ヲ標準トシテ單價査定相成度此段及通牒候也

○未開地立木ノ調査主管ノ件

○北海道廳訓第五百六十四號 明治四十二年七月二十四日 第五部、支廳、營林區署、營林區分署
未開地立木ノ調査ハ本年八月一日以降支廳長ニ於テ施行スル義ト心得ヘシ

○未開地立木調査方針及同心得ノ件

○第五部長ヨリ各支廳長ヘ通牒 明治四十二年七月(明治四十四年六月十九日拓殖第七九二九) 五林務第三九七八號(號ヲ以テ施行心得第七條ヲ改正セラル)
未開地立木調査ハ別冊北海道國有未開地立木調査方針及同心得ニ基キ御施行相成度依命此段及通牒候也

別冊 ○北海道國有未開地立木調査方針

第一條 北海道國有未開地立木調査ハ本方針ニ據リ施行スヘシ

第二條 本調査ハ土地處分調査圖簿又ハ他ノ圖簿ニ據リ施行スヘシ

第三條 本調査ニ於テハ立木及其賣拂價格ヲ調査スルモノトス

第四條 立木ハ毎木調査法又ハ標準地調査法ニ據リ調査スヘシ

一 標準地調査法ハ毎木調査法ヨリ調査上得策ナリト認ムル場合ニ之ヲ行フ

二 調査地ノ林相附近既濟調査地ト同一ナルトキハ調査ヲ省畧シ既濟調査成績ニ據リ其立木材積ヲ算定スルコトヲ得

第五條 立木賣拂價格ハ從來ニ於ケル賣買價格、時價、交通運搬ノ便否、樹種、形質及經濟上ノ關係等ヲ參酌シ之ヲ査定スヘシ

○北海道國有未開地立木調査施行心得

第一條 未開地立木ノ調査ハ北海道國有未開地立木調査方針及本心得ニ據リ施行スヘシ

第二條 標準地ハ其面積ヲ五段歩以上トシ各林相別ニ就キ左記割合ヲ以テ選定スヘシ但調査地面積

十町歩未滿ノ場合ハ此限ニアラス

調査地面積 五十町歩未滿 貳箇所以上

調査地面積 五十町歩以上 參箇所以上

調査地面積 百町歩未滿 參箇所以上

調査地面積 百町歩以上 五箇所以上

調査地面積 五百町歩未滿 五箇所以上

調査地面積 五百町歩以上 八箇所以上

第三條 標準地ニハ四至ニ測定ノ標識ヲナシ標準地番號ヲ墨書シ置クヘシ

第四條 立木ハ左記各號ニ據リ調査シ第一號様式ノ未開地立木調査野帳ニ記入スヘシ但推定調査ノ

場合ハ一町歩平均樹種別材積ノミヲ起入シ準據シタル個所ヲ明示スヘシ

○十町步未滿ノ賣拂地立木調査ノ件

○拓殖部長ヨリ各支廳長へ通牒 明治四十三年五月二十五日 拓殖第六九九號

國有未開地立木調査ハ明治四十二年七月五林務第三九七八號ヲ以テ調査方針及施行心得等通牒致置候處十町步未滿ノ賣拂地ニ於ケル調査方ニ就テハ施行心得第二條但書ノ解釋上毎木調査法ニ據ルモノト標準地調査法ニ據ルモノトノ二途ニ出テ其調査方區々ニ涉リ爲メニ取扱上統一ヲ缺クノ虞有之然ルニ該但書ハ標準地割合ニ對スル除外例ナレハ必シモ毎木調査法ニ依ルヘキ義ニハ無之ニ付林相ノ狀況ニ依リテハ標準地調査法ヲ採ラルヘモ差支無之候條右ニ御承知相成度此段及通牒候也

○測樹價格調査上注意ノ件

○第五部長ヨリ營林區署長同分署長へ通牒 明治四十二年七月三十日 五林務第四〇〇四號

測樹及價格ノ調査上ニ付別紙注意書二通及送致候條右參考ノ上調査ノ遺憾ナキヲ期セラレ度此段及通牒候也

○立木材積及其價格調査ニ關スル注意

第一 材積調査

本道ニ於ケル材積調査ハ勞費節約上已ムヲ得ス標準地調査ノ方法ニ依ル場合多シトス然ルニ標準地調査ハ一般ニ材積ヲ過大ニ積算スルノ通弊アリ是レ主トシテ林相別調査ヲ粗畧ニナスノ結果實地ニ存在スル河川、湖沼、道路等ノ除地及無立木地ヲモ立木地面積中ニ加算スルニヨルト一面標準地ヲ選定スルニ當リ林相中庸ノ箇所ヨリモ比較的容積少ナキ良美ノ地域ヲ撰定スルノ過ニ陥ルモノナレハナリ加之本道ノ如キ原生の森林ニアリテハ其林相從テ不整常態ナルヲ以テ標準地調査

ノ任ニ當ルモノハ深ク其ノ注意ヲ要ス是レ材積調査ニ當リ第一ニ注意スヘキ要點ナリ次ニ注意スヘキハ不用ノ腐朽木ヲ除外スルコト是レナリ本道ノ如キ原生老林ニ於テハ生氣アル老木ニシテ其内部大半腐朽セル不可用立木少ナカラス此等ハ特別ノ場合(薪炭材不足セル地方ニシテ特ニ腐朽木ト雖モ價格ヲ有スル場合)ヲ除キ當然除外スヘキモノナルニ注意周到ナラサルトキハ往々之等ヲ加調スルコトアリ然ルニ此種ノ樹木ハ概シテ直徑大ナルヲ以テ一標準地ニ於テ僅カ少數ノ加調ニ過キストスルモ其結果材積ニ及ホス過誤頗ル多大ナルヲ以テ此種ノ腐朽木ハ材積調査上不可用木トシテ第一ニ區分スルヲ要ス是レ第二ニ注意スヘキ要點ナリ
要スルニ材積ヲ正確ニ調査スルコトハ容易ナルカ如クニシテ其實頗ル困難ナルコトナレハ之レカ任ニ當ルモノ深ク此ニ留意シ勉メテ過誤ヲ避クルコトニ心掛ケサルヘカラス

第二 可用立木歩合決定

本道ノ如キ天然林ニバ腐朽木ノ外ニ不可用木ヲ混スルヲ常トス故ニ立木ノ價格ヲ調査スルニ當リテハ先ツ其生立木ヲ可用立木ト不可用立木トニ區別シ其可用立木ニ就キ相當價格ヲ算出スルヲ要ス然ルニ可用立木ト不可用立木トノ區別ニ付キテハ大ニ注意スヘキモノアリ
例令ハ國有林ノ某個所ニ就キ某樹種ノ拂下ヲ出願シタル場合ニ於テ其立木價格ヲ調査スルニ當リ立木ノ全部カ可用立木ナルヲ以テ固ヨリ區別ヲ要セス
又一ノ森林地ニ對シ其林價ヲ査定スル場合ニ於テハ之ニ保續的經營ヲ行フモノト假定シ以テ可用木不可用木ノ區別ヲ行ハサルヘカラス即チ此場合ニ於ケル可用木ノ範圍ハ現在及ヒ近キ將來ニ於ケル有價木ノ外遠キ將來ニ於ケル有價木ノ一部(將來ノ價格ヲ推算シ之ヲ現時ニ利引シテ若干ノ餘裕アルモノヲ可用立木トス)ヲモ包含ス彼ノ私有林豫定地ノ林價ヲ算出スル場合ノ如キ是レナリ故ニ此場合ニ於テハ今日又ハ近キ將來ニ於テハ無價値ナル林木ノ内ニモ尙多大ノ可用立木ヲ存

スルコトアルヲ以テ一般ニ可用立木ノ歩合大ナルヲ常トス之ニ反シ國有未開地ノ立木調査ニ在リテハ大ニ其ノ趣ヲ異ニス即チ國有未開地ニ於テハ處分後短期間内ニ其立木ノ大部分ヲ伐採スルノ必要アルヲ以テ可用立木トシテ調査スル範圍ヲ現在ニ於ケル有價木ト近キ將來即チ其ノ伐採マテノ間ニ有價木トナルモノノ一部(伐採利用サル時期ノ價格ヲ推算シ之ヲ現時ニ利引シテ若干ノ餘裕アルモノヲ可用木トス)ニ止マルヲ以テ之ヲ永久的森林地ノ可用立木ノ範圍ニ比スレハ其歩合著シク小ナルヲ常トス

第三 用材薪炭材ノ區分

立木價格算定上注意スヘキハ用材薪炭材ノ區分ヲ適當ナラシムルコトナリ是レ用材ハ單價高ク薪炭材ハ單價廉ナルヲ常トスルヲ以テ若シ此區分ニシテ錯誤アラシカ價格ノ算定ニ誤差ヲ生スルヲ免カレサレハナリ然ルニ此區分タルヤ亦至難ノ業ニシテ之ヲ適當ニ査定セント欲セハ周到ナル注意ヲ要ス

用材薪炭材ノ區分ニ就キ困難ナルハ濶葉樹ナリ濶葉樹ハ樹種多ク材質ニ良否ノ大差アリ加フルニ用途複雑ナルノミナラス交通ノ便否ニ制セラルコト亦大ナルヲ以テ其用材範圍ヲ定ムルニ就キテハ地方ニ依リ實質ニ應ジテ最モ慎重ニ考查セサルヘカラス而シテ此區分標準ハ調査地種ノ如何ニヨリ大ニ其範圍ヲ異ニスルヲ以テ此邊ノ留意又肝要ナリ例令私有林豫定地賣拂ノタメ其立木價格ヲ査定スル場合ノ如キハ之ヲ森林トシテ經營スルヲ目的トスルカ故ニ伐採利用ノ時期ニ短キ制限ヲ附セラルコトナキモ未開地ノ立木調査ニ於テハ其大部分ヲ短期間ニ伐採利用スルヲ要スルヲ以テ其ノ短キ期間内ニ果シテ用材トシテ利用シ得ルニ至ルヤ否ヤヲ考查セサルヘカラス加之本道ノ如キ新開地ニアリテハ林木ノ時價生長ハ著シキ速度ヲ以テ遞進スルヲ常トスルヲ以テ用材ノ歩合ハ制限時期ノ長短ニ正比スルヲ當然トス故ニ今同一林地ヲ私有林豫定地トシテ調査スルトキ

第四 造材減ノ決定

ハ之ヲ未開地トシテ調査スルニ比シ用材々積ニ於テ著シク増加スルコトアルヘシ

次ニ調査上注意スヘキハ造材減ヲ適當ニ定ムルコトナリ造材減トハ可用立木ノ總材積中市場ニ持出シ得サル材積ヲ云フモノニシテ之レカ多少ハ又立木價格ニ影響アルヲ以テ適當ニ立木價格ヲ査定セント欲セハ此調査ニ就キテモ慎重ノ注意ヲ要ス

造材減ノ査定ニ誤差ヲ生シ易キハ用材ヨリモ薪炭材ニ於テ甚タシトス用材ハ通例三割乃至四割ヲ以テ造材減トシ單ニ市場ニ搬出用材トシテ賣却シ得ル部分ノミヲ造材材積トシテ算定スルモ薪炭材ニ在リテハ常ニ市場ニ販賣シ得ル部分ノミナラス勞費ヲ算スルトキハ無價値若クハ却ツテ損失トナル部分ト雖モ擧ケテ之レヲ加算スルノ誤謬ニ陥ルノ弊ナシトセシ是レ當事者ノ第一ニ注意スヘキ要點ナリ第二ニ注意スヘキハ未開地立木調査ノ場合ニ於テ特ニ考慮スヘキ一事由アルコト是ナリ即チ未開地ニ在リテハ前ニモ述ヘタル如ク其立木ノ大部分ハ或ル短期間ニ必ラス伐採搬出スヘキ制限アルヲ常トシ加フルニ賣却區域比較的少ナルカ故勢ヒ利用シ得ヘキ材積減少シ從テ實際搬出シ得ル部分ニ著シキ減少ヲ來スヲ普通トス故ニ同一林木ニ對スル造材減ト雖モ其地種ノ如何ニヨリ差異ヲ生スルハ寧ロ必至ノ現象ナリトス

○國有未開地立木調査ニ於ケル可用立木ト不可用立木トノ區別ニ關スル注意

可用立木ト不可用立木トノ區別ハ立木價格ノ算定上重要ナル要件ニシテ之カ區別ヲ誤ルトキハ正當ノ價格ヲ算出シ能ハサルニ依リ左記各項ニ注意スルヲ要ス

一、現在市場ニ價格ヲ有スル樹種及現在價格ヲ有セサルモ其伐採マテノ間ニ價格ヲ生スヘキ見込確ナル樹種ヲ可用木トス

二、樹種トシテハ可用木ニ屬スルモ其樹木資質(大小形狀品質)ノ如何ニ依リ不可用木トスヘキモ

ノアリ故ニ可用立木ト爲スヘキモノナレ、現在市場ニ造材搬出セラレ價格ヲ有スル種類ヲ標準トシテ之ヲ定ム

三、樹種及資質トシテハ可用木ナルモノモ之カ伐採造材及運搬等ニ多額ノ費用ヲ要シ收支償ハスト認ムル場合ハ不可用木トス

以上

○未開地内立木材積調査ニ關スル件

○拓殖部長ヨリ各支廳長ヘ通牒 明治四十五年七月十日 拓殖第八八五四號

未開地内立木材積調査ニ亙リ標準地調査法ニ據ル場合ニ於テ標準地ノ撰定ヲ誤ルトキハ全地ノ材積ニ多大ノ相違ヲ生スルニ至ルニ付全地ノ林相ヲ慎重ニ觀察シ最モ適當ト認ムル個所ニ於テ標準地ヲ撰定セラル、コト又無立木地トシテ控除スヘキ面積ヲ誤ランカ是又全地ノ材積ニ影響スル所尠ナカラサルニ付成ヘク詳細ニ調査シ誤差ナカランコトヲ期セラル、コト此等ハ從來已ニ慎重ニ取扱相成居候儀トハ存候ヘ共或ハ時ニ用意ヲ缺キ爲メニ不都合ヲ來ス恐レナシトセテ將來一層御注意相成候様致度依命此段通牒候也

追テ單價査定ニ當リテハ特ニ左記御注意相成度此段申添候也

一、市價ニ就テハ營林區署又ハ同分署ト打合セノ上同署ノ調査ニ係ハルモノヲ參考ニ供スルコト

同一地方ニ於テ支廳ノ取扱ト營林區署又ハ分署ト市場價格ニ差異アルヘキ理由無之自然同一タルヘキ筋合ニ付平素打合ヲ要スト存候

但未開地内ノ立木ハ材質ノ善惡ニ係ハラヌ一體メニシテ賣拂フヘキモノニ付其用途ニ向テ賣拂フ處ノ營林區署又ハ同分署ノ調査ニ係ハル材質ヨリ幾分劣レル場合可有之如斯場合ニ於テ

右ノ市價ニ比シ相當低減ヲ免レサルヘキニ付此場合ニハ其旨單價査定表ニ記載セラレ度候
二、出材歩合ハ從來用材ハ六七分薪材ハ八九分乃至十歩位ニナシタル向モ有之候得共斯ノ如キハ其用途ニ向テ賣拂フ營林區署又ハ分署ノ取扱ト同一ニシテ直徑五寸以上ヲ總括シテ賣拂フ未開地ノ場合ニ於テハ甚タ適當ナルヲ覺ユ候先ツ普通ノ材質ヲ有スルモノハ用材ニ在テハ針葉樹五分内外闊葉樹四分内外薪材ハ七分内外タルヘク候ニ付材質ノ良惡ヲ調査シ歩止リヲ定メラレ度候

三、從來闊葉樹ハ概シテ薪材トシテ査定セル傾キアルモ、ナラ、カツラ、セン、アカタモ、ヤチタモ、カシワ、シナ、クルミ、シコロ、ホウ等ノ材幹大ナルモノハ腐朽木等ノ場合ノ外ハ普通用材ニ利用セラレ居ルニ付其用途ヲ誤ラサル様充分注意セラレ度候但是等ノ樹種ニシテ普通用材ニ利用サレ得ヘキ大サノモノニシテ薪炭材トシテ調査シタル場合ハ一々其理由ヲ材積表ニ記載セラレ度候

四、造材費ニ就テハ常ニ地方ノ勞銀等ヲ調査シ且營林區署又ハ同分署ノ調査ニ係ハルモノヲ參考ニ供シ努メテ正鵠ヲ期スル様取扱相成度候

五、運材費及搬出費ニ就テハ營林區署又ハ同分署ノ調査ニ係ハル者ヲ參考ニ供シ且常ニ地方ノ勞銀等ヲ調査シ且道程ノ遠近搬出搬出ノ難易等ノカ算定ノ基礎ヲ單價査定表ニ詳細記載セラレ度候

六、利益ハ經濟狀態ニ依リ一定スルヲ得サルハ勿論ナレトモ大概市價ノ一割五分ヲ標準トセハ大過ナキモノト被存候

七、未開地ト共ニ賣拂ヒタル立木ハ良惡木混合シ且需給ノ關係上一時ニ全部ヲ他ニ賣却スルハ事實困難ト認メラル、ニ付別ニ單價査定表中ニ一欄ヲ設ケ相當ノ金利ヲ見積リ控除スルヲ至當

トス其割合ハ年々ノ起業ニ從ヒ其配當地上ノ立木ヲ賣却スルモノト見做シ一ケ年ノ金利五分ヲ成功年限ノ半數ニ乗シタルモノヲ從來ノ單價ヨリ差引キタルモノヲ以テ賣拂ヒノ單價トセハ可然被存候

○未開地ノ產物及土石ニ關スル事務主管ノ件

○第五部長ヨリ各營林區署長分署長へ通牒 明治四十二年十月四日 五林務第四九二四號

未開地ノ產物及土石ノ處分ニ關スル事務ハ舉テ本廳第五部拓殖係ニ於テ管掌スルコトニ御裁定相成候ニ付テハ今後營林區署及同分署ニ於テハ右等ノ事務ニ關係ナキ義ト御承知相成度依命此段及通牒候也

追テ既ニ授受ノ分ニシテ未處分ノモノハ速ニ所轄支廳へ引繼可相成此旨申添候也

○未開地ノ被害ニ關シ取扱方ノ件

○空知營林區分署長ヨリ第五部長へ照會 明治四十二年十月八日 空營第一一〇四號

本月四日付五林務第四九二四號ヲ以テ未開地ノ產物及土石ニ關スル事務主管ノ件御通牒相成候處左ノ箇條聊疑義有之候ニ付爲念及御問合候間折返御指示相成度候也

一、國有未開地ノ被害ハ發見ノ都度本廳へ報告候義ト心得可然哉

二、未開地ニ屬スル盜伐木ノ贓物ハ公訴事件確定ノ上誤伐木ノ造材ハ事件取調濟ノ上所轄支廳へ引渡シ候方ト心得可然哉

三、未開地ニ於ケル盜、誤伐ニ對スル辨償處分ハ金額貳百圓以内ハ分署長權限内ト心得可然哉

○第五部長回答 明治四十二年十月二十九日 五林務第五一三九號

十月八日空營第一〇一四號御照會ニ係ル未開地ノ被害ニ關スル件左記ノ通御承知相成度此段及回答候也

一、二項ハ御見込ノ通

三項ノ辨償處分ヲ要スルモノハ所轄支廳長ニ引繼クヘキモノトス以上

○立木單價査定改正ノ件

○拓殖部長ヨリ各支廳長へ通牒 大正二年五月七日 拓親第三九號

未開地賣拂ニ伴フ立木單價査定ニ關シ月日第 號ヲ以テ回答相成候處爾後利益ハ市價ノ一割二分トシ金利ハ之ヲ控除セサルコトニ決定相成候條右ニ御承知相成度依命此段及通牒候也

追テ立木材積ノ調査ニ關シテハ曩ニ依命及通牒置候次第モ有之充分御注意相成居候事ト存候得共若シ該調査ニシテ錯誤有之ニ於テハ單價査定ノ改正ハ必竟何等ノ効果ヲ看ル能ハサル義ニ有之候條材積ノ調査ニ關シテハ爾今嚴密ノ注意監督ヲ加ヘラレ万違算ナキヲ期セラレ度特ニ申添候

○立木材積調査計算方ノ件

○拓殖部長ヨリ各支廳長へ通牒 大正二年六月二十日 拓殖第六七三一號

未開地賣拂ニ伴フ立木材積ノ計算方ニ付這回左記ノ通り決定相成候條御了知相成度依命此段及通牒候也

記

一、賣拂フヘキ土地ヲ林相別ニ區分シ各林相地ニ對シ北海道國有未開地立木調査施行心得第二條所定ノ標準地ヲ設定スルコト

二、各林相區分毎ニ其區域内ニ於ケル各標準地ノ面積ヲ合計シ之ヲ以テ當該標準地ノ材積ヲ合計シタルモノヲ除シ以テ該區域内ノ一町步當リノ材積ヲ算出シ之レニ其林相別面積ヲ乘シテ材積ヲ計算スルコト

三、各林相地ノ材積(前項ニ依リ得タル材積)ヲ合計シ以テ總材積ヲ算定スルコト

四、一團地ヲ分割シテ賣拂ノ場合ニ於テハ各分割地域毎ニ前各項ニ依リ調査スルコト但シ林相カ同一ナルトキハ之ヲ併合シテ調査スルコトヲ得

以上

○材積計算ニ於ケル單位改定ノ件

○北海道廳告示第二百九十一號 大正三年五月九日
本廳管理ニ係ル土地ノ立木及木材材積ノ單位ハ大正三年六月一日ヨリ實積ハ石(十立方尺)層積ハ棚(百立方尺)ヲ用フ

○拓殖部長ヨリ各營林區署長各營林區分署長地方費森林事務所各支廳長ニ通牒 大正三年五月九日 拓林第三一三〇號
本廳管理ニ係ル土地ノ立木及木材材積ノ單位改定ノ義本日告示第二百九十一號ヲ以テ發布相成候ニ付テハ是ニ伴フ材積表ハ不日印刷ノ上配付可致尙差當リ右換算法ハ石ハ尺 \times 二、二ヲ乘シ棚ハ從來使用ノ材積表所掲ノ棚ニ〇、七五ヲ乘シ算出ノ事ニ御承知相成度此段及御通牒候也

○同上

○釧路營林區署長ヨリ第五部長へ照會 明治四十二年十一月十八日 釧路第三四〇四號
國有未開地内產物及土石處分ニ關スル事務ハ本年十月四日五林務第四九二四號御通牒ニヨリ舉ケテ第五部拓殖係ニ屬スルコト、相成候モ尙左記各項ニ對シ疑義相生シ候ニ付至急御教示相煩度此段及

御照會候也

左記

- 一、國有未開地内ニ於ケル現行又ハ非現行ノ盜伐犯ヲ營林區署員ニ於テ檢舉シタル場合ハ付帶ノ私訴及是カ損害辨償處分ハ營林區署ニ於テ爲スヲ正當ト被認候モ或ハ支廳ニ於テ之ヲ爲スヘキモノナルカ否
 - 二、國有未開地ニ於ケル盜伐犯ニシテ捜査ノ結果誤伐ト爲リタル場合ニ於ケル損害辨償ノ處分
 - 三、殖民地附近ノ河川ニ沿ヒタル豫定堤防敷地内ニ於ケル前第一項第二項ノ場合
 - 四、殖民地畫地内ニ於ケル風防林(保安林ニテ)
 - 五、已上四項ノ場合ニ於ケル林野被害報告ハ營林區署支廳何レニ於テ之ヲ爲スヘキヤ
- 第五部長回答 明治四十二年十二月十八日 五拓第一六九三號
客月十八日釧路第三四〇四號ヲ以テ國有未開地及豫定堤防敷地ノ被害ニ關スル事務主管ノ義ニ付照會ノ處右ハ左記ノ通り御承知相成度此段及回答候也

記

- 一、第一項ノ附帶私訴及第一項第二項ノ損害賠償請求事務ハ所轄支廳へ引繼クヘキモノトス
- 二、第三項ノ場合ハ第六部へ報告スヘキモノトス
- 三、第四項ハ前記第一ニ同シ
- 四、第五項ハ貴所ヨリ報告セラルヘシ
- 第五部長ヨリ各支廳長各營林區署長へ移牒 (但シ釧路營林區署長ヲ除ク) 明治四十二年十二月十八日
未開地ノ產物被害ニ關スル義ニ付別紙寫ノ通り釧路營林區署長へ回答致シ候條爲御心得及移牒候也 (別紙寫)畧ス

○國後擇捉色丹三嶋ニ於ケル未開地内土石產物處分ノ件

○根室支廳上申 明治四十二年十一月十六日
根拓第八七一號

本年十月北海道廳令第八十一號ヲ以テ支廳長委任事項追加セラレ北海道國有未開地内產物及土石ニシテ見積價格參百圓以内搬出期限一箇年未滿ノモノヲ拂下ノ件御委任相成候處當管内千島國後、擇捉、色丹ノ三島ハ冬季間航海杜絶シ從テ右委任事項ニ該當スル出願ヲ受理シ調査處分スル能ハサル次第ニ有之然ルニ產物土石ノ類ハ冬間ヲ利用シテ採取セントスルモノナルモ如上ノ故障アルニ於テハ之ヲ需要ノ途ナク其不便不利誠ニ同情ニ耐ヘス候條擇捉島ハ紗那營林區分署ニ國後島ハ國後營林區分署ニ管理セシメ御委任中ヨリ除外相成色丹島ニ屬スルモノハ便宜斜古丹村戸長ニ分任ノ儀特ニ御詮議ヲ仰キ度此段及上申候也

○電信指令 明治四十三年
一月八日

十一月十六日根拓第八七一號上申未開地内產物及土石拂下處分方斜古丹村戸長ヘ分任ノ件認可ス

○第五部長ヨリ根室支廳長ヘ通牒 明治四十三年一月八日
電

十一月十六日根拓第八七一號上申擇捉國後二島ニ於ケル未開地内產物及土石拂下處分方ハ貴官ヨリ紗那國後營林區分署ヘ處分方囑託ノコトニ決定セリ

○第五部長ヨリ根室支廳長ヘ通牒 明治四十三年一月八日
五拓第一一六二九號

客年十一月十六日根拓第八七一號ヲ以テ擇捉、國後、色丹三島ニ於ケル未開地内產物及土石拂下處分ノ件ニ關シ上申相成候處擇捉、國後二島及得撫、新知、占守三郡ニ於テハ貴官ヨリ其處分方ヲ所轄營林區分署ニ囑託セラレ又色丹島ニ於テハ戸長ニ分任ノ儀御裁可相成候條了知相成度此段及通牒候也

○第五部長ヨリ 釧路營林區署長
同 國後分署長
同 紗那分署長ヘ通牒 明治四十三年一月八日
五拓第一一六二九號

國有未開地内產物及土石拂下ノ處分ハ支廳長ヘ委任相成居候處千島國諸島ハ交通不便ノ爲メ調査及處分トモ遲滞ヲ來シ候ニ付國後郡ニ於ケル分ハ國後營林區分署又紗那、振別、擇捉、藥取、得撫、新知、占守七郡ニ於ケル分ハ紗那營林區分署ニ於テ根室支廳長ノ囑託ニ依リ同支廳長名義ヲ以テ處分スヘキコトニ決定相成候條了知相成度此段及通牒候也

○國有林内殖民區畫設定地ニ於ケル林木拂下停止ニ關スル件

○第五部長ヨリ各支廳長ヘ通牒 明治四十一年一月二十一日
五林務第二〇八號

國有林内ニシテ殖民區畫ヲ施設シタル箇所ハ自今林木ノ拂下處分ヲ停止セラルヘク依命此段及通牒候也

○未開地ニ於ケル產物土石拂下ニ關スル件

○第五部長ヨリ各支廳長ヘ通牒 明治四十二年十月五日
五拓第九九一七號

未開地ノ處分ニ伴ハサル地上產物及土石拂下處分方委任相成候處本來未開地ニ於ケル產物ハ土地ト共ニ處分スヘキモノニシテ單ニ產物及土石ノミノ拂下ハ拓殖上支障ナキ箇所ニ限ル義ニ付該出願アリタルトキハ精細調査ノ上處分相成度尤モ拓殖上必要ノ箇所ト雖モ公益上特ニ拂下ノ必要アル場合ハ意見ヲ具シ進達指揮ヲ受ケラレ度依命此段及通牒候也

追テ本廳處分ニ屬スルモノハ實測及評價書添付ノ上本文ノ趣旨ニ依リ意見具申相成度將又營林區署及同分署ニテ未處分ニ處スルモノハ引繼ヲ受ケラレ度此段申添候也

○未開地内土石產物處分ニ關スル件

○拓殖部長ヨリ各支廳長へ通牒 明治四十五年六月一日 拓殖第七一四〇號
 未開地處分ニ伴ハサル未開地内産物及土石ノ處分ニ關スル事務ハ營林區署又ハ同分署ノ主管ニ移替
 ノ義御決定相成同時ニ今般支廳長委任事項中ヨリ削除相成候條從來接受ノ分ニシテ未處分ノモノハ
 速ニ所轄營林區署又ハ同分署ニ引繼相成度又未開地内ノ立木ハ土地ト共ニ處分スル場合ノ外賣拂ヲ
 ナサ、ル御方針ニ候得共必要缺クヘカラサルモノニシテ拓殖上支障ナキ場合ニ限リ特ニ賣拂フコト
 モ有之候ニ付此場合ニハ營林區署又ハ同分署ヨリ協議可有之候條拓殖上支障ノ有無等ヲ調査相成度
 此段及通牒候也

○未開地内土石産物處分ニ關スル件

○拓殖部長ヨリ各營林區署長へ通牒 明治四十五年六月一日 拓殖第七一四〇號
 未開地ノ處分ニ伴ハサル未開地内産物及土石ノ處分ニ關スル事務ハ營林區署又ハ分署ノ主管ニ移替
 ノ義御決定相成且支廳長委任事項中ヨリ削除相成候ニ就テハ支廳ニ於テ既ニ接受シタル分ニシテ未
 處分ノモノハ速ニ引繼ヲ受ケ職務權限ニ基キ相當處理相成度而シテ未開地上ノ立木ハ明治四十一年
 八月二十六日五林務第三一〇一號通牒ノ通土地ト共ニ處分スル場合ノ外賣拂ヲナサ、ル御方針ニ候
 得共若シ必要缺クヘカラサルモノニシテ拓殖上支障ナキ場合ニ限リ特ニ賣拂フコトモ可有之ニ付此
 場合ニ於テハ豫メ所轄支廳長ト協議ノ上處分相成度此段及通牒候也

○未開地内産物ノ誤盜伐辨償處分ニ關スル事務主管ノ件

○本廳決議 明治四十五年六月一日
 未開地内産物ノ誤盜伐辨償處分ハ從來殖民係ノ主管ニ屬シ居候得共元來未開地内産物ノ監護ハ營林
 區署ニ於テ取扱居候ニ付本件ノ處分ヲ舉ケテ營林區署ノ主管ニ移替候方取扱上便宜ト被認候間御決
 定相成可然哉相伺候也

○未開地内産物ノ誤盜伐辨償處分ノ件 明治四十五年六月一日 拓殖第七一四〇號
 未開地内産物ノ誤盜伐辨償處分ニ關スル事務ハ營林區署又ハ同分署ニ於テ管掌スルコトニ御裁定相
 成候條御承知相成度此段及通牒候也

追テ既ニ接受セル分ニシテ未處分ノモノ有之候ハ、速ニ所轄營林區署又ハ同分署ニ引繼相成度候
 也

○未開地内産物ノ誤盜伐辨償處分ノ件

○拓殖部長ヨリ各營林區署長へ通牒 明治四十五年六月一日 拓殖第七一四〇號
 未開地内産物ノ誤盜伐辨償處分ニ關スル事務ハ營林區署又ハ同分署ニ於テ管掌スルコトニ御裁定相
 成候ニ就テハ既ニ支廳ニ於テ接受セシ分ニシテ未處分ノモノハ速ニ引繼ヲ受ケ職務權限ニ基キ相當
 處理相成度此段及通牒候也

○官林木伐採ニ關スル件

○本廳決議 明治四十一年九月二日
 殖民地區畫施設トシテ本廳ヨリ出張セル吏員ハ隨意官林内ニ入込ミ無斷伐木スル爲メ官林監護上支
 障不少候ニ付吏員派遣ノ場合ハ區畫設定ノ場所官氏名豫メ通報相成度官別紙ノ通檜山營林區分署ヨ
 リ申出ノ處區畫設定ニ付テハ主務係ヨリ林務係ニ合議決裁ヲ經テ執行スルモノニシテ別ニ營林區署
 又ハ分署へ通知ノ必要ヲ認メスト雖モ障害木ヲ伐倒シテ其儘委棄シ置クハ國庫ノ收入ニモ關スル次
 第二付爾後該出張員ニ於テ支障木有價木伐倒シタルトキハ速ニ其場所樹種本數材積ヲ所轄營林區署

又ハ分署ニ通知セシムルコトニ致度此段仰決裁候也

○同上

○第五部長ヨリ營林區署同分署ニ通牒 明治四十一年九月十一日 五林務第三〇八七號
殖民地區畫施設ノ爲メ本廳ヨリ出張セル吏員ニ於テ區畫設定ノ際支障木(有價木ニ限ル)ヲ伐採シタルトキハ直ニ其場所樹種本數等ヲ所轄營林區署又ハ分署ニ通知セシムルコトニ決定候ニ付右通知ヲ受ケタルトキハ速ニ他ニ賣拂方取扱相成度此段及通牒候也

○鑛物調査並ニ地形測量ノ爲メ樹木伐採使用ニ關スル件

○拓殖部長ヨリ各支廳長 明治四十四年六月七日 拓林第四九二五號
同分署長 拓林第四九二五號

農商務省地質調査所技師伊木常誠外十六名鑛物調査又ハ地形測量ノ爲メ國有未開地(國有林)内樹木伐採使用ハ本日御承認相成候而シテ右調査測量着手前豫メ貴廳(貴廳)ヘ打合セ可有之筈ニ候條右ニ御了知相成度此段依命及通牒候也

○長官ヨリ地質調査所長ヘ回答 明治四十四年六月七日 拓林第四九二五號
五月二十四日質發第五四號ヲ以テ御申越ノ趣了承即チ地質調査地形測量ノ爲メ國有未開地及國有林内ノ樹木ヲ伐採シ又ハ使用セラルルハ支障無之候但シ右事業着手前國有未開地ノ分ハ支廳ヘ國有林ノ分ハ營林區署又ハ同分署ヘ豫メ御打合セ相成度此段及回答候也

○地質調査所長ヨリ長官ヘ依頼 明治四十四年五月二十四日 質發第五四號
農商務省技師伊木常誠外十六名鑛物調査並ニ地形測量ノ爲メ不日出發北海道巡回可致之處各本人ニ於テハ終始天幕ヲ用井山野ニ宿泊シ調査並ニ測量ニ從事可致候ニ就テハ御所管内山林ノ樹木ヲ伐採使用スル等ノコト可有之候ニ付右御承認御差支ナキ限リ諸事相當ノ便ヲ與ヘラレ候様致度此段及御

依頼候也

○國有林木使用ノ件

○拓殖部長ヨリ支廳長營林區署長營林區分署長地方費森林事務所ニ通牒 大正三年七月十六日 拓林第四八四六號
本廳拓殖部員支廳員營林區署員營林區分署員ニ於テ實地測量等ノ場合ニ標杭等ノ材料ヲ國有林若クハ地方費林ヨリ採取使用スルトキハ事業上頗ル便宜ナル場合モ可有之ニ付右等ノ場合ハ左記各項ニ依リ採取使用シ得ル事ニ今般御決裁相成候條夫々御傳達相成度此段及通牒候也

記

- 一、國有林若クハ地方費用ヨリ採取使用スル他ヨリ運搬スルコト不便ニシテ且作業地(國有林若クハ地方費林内ニ限ラス)ニ於テ直ニ使用スヘキ少量ノモノニ限ル
- 二、使用木ハ可成作業上ノ支障木ヲ先ニシ是等ノモノ在ラサル場合ハ營林上支障ナキ限度ニ於テ被害木被壓木ノ類ヲ選伐スルコト
- 三、採取ヲ爲シタルトキハ直ニ樹種、目通、直徑、全長、採取年月日、場所、使用目的ヲ記載シ伐採木ノ位置ヲ示スヘキ圖面ヲ添ヘ國有林ニアリテハ所轄營林區署長又ハ分署長地方林ニアリテハ地方費森林事務所ニ報告スルコト
- 四、伐根ニハ必ス極印ヲ押捺スルコト

(參照)

○北海道國有未開地處分法

○法律第二十六號 明治三十年 三月二十七日

北海道國有未開地處分法

第一條 北海道國有未開地ノ賣拂、付與、交換及ヒ貸付ノ處分ハ此法律ニ依ル

第二條 前條ノ賣拂及ヒ貸付ハ此法律ニ於テ特ニ規定スル場合ノ外競争ニ付セス

第三條 開墾牧畜若クハ植樹等ニ供セントスル土地ハ無償ニテ貸付シ全部成功ノ後無償ニテ付與スヘシ

前項ノ貸付地面積ノ制限ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 公用若クハ公共ノ利益トナルヘキ事業ニ供セントスル土地ハ直チニ賣拂付與又ハ有償若クハ無償ニテ貸付スルコトヲ得

第五條 市街地市街豫定地其他土地ノ狀況ニ由リ必要ト認ムル土地ハ競争ニ付シ直チニ賣拂フコトヲ得

第六條 社寺地又ハ墓地ニ供セントスル土地其他事業ノ目的ニ由リ必要ト認ムル土地ハ直チニ賣拂フコトヲ得

第七條 素地ノ儘使用セントスル土地ハ有償若クハ無償貸付ヲナスコトヲ得

第八條 民有地ト交換スレトコトヲ得ヘキ土地ハ其評定價格相均キモノニ限ル

第九條 土地ノ貸付ハ左ノ期間ヲ超ユルコトヲ得ス

無償貸付

十箇年

有償貸付

十五箇年

植樹又ハ泥炭地ノ開墾ニ限リ特ニ二十箇年以内ノ期間ヲ以テ貸付スルコトヲ得

天災其他避クヘカヲザル事故ニ由リ貸付期間内ニ成功スルコト能ハサルトキハ貸付期間ノ半期間迄延期スルコトヲ得

第十條 第三條ニ依リ貸付シタル土地ハ豫定ノ事業成功程度ニ從ヒ隨時其成否ヲ點檢シ豫定ノ如ク成功セザルトキハ未成功地ノ全部ヲ返還セシムベシ

前項ノ場合ニ於テ拓殖上又ハ土地整理上支障アリト認ムルトキハ其ノ成功地ノ一部若クハ全部ヲ無償ニテ返還セシムルコトヲ得

第十一條 貸付地ニシテ公用又ハ公共ノ利益トナルヘキ事業ニ供セントスルトキハ之ヲ返還セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ建設物其他ノ物件アルトキハ所有者ノ請求ニ由リ評定ノ上移轉料ヲ辨償シ又ハ評定價格ヲ以テ之ヲ買取シ且土地ニ對シテ費シタル直接ノ費用ハ之ヲ辨償スルモノトス但シ第三條ニ依リ貸付シタル土地ニ關シテハ其ノ評定價格土地ニ

對シテ費シタル直接ノ費用ヨリ多額ナルトキハ其ノ價格ニ由リテ辨償スルモノトス

前項ニ掲ケル總テノ費用ハ起業者ノ負擔トス

第十二條 左ノ場合ニ於テ天災其他避クヘカヲザル事故ニ由ルモノノ外、賣拂、付與及貸付處分ヲ取消スモノトス但シ賣拂ニ係ルモノハ其ノ既納ノ代價ヲ還付スヘシ

一、第三條ニ依リ貸付タル土地ニシテ一箇年以内ニ事業ニ著手セザルトキ

二、第四條及第六條ニ依リ賣拂、付與又ハ有償貸付ヲナシタル土地ニシテ三箇年以内ニ豫定ノ目的ニ使用セザルトキ

三、第四條及第七條ニ依リ無償貸付ヲナシタル土地ニシテ二箇年以内ニ豫定ノ目的ニ使用セザルトキ

第十三條 左ノ場合ニ於テ伐採シタル樹木アルトキハ其ノ相當代價ヲ辨償セシムルモノトス

一、第三條ニ依レル貸付中ノ土地ヲ自己ノ便宜ニヨリ貸付期間内ニ返還シ又ハ第十條ニ依リ返還セシメタルトキ

二、第四條及第七條ニ依リ無償ニテ貸付シタル土地ヲ豫定ノ目的ニ使用セスシテ返還シ又ハ第十二條ノ處分ヲナシタルトキ

第十四條 第十條ニ依リ貸付地ヲ返還セシメ若クハ自己ノ便宜ニヨリ貸付中ノ土地ヲ返還シタル場合又ハ第十二條ニ依リ賣拂、付與及貸付處分ノ取消ヲナシタル場合ニ於テ其ノ土地ニ存在セル建設物其他ノ物件アルトキハ所有者ハ行政廳ノ定メタル期間内ニ於テ之ヲ除去スヘシ若シ其ノ期間内ニ除去セザルトキハ其ノ物件ハ國ノ所有ニ歸ス

第十五條 左ノ貸付地ニ限り行政廳ノ許可ヲ得テ其ノ貸付地ノ上ニ有スル權利ヲ債務ノ擔保ニ供シ又ハ賣買讓與スルコトヲ得

一、第四條及第七條ニ依レル有償貸付地

二、行政廳ニ於テ特ニ指定シタル區域内ニ於ケル貸付地

三、命令ヲ以テ定メタル事項ニ該當スル貸付地

第十六條 第三條ニ依リ貸付シタル土地ハ貸付期間滿了後一箇年以内ニ其ノ土地ノ付與ヲ請求スヘシ一箇年ヲ超過シテ請求セザルトキハ其ノ權利ヲ拋棄シタルモノトス

第十七條 第三條ニ依リ貸付ヲ受ケタル者ハ其ノ土地ノ全部ヲ成功スルニアラサレバ他ノ土地ノ無償貸付ヲ受ケルヲ得ス

但シ相當ノ資力アリテ成功スルヲ得ル者ト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十八條 此ノ法律ニ依リ賣拂、付與又ハ交換シタル土地ハ其ノ民有トナリタル年ノ翌年ヨリ二十箇年ノ後ニ非サレハ地租及地方

稅ヲ課セス

此ノ法律ニ依リ土地ノ付與ヲ受ケタル者ニ限リ五箇月以内ニ其ノ登記ヲ請フトキ及土地臺帳ニ登錄スルトキハ其登録稅ヲ免除ス

(明治三十二年一月法律)
第一號ヲ以テ追加ス

第十九條 第十條及第十二條ノ處分ニ不服ナル者ハ訴願又ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

附 則

第二十條 此ノ法律ハ明治十九年閣令第十六號北海道土地拂下規則ニ依リ貸付中ノ土地ニ對シテモ之ヲ適用ス

但シ此ノ法律施行前牧畜ノ爲ニ貸付シタル土地ニ限リ五箇年以内貸付期間延期スルコトヲ得

第二十一條 此ノ法律施行ノ爲ニ必要ナル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十二條 明治十九年閣令第十六號北海道土地拂下規則及其ノ他此ノ法律ニ抵觸スル成規ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第二十三條 此ノ法律ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

○北海道土地拂下規則

○閣令第十六號

明治十九年
五月

北海道土地拂下規則

第一條 北海道官有未開ノ土地ハ本規則ニ依リ北海道廳ニ於テ之ヲ拂下クヘシ

第二條 土地拂下ノ面積ハ一人十萬坪ヲ限リトス但盛大ノ事業ニシ此制限外ノ土地ヲ要シ其目的確實ナリト認ムルモノアルトキ特ニ其拂下ヲ爲スコトアルヘシ

第三條 土地ノ拂下ヲ請ハントスル者ハ其書面ニ地名坪數並事業ノ目的著手ノ順序及成功ノ程度ヲ詳悉シ先ヅ其土地ノ貸下ヲ北海道廳ニ願出ツヘシ但耕地地ニ爲サントスル者ハ其坪數ヲ毎年ニ配當シ其成功期限ヲ詳記スヘシ

北海道廳ニ於テ其方法確實ナリト認ムルトキハ其土地ヲ貸下スヘシ但借地料ヲ徵收セス

第四條 貸下期限ハ十年以内トシ土地ノ景況ト事業ノ難易トニ依リ之ヲ定ム但牧場ハ貸下年限ノ滿限ニ際シ更ニ貸下延期ヲ必要トスルトキハ其願ニ依リテ之ヲ許可スルコトアルヘシ

第五條 耕地地ハ毎年其配當坪數ノ成功ヲ點檢シ又海産乾場及牧場ハ臨時事業ノ現況ヲ點檢スヘシ

第六條 耕地地ハ其年配當ノ事業成ラサルトキハ其成功シタル土地ヲ除キ其他ハ總テ返納セシメ海産乾場及牧場ハ第三條願出書ノ如ク成ラサルトキハ悉皆之ヲ返納セシムヘシ

天災地變其他避クヘカラサル事故アリテ成功セサルトキハ北海道廳ニ願出テ其指揮ヲ請フヘシ

第七條 貸下地ヲ返納セシメタルトキハ其地内ノ樹木ニシテ既ニ伐採シタルモノアレハ相當ノ樹木代價ヲ納メシムヘシ

第八條 貸下地ハ公益ノ爲メ必要アルトキハ其期限中ト雖モ之ヲ返納セシムルコトアルヘシ但此場合ニ於テハ其事業ノ爲メ既ニ費シタル費用ハ之ヲ辨償スルモノトス

第九條 貸下地ハ他人ニ讓渡スコトヲ得ス若シ不得止事故アリテ讓渡サントスルトキハ讓渡人讓受人連署ノ上北海道廳ニ願出テ其指揮ヲ請フヘシ但讓受タル土地ノ貸下期限ハ更ニ之ヲ定ムルコトアルヘシ

第十條 素地代價ハ千坪ニ付金一圓トシ成功ノ後之ヲ拂下クヘシ但其土地ハ拂下ノ翌年ヨリ二十箇年ノ後ニアラサレバ地租及地方稅ヲ課セス

第十一條 本規則施行手續ハ北海道廳長官之ヲ定ム

附 則

第十二條

(明治二十三年十二月)
閣令第八號ヲ以テ削除

第十三條 明治五年第三百四號公布北海道土地賣貸規則明治七年開拓使第四號布達明治十一年開拓使甲第四號布達ヲ廢止ス

○北海道地所規則

○開拓使布達第十二號

明治五年
十月十二日

北海道地所規則

第一條 永住ノ者居屋漁舍倉庫敷地或ハ社寺及墾成セシ從來ノ拜借地等自今更ニ經界畝數致改正永ク私有地ニ定メ地券相渡シ今

壬申歲ヨリ七年間除租ノ事

第二條 寄留人拜借地タリトモ既ニ開墾營構等致セシ分ハ是又其者ノ私有地ト定メ地券相渡シ除租前條ニ準ス可キ事

第三條 漁濱昆布揚毛更ニ經界相正シ永住人ハ私有地寄留人ハ當分依舊可爲拜借地事

但私有地拜借地トモ當壬申年ヨリ

第一類 國有未開地處分

三〇九

第四條 從來拜借地ヲ他人へ貸渡シ借主既ニ家倉營構致セシ者ハ寄留人ト雖モ借主私有可爲地事
 第五條 拜借中既ニ家倉致營構其後他人へ貸渡セシ者ハ貸主前條ニ準スル事
 第六條 永住寄留人共從來ノ拜借地券ヲ渡シ私有地ニ被下タルハ地代上納ニ不及事
 第七條 山林川澤從來土人等漁獵伐木仕來シ地下雖モ更ニ區分相立持主或ハ村請ニ改メ是又地券ヲ渡シ爾後十五箇年間除租地代ハ上條ニ準ス可シ尤深山幽谷人跡隔絶ノ地ハ姑ク此限ニアラサル事
 第八條 原野山林等一切ノ土地官屬及ヒ從前拜借ノ分目下私有タラシムル地ヲ除クノ外都テ賣下ク地券ヲ渡シ永ク私有地ニ申付ル事
 第九條 賣下ノ地一入十萬坪ヲ以テ限リトシ下手後十箇年除租タル可シ尤モ已ニ私有シタル地ヲ相對賣買スル者ハ其坪數制限ナカル可キ事
 第十條 賣下ノ地價上等千坪壹圓五拾錢中等同壹圓下等同五十錢千坪以下其割合タル可ク且其地代即納タルヘシト雖モ家屋中人以下或ハ罹災窮乏ノ者ハ三年乃至五年賦上納申付ル儀モ可有之事
 第十一條 既ニ私有スルノ土地ハ牧畜開墾等一切ノ産業ハ勿論他人へ賣却スルモ其地主ノ自由タルヘシ尤モ右等下手スル節ハ水利運便等ノ上ニ注意シ其方法及ヒ期限等詳細ニ可申出事
 第十二條 人民私有ニ屬スル土地ト雖モ外國人へ賣渡シ或ハ之ヲ引當トシテ金子ヲ借ル等禁止タルヘキ事
 第十三條 土地賣下ノ後開墾其他共上ノ地ハ十二箇月中ノ地ハ十五箇月下ノ地ハ二十箇月ヲ過ギ不下手者ハ上地申付ル事
 第十四條 官費募移ノ者開墾地完成ノ年ヨリ五箇年除租其後二年間租額ノ内十分ノ一爾後ハ全租ヲ納ムベヘキ事
 第十五條 從來永住ノ者及ヒ募移當壬申年ヨリ舉家限リヲ以テ三箇年間ニ開墾スル土地ハ年々墾成ノ分點檢ノ上地券相渡シ地代上納ニ不及事
 但自今後募移ノ農夫ハ移着後三箇年間本條ニ準ス可キ事
 第十六條 除租滿期後ノ制程ハ追テ其地ノ差等ニ依リ適當ニ可相定事
 第十七條 採鑛漁獵等都テ生産興工ノ見込アリテ出願スル者ハ其方法取調年限ヲ立貨地等ニ差出シ稅則ハ出品ノ精粗多寡ニ隨ヒ追テ適當ニ可相定事
 北海道土地賣買規則
 明治五年
 十月十日

第十八條 右等諸工業ノ新發明或ハ水陸運便等ニ費財盡力シテ國家人民ノ利ヲ興シタル者ハ其功業ノ大小輕重ニ因リ若干ノ土地ヲ付與シ或ハ專賣除租ノ營利ヲ與フル等ノ處置可有之事
 第十九條 函館及ヒ其近傍ノ地既ニ稅利定リタル分ハ此限ニ非ズ且漁業稅ノ儀各郡一般共當今從前ノ通タル可キ事

北海道土地賣買規則

○開拓使布達第三百四號

明治五年
十月十日

北海道土地賣買規則

第一條 原野山林等一切ノ土地官屬及從前拜借ノ分目下私有タラシムル地ヲ除クノ外都テ賣下地券ヲ渡シ永ク私有地ニ申付ル事
 第二條 賣下ノ地一入十萬坪ヲ以テ限リトシ下手後十箇年除租タルヘシ尤モ已ニ私有シタル地ヲ相對賣買スル者ハ其坪數制限ナカルヘキ事
 第三條 賣下ノ地價上等千坪壹圓五拾錢中等同壹圓下等同五十錢千坪以下其割合タル可ク且其地代即納タルヘシト雖モ家産中人以下或ハ罹災窮乏ノ者ハ三年乃至五年賦上納申付ル儀モ可有之事
 第四條 既ニ私有スルノ土地ハ牧畜開墾等一切ノ産業ハ勿論他人へ賣却スルモ其地主ノ自由タルヘシ尤モ右等下手スル節ハ水利運便等ノ上ニ注意シ其方法及ヒ期限等詳細ニ可申出事
 第五條 人民私有ニ屬スル土地ト雖モ外國人へ賣渡シ或ハ之ヲ引當トシテ金子ヲ借受クル等禁止タルヘキ事
 第六條 土地賣下ノ後開墾其他共上ノ地ハ十二箇月中ノ地ハ十五箇月下ノ地ハ二十箇月ヲ過ギ不下手者ハ上地申付ル事
 第七條 除租滿期後ノ制程ハ追テ其地ノ差等ニ依リ適當ニ可相定事
 第八條 採鑛漁獵等都テ生産興工ノ見込アリテ出願スル者ハ其方法取調年限ヲ立貨地等ニ差立シ稅則ハ出品ノ精粗多寡ニ隨ヒ追テ適當ニ可相定事
 第九條 右等諸工業ノ新發明或ハ水陸運便等ニ費財盡力シテ國家人民ノ利ヲ興シタル者ハ其功業ノ大小輕重ニ因リ若干ノ土地ヲ付與シ或ハ專賣除租ノ營利ヲ與フル等ノ處置可有之事右之通候事

○漁場及昆布場自費新開ニ關スル件

壬申九月

開拓使

○開拓使布第四號 明治七年
十二月十二日

當使管下北海道各所ニ於テ漁場並昆布場自費新開ノ分ハ自今其歳ヨリ五ケ年間免稅ノ上各所開業ノ難易所獲ノ多寡ヲ審査シ隣地ノ比較ヲ以テ第六ケ年日ヨリ相當ノ收稅可申付候條志望ノ者ハ夫々開業可致此旨布達候事
但地所ノ義ハ地所規則第三條ノ通相心得其歳ヨリ五年間除租タルヘキ事

○同 上

○開拓使甲第四號布達 明治十一年
五月八日

當使管下北海道各所ニ於テ漁場昆布場自費新開ノ分ハ五ケ年間免稅ノ義明治七年第四號^府第十四號^管内ヲ以テ及布達置候處開業ノ際斷岸ヲ削リ海汀ヲ埋メ河底ノ流水ヲ浚ヘ或ハ自然ノ地形ニ依リ各開設難易漁獲ノ多寡等頗ル徑庭可有之候ニ付自今實地ヲ精査シ更ニ二ケ年乃至五ケ年除稅候條此旨布達候事

第一類

○移 民

○北海道移住民規則

○內務省令第二十二號 明治三十九年
七月三日

北海道移民規則

(明治四十三年五月十六日)
(內務省令第二十號ヲ以テ改正)

第一條 開墾ノ目的ヲ以テ北海道ニ移住セントスルモノハ現住地ノ市區町村長ノ證明ヲ受クルコトヲ得但移住者ノ便宜ニ依リ郡長ノ證明ヲ受クルモ妨ナシ

第二條 削除

第三條 第一條ノ出願アリタルトキハ郡市區町村長ハ之ヲ調査シ確實ト認ムルモノニ限り證明ヲ與フヘシ

第四條 前條ノ證明ヲ有シ規約ヲ締結シテ團結移住ヲ爲サントスルモノノ爲メニ北海道廳長官ハ別ニ定メタル規定ニ從ヒ其出願ニ依リ開墾地ノ豫定存置ヲ爲スコトアルヘシ

第五條 證明ヲ受ケタル後一箇年ヲ經過シタルトキハ豫定存置ノ出願ヲ爲スコトヲ得ス

第六條 左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニアラサレハ府縣ニ於テ北海道ニ移住スヘキ小作人ヲ募集シ又ハ小作人ヲシテ北海道ニ移住セシムルコトヲ得ス

一、國有未開地ノ貸付賣拂許可書又ハ北海道廳長官北海道廳支廳長ノ證明書ヲ有スル本人又ハ代理人

二、北海道移住民ノ募集ヲ業トスルモノニシテ其ノ募集人員ニ付豫メ北海道廳長官ノ認可ヲ受ケ

タルモノ

第七條 當該官吏又ハ市町村吏員ヨリ前條ノ指令書ヲ示スヘキコトヲ命シタルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第八條 第六條第七條ニ違背シタル者ハ五拾錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第九條 第六條ニ依ル小作人ノ募集又ハ移住ヲ妨害シタル者ハ貳圓以上貳拾五圓以下ノ罰金ニ處ス

○北海道移住民渡航船舶取締規則

○内務省令第八號 明治三十一年八月

北海道移住民渡航船舶取締規則

第一條 北海道移住民一百名以上ヲ搭載セムトスル船舶ハ其都度左ノ事項ヲ掲記シ船長又ハ船舶所

有者ヨリ所轄警察署ヘ届出ヘシ其寄港及著港シタル場合亦同シ但シ一時間以内ノ寄港ニシテ移住民ヲ搭載セザル場合ハ此限ニアラス

一、船名 船籍地 登簿噸數 旅客定員 船舶所有者及船長ノ氏名

二、發航ノ日時 寄港地著港地及其日時

三、搭載スル移住民ノ員數船賃及貨物運搬賃

四、食料ノ種類及其ノ供給ノ方法

五、移住民又ハ回漕問屋旅人宿其他移住民渡航ヲ周旋スル者ト特別ノ契約アルトキハ其契約

第二條 前條ノ届出ヲ受ケタル警察署ハ直ニ其船舶ヲ臨檢スヘシ

第三條 前條ノ臨檢ヲ爲シタル警察署ハ第一條各號ノ事項及發航日時ヲ直ニ其寄港地及著港地ノ各

警察署ヘ通報スヘシ

第四條 第一條ノ船舶ハ第二條ノ臨檢ヲ受ケタル後ニアラサレハ發航スルコトヲ得ス

第五條 回漕問屋旅人宿其他移住民ノ渡航ヲ周旋スル者ハ移住民渡航ノ都度左ノ事項ヲ掲記シ所轄

警察署ヘ届出ヘシ但移住民十名以下ナルトキハ此限ニアラス

一、船名及發航日時

二、移住民ノ員數船賃及渡航周旋料又ハ手數料

三、移住民又ハ船舶所有者若ハ船長トノ契約

四、移住民ヲ投宿セシメタルトキハ其月日

第六條 前條ノ渡航周旋料又ハ手數料ヲ不當ナリト認ムルトキハ所轄警察署ハ之ヲ低減セシムルコトヲ得

第七條 回漕問屋旅人宿其他移住民ノ渡航ヲ周旋スル者正當ノ理由ナクシテ第五條ノ發航日時ニ移

住民ヲ出發セシメサルトキハ其出發延期ノ爲メニ生スル移住民ノ費用ヲ負擔スヘシ

第八條 回漕問屋旅人宿其他移住民ノ渡航ヲ周旋スル者第五條ノ船賃宿泊料渡航周旋料又ハ手數料

ノ外何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハス移住民ヨリ金錢又ハ物品ヲ受クルコトヲ得ス

第九條 左ニ掲クル事項ノ一ニ該當スル者ハ二十五日以下ノ重禁錮又ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

一、第一條ノ届出ヲ爲サスシテ航行シ又ハ同條若ハ第五條ノ場合ニ於テ虚欺ノ届ヲ爲シタル者

二、第四條ノ臨檢以前ニ發航シタル者

三、第五條ノ届出ヲ爲サスシテ周旋ヲ爲シタル者

四、第八條ニ違背シ金錢又ハ物品ヲ受ケタル者

五、船舶内ニ於テ天災其他避クヘカラサル事故ニ由ルニアラスシテ飲食物ノ供給ヲ怠リタル者

第十條 前條ハ商事會社ニアリテハ其所爲ヲ爲シタル業務擔當ノ任アル社員取締役又ハ使用人ニ之ヲ適用ス

北海道前田利一ノ汽船	五割引
北海道澤口庄助ノ汽船	同
北海道西出孫左衛門ノ汽船(生玉丸、榮久丸、福重丸)	同
北海道山崎松藏ノ汽船(隆陽丸)	同
北海道澤口啓藏ノ汽船(英航丸)	同
北海道佐藤一郎ノ汽船	同
北海道犬山慶五郎ノ汽船(札幌丸、鳥羽丸)	同
北海道大家善太郎ノ汽船	同
北海道上林回漕店扱ノ汽船	同
北海道泉谷回漕店扱ノ汽船	同
北海道島谷回漕店扱ノ汽船	同
北海道佐野回漕店扱ノ汽船	同
北海道大島商店回漕部扱ノ汽船	同
北海道藤野函館支店ノ汽船	同
北海道昌榮商會ノ汽船	同
北海道對島汽船部ノ汽船	同
北海道板村商船部扱ノ汽船	同
吉田回漕合名會社扱ノ汽船	同
丸一本間合名會社ノ汽船	同
合資會社佐藤商會ノ汽船	同

樺太汽船合名會社ノ汽船	五割引
噴火灣汽船株式會社ノ汽船	同
日高汽船株式會社ノ汽船	同
釧勝興業株式會社ノ汽船	同
板谷商船株式會社ノ汽船	同
安田商事合名會社運搬部ノ汽船(酒田丸)	同
幌泉汽船株式會社ノ汽船(帝淨丸)	同
室蘭運輸合名會社ノ汽船(いろは丸)	同
千島汽船株式會社ノ汽船	同
北海道産業合名會社ノ汽船(築紫丸)	同
壽部汽船株式會社ノ汽船	同

第三條 鐵道院所管ノ鐵道汽船ノ無賃及割引ハ左ノ區別ニ隨ヒ乗車船地ヨリ降車船地ニ至ル間トス

第一 五割引區間

乘 車 船 地

院線(德島線總武線北海道線ヲ除ク)各驛所

德島線各驛

總武線各驛(東武線成田線經由)

函館、俱知安、黑松内、岩内、中央小樽驛

院線連絡驛(青森室蘭間郵船航路經由)

院線連絡線驛

降 車 船 地

門司、下關、神戸、三ノ宮、大阪、湊町、平沼、横濱、直江津、青森及北海道線中央小樽以南各驛所
小松島驛

青森及北海道線中央小樽以南各驛

北海道線中央小樽以南各驛

室蘭驛

中越線伏木驛

第二 無賃區間

乘 車 地

中央小樽、札幌、岩見澤、室蘭、旭川、帶廣、釧路、留萌、網走驛

降 車 地

北海道線各驛但シ中央小樽以南ノ各驛ヲ除ク

東武線成田線若ハ郵便航路ヲ經由スル場合ハ連帶切符ヲ發賣ス

第四條 左ノ場合ハ乗車船地ニ於テ五割引區間ト無賃區間トヲ通シテ乗車乘船セシムヘキ乗車券ヲ發賣ス

乘 車 船 地

院線（德島線、總武線及北海道線ノ内中央小樽驛以北ノ各驛ヲ除ク）各驛所

降 車 船 地

北海道線各驛但シ中央小樽以南ノ各驛ヲ除ク

左ノ場合ハ乗車地ニ於テ社線ト院線トノ連帶切符ヲ發賣ス

乘 車 地

東武、成田、水戸、上武、川越線、各驛

駿豆線各驛

豊川線各驛

尾西、近江、河南線各驛

中越、中國線各驛

院線連絡驛

降 車 地

青森及北海道線中央小樽以南各驛

平沼又ハ横濱驛

神戸、大阪、平沼又ハ横濱驛

湊町驛

神戸又ハ大阪驛

中越線伏木驛

第五條 鐵道院所管ノ鐵道汽船ニ於テハ移住民ノ携帶品（家具及農具ノ類共）ハ總テ之ヲ手荷物トシ

テ取扱ヒ其ノ無賃制限外斤量ニ對シテハ普通手荷物運賃ノ五割引トス社線ト連帶ノ場合亦同シ但

シ第二條ノ無賃區間ニ限リ携帶品ハ總テ無賃トス

前項以外ノ鐵道汽船ニ於ケル手荷物制限外斤量ニ對スル運賃割引ハ第二條ノ例ニ依ル

第六條 割引券ハ避クヘカラサル事故ニ依リ滅失シタル場合ノ外再ヒ之ヲ下付セス

割引券ヲ所持シテ乗車セル移住民ニシテ移住ニ關シ北海道廳又ハ支廳若ハ移住民取扱事務所ノ指

示ヲ受ケンカ爲メ其ノ所在地ニ降車シタル場合ニ於テ移住地ヲ變更シ又ハ乗車切符ノ通用期限ヲ經過シタルモノアルトキハ北海道廳又ハ支廳若ハ移住民取扱事務所ハ更ニ移住地迄ノ割引券ヲ下付スルコトヲ得

第七條 當該官吏ニ於テ北海道移住民ニアラスシテ北海道移住民乗車船賃割引券ヲ携帶スル者ヲ發見シタルトキハ其ノ割引券ヲ沒收スルコトヲ得

第八條 割引券ノ様式左ノ如シ但シ當分ノ内從來ノ様式ニ依ル割引券ヲ使用スルコトヲ得

割引券様式

北海道移住民 乗車賃割引券 從何地 到何地	北海道移住民 乘車賃割引券 從何地 到何地	北海道移住民 乘車賃割引券 從何地 到何地	北海道移住民 乘車賃割引券 從何地 到何地
北海道移住者タルコトヲ 確認シテ本券ヲ下付ス	下付官 公署 長之印	何縣何郡何村字何番地 何職	何縣誰 何歲誰 何職誰
北海道移住民	三等	父 妻 何	何歲誰 何歲誰 何歲誰

表

北海道 割引券

内務省 地方局

三等

國 郡 村行

下付官 公署印

母

何歲誰

大正 年 月 日

長男

何歲誰

第 號 (急行券ヲ要スル急行車及優等級ノ車船室ニ乗ル場合ハ割引セズ)

右何人

北海道移住民 乘車賃割引券 從何地 到何地	北海道移住民 乘車賃割引券 從何地 到何地	北海道移住民 乘車賃割引券 從何地 到何地	北海道移住民 乘車賃割引券 從何地 到何地
--------------------------------	--------------------------------	--------------------------------	--------------------------------

第 號 官公署	第 號 官公署	第 號 官公署	第 號 官公署
大正 年 月 日 下付	大正 年 月 日 下付	大正 年 月 日 下付	大正 年 月 日 下付
取 扱 檢 査 印	携 帶 心 得	線路變更人員異動ニ付書換 下付ス	

一 本券ハ一家族中移住スヘキ者ニ對シ一枚ヲ下付スルモノトス
但家族人員多數ニシテ切離割引券ニ不足ヲ生スルトキハ二枚

付スルモノヲ除キ直ニ所屬官公署ニ分配スヘシ但臨時入用ノ場合ハ當該官公署(警察分署、町村役場ヲ除ク)ヨリ直接之ヲ内務省ニ請求スルコトヲ得

第四條 割引券ノ受拂ヲ爲シタル官公署ニ於テハ割引券受拂簿竝ニ下付簿ヲ設ケテ左ノ事項ヲ記入スヘシ

受拂簿ニ記入スヘキ事項

受入ノ年月日、員數竝ニ送越ノ官公署、拂出ノ年月日、分配及下付ノ員數、棄却ノ事由及員數竝ニ毎月末現在高

下付簿ニ記入スヘキ事項

券面ノ番號、下付ノ年月日、受領人ノ住所、身分、職業、移住ノ目的、氏名、年齡竝券面ニ記載シタル家族ノ名、年齡

○北海道移住民取扱員事務所設置ノ件

○内務省告示第七十一號 大正二年十一月十三日

北海道廳ニ於テ設置セル北海道移住民取扱員事務所ノ所在地分擔區域及開設期間左ノ如シ

明治四十三年^註内務省告示第三百二十四號ハ之ヲ廢止ス

設置箇所	開設期間	分擔區域
青森	自每年十一月十五日 至翌年五月三十一日	青森、岩手、宮城、福島、山形、秋田ノ六縣
品川	同	東京、神奈川、靜岡、愛知、岐阜、三重、山梨、長野、埼玉、群馬、栃木、千葉、茨城ノ一府十二縣
伏木	同	富山、石川、福井、新潟ノ四縣

〔京都、大阪、滋賀、奈良、和歌山、兵庫、鳥取、島根、岡山、廣島、山口、徳島、香川、愛媛、高知ノ二府十三縣及九州一圓〕

○北海道移住民取扱員心得

○北海道廳訓令第四十三號 明治四十三年五月十四日

北海道移住民取扱員心得

第一條 北海道移住民取扱員ノ取扱フヘキ事項左ノ如シ

- 一 北海道ノ狀況ヲ紹介スルコト
 - 二 移住手續ニ關スルコト
 - 三 移住調査ニ關スルコト
 - 四 移住者保護ニ關スルコト
 - 五 小作移住者ノ指導ニ關スルコト
- 第二條 北海道移住民取扱員ハ其ノ取扱事項ニ關シ北海道廳、府縣所屬ノ官公署ニ協商スルコトヲ得但シ重大ナル事件ハ此ノ限ニアラス
- 第三條 府縣出張中ノ北海道移住民取扱員ニシテ其分擔區域内巡回ノ必要アルトキハ豫メ日程ヲ定メ認可ヲ受クヘシ
- 第四條 取扱タル事項中重大ナルモノ及分擔區域内巡回ニ關シテハ其ノ都度即報シ其他ハ月報トシ翌月十日迄ニ報告スヘシ

○北海道移住民事務取扱手續

○訓第六百三十七號 明治四十三年（大正元年十一月二日）
五月十四日（訓第二十三號ヲ以テ改正）

北海道移住民事務取扱手續

第一條 府縣出張中ノ北海道移住民取扱員ハ農閑ノ時期ヲ利用シ分擔區域内必要ト認ムル個所ヲ巡回シ北海道ノ狀況ヲ紹介スルト共ニ移住手續等ヲ講話シ以テ北海道ノ真相ヲ闡明スルニ努ムヘシ
第二條 北海道移住民取扱員事務所ニ於テハ特定地及賣貸地ノ圖面ヲ備ヘ且ツ其ノ氣候、地味、地形交通及附近農況其他移住ニ關スル狀況ヲ精査シ説明ノ材料ニ供スヘシ

第三條 削 除

第四條 削 除

第五條 北海道移住民取扱員事務所ニ於テ單獨又ハ團體移住若クハ未開地賣拂希望ノ申出ヲ受ケタルトキハ直ニ調査ノ上確實ニ起業スヘキ見込アルモノハ左ノ各號ニ依リ取扱フヘシ
一、單獨移住者ニ對シテハ未開地貸付願書ヲ所轄支廳ヘ提出セシムルト同時ニ其ノ希望地ノ地名、地番、地積及原籍氏名ヲ所轄支廳ニ通報スヘシ

二、團結移住者ニ對シテハ其ノ希望地ノ地名、地番、地積及原籍氏名並總代人ノ氏名ヲ拓殖部ニ報告スルト共ニ貸付地豫定存置願書ヲ進達スヘシ

三、未開地賣拂希望者ニ對シテハ未開地賣拂願書ヲ所轄支廳ニ提出セシムルト同時ニ其ノ希望地ノ地名、地番、地積及原籍氏名並職業資産等處分上參考トナルヘキ事項ヲ所轄支廳ニ通報スヘシ

第六條 所轄支廳ニ於テ前條第一號ノ通報及未開地貸付願書ヲ受ケタルトキハ調査ノ上貸付處分ヲ

爲スヘシ

拓殖部ニ於テ前條第二號ノ報告及貸付地豫定存置調書ヲ受ケタルトキハ豫定存置ノ處分ヲ爲スヘシ所轄支廳ニ於テ前條第三號ノ通報及未開地賣拂願書ヲ受ケタルトキハ調査ノ上支廳處分ニ屬スルモノハ賣拂ノ處分ヲ爲シ本廳處分ニ屬スルモノハ北海道移住民取扱員事務所ノ通報書ヲ添付シ意見ヲ具申スヘシ

第七條 前條ニヨリ處分ヲ爲シタルトキハ拓殖部又ハ支廳ヨリ北海道移住民取扱員事務所ニ通知スヘシ

第八條 北海道所在ノ農場主ヨリ北海道移住民取扱員事務所ヘ小作募集ニ關スル照會アリタルトキハ小作契約要項及農場ノ氣候、地味、地形、交通、狀況等ヲ詳記シタル書類及圖面ヲ提出セシメ小作希望者ニ閱覽セシムルト共ニ之カ説明スヘシ

第九條 前條ニ依リ北海道移住民取扱員事務所ニ於テ小作ノ申込ヲ受ケタルトキハ移住スヘキ者ノ原籍、氏名、家族數等ヲ其ノ農場主ヘ通知スルヲ要ス

第十條 同時ニ百名以上ノ移住者出發スルトキハ出發地ノ北海道移住民取扱員事務所ヨリ拓殖部及寄港又ハ通過スヘキ地ノ北海道移住民取扱員事務所ニ急報スヘシ

○團結移住規約標準

○本廳決議 明治四十三年
五月一日

團結移住者規約標準

移住ノ目的

第一條 何府何國何市郡區何町ノ住民何十戸ヲ以テ團結ヲ組織シ北海道ニ移住シテ專ラ農業(若クハ主トシテ耕作ニ從事シ傍ラ養蠶)ニ從事シ自作農トナルヲ以テ目的トス

移住者ハ北海道ニ永住スルノ目的ヲ以テ轉籍スルモノトス

△ 移住ノ戸數

第二條 本團體ハ何誰以下何名ヨリ成立シ猥リニ異動ヲナサ、ルモノトス

第三條 本團體員ハ北海道廳ヨリ指定セラレタル期間内ニ貸付豫定地ニ移住シ直チニ各戸ヨリ移住届ヲ添ヘ未開地貸付願ヲ北海道廳ヘ差出スモノトス

△ 團體員ノ權利義務

第四條 本團體ハ各戸同一ノ權義ヲ有スル自作農ニシテ土地貸付期限中ハ小作ヲ爲サ、ルモノトス但シ開墾準備ノ爲食料トシテ穀菜ヲ耕作スルハ此限りニアラス

第五條 移住者ハ勤儉ヲ旨トシ決シテ奢侈ニ涉ルコトヲ爲ス可ラス移住ノ翌年ヨリ協議ノ上應分ノ金品ヲ貯蓄シ凶荒又ハ公共ノ用ニ供スルモノトス

但シ貯蓄ノ品金ハ協議ノ上最モ確實ナル方法ヲ設ケ總代人ヲシテ之ヲ保管セシム

第六條 習慣ノ善良ナルモノハ之ヲ普及シ否ラサルモノハ之ヲ矯正スルコトヲ務ムヘシ殊ノ左ニ各項ヲ遵守スルモノトス

一、常ニ共同團結ノ氣風ヲ養成シ公德ヲ重スヘシ

二、喧嘩口論博奕ヲ爲スヘカラス

三、祝祭弔慰ノ外猥リニ集會酒宴ヲ開クヘカラス

四、冠婚葬祭其分ニ超ユヘカラス

第七條 移住者中疾病ニ罹リ若クハ不時ノ災害ヲ被リタルトキハ相互ニ救護ヲ爲スハ勿論万一開墾ノ進捗ヲ妨ケ起業方法書ノ如ク土地ヲ成功セサルノ虞アルトキハ相協力シテ豫期ノ功程ヲ舉ケシムヘシ

第八條 移住ニ要スル費用ハ各自ノ負擔トシ道路、橋梁、用惡水路ノ開修ハ共同負擔トス

總代人ニ關スル規程

第九條 便宜上團體中ヨリ互撰ヲ以テ何某ヲ總代人(二名以内)トシ左ノ事項ヲ取扱ハシム

一、土地ノ撰定ヲナシ並ニ貸付其他ニ關シ官廳ヘ諸願届等ニ關スル件

二、公達命令傳達ノ件

三、貯蓄ノ金品保管ノ件

四、規約違反者處分執行ノ件

第十條 總代人ハ前條第一號ノ權限ヲ他ニ委任スルコトヲ得但シ因テ生シタル損害アルトキハ總代人ノ責任トス

規約違反處分事項

第十一條 本規約ニ違背シ若クハ左記ノ一ニ該當スルモノアルトキ衆議ノ上總代人ヨリ一應説諭ヲ加ヘ猶改メサル時ハ輕キハ何圓乃至何圓ノ違約金ヲ徴シ重キハ本團體ヨリ除名スルモノトス

一、故ナク開墾ニ從事セサルモノ

二、他ニ轉居スル者

三、自己ノ名義ヲ以テ他人ヲ入地セシメタル者

四、農期間他人ヲ誘導シ出稼ヲ爲ス者

五、相互救護ノ義務ヲ果サ、ルモノ

六、團體ノ平和ヲ紊亂スルノ虞アルモノ
七、團體ノ面目ヲ汚スヘキ行爲アルモノ

雜則

第十二條 違約金ハ他ノ貯蓄ト共ニ保管シ團體ノ公共事業ニ費消スルモノトス
第十三條 除名者ノ貯蓄シタル金品ハ之ヲ返付セサルモノトス
第十四條 本規約ノ改正ヲ必要トスル場合ニハ全戸數三分ノ二以上ノ同意アルニ非サレハ改正スルコトヲ得ス但シ北海道廳ノ認可ヲ得ルニアラサレハ實施セサルモノトス
第十五條 團體者各自本規約ヲ是認シ之ヲ履行スヘキコトヲ誓ヒ茲ニ記名捺印スルモノナリ

明治 年 月 日

住所

團體員	氏	名	印
移住家族	同	名	名
團體員	同	氏	名
移住家族	同	名	名
同	同	名	名
同	同	名	名

注意

團結規約書ハ二通ヲ製シ一通ヲ豫定存置願ニ添付提出スヘシ且ツ三錢印紙ヲ貼付スヘシ
○移民保護ニ關スル件
○拓殖部長ヨリ各支廳長へ通牒 明治四十三年五月十四日 拓殖部 第九六六號

農業目的ヲ以テ渡來ノ移住者ニ對シ左ノ事項御取調ノ上實行相成度

一 農具家具其他日用品並ニ農作種子物ノ供給者ヲ定メ置クコト
移住者ノ農具家具其他日用品等ハ其移住地附近ノ商店ニ於テ之ヲ購求セサルヘカラサルハ論ヲ俟タサル所ナリ然ルニ本道ノ事情ニ通曉セサル彼等移民ニシテ偶々奸商ノ爲メニ暴利ヲ貪ラレ又ハ粗雑ナル器具ヲ買入ル、トキハ多カラサル所持金ハ忽チニシテ消費シ事業未タ成ラサルニ其資金ニ窮スルニ至リ移民ノ保護上實ニ遺憾トスルコトニ有之候ニ付確實ナル商店ヲ撰ミ成ルヘク安價ニシテ且ツ實用ニ適スル器具及物品ヲ販賣セシムル様豫メ調査ヲ遂ケ其商人ニ豫約シ置クノ必要ヲ感シ條候直ニ相當御措置相成度

二 支廳所在地ニ安價ナル旅宿或ハ他ニ適當ナル宿泊所ヲ設クルコト

移民ノ多クハ薄資ニシテ開墾スヘキ土地ニ到着スルマテノ入費ハ努メテ之ヲ節約セントスルモノナリ然ルニ土地ノ貸付又ハ賣拂ヲ受ケンカ爲メ所轄支廳ニ出頭シ其手續ヲ爲サントスルニ當リ旅店ニ滞在スルトキハ尠カラサル金錢ヲ費シ彼等移民ヲシテ苦痛ヲ感セシムルカ故ニ豫メ一定ノ宿泊所ヲ設ケ自炊器夜具等ヲ設備シ滞在中之ニ宿泊セシムルヲ得ハ其便宜少ナカラサル次第ニ候得共之ヲ實行シ難キ事情モ有之候ニ付最モ誠實且ツ安價ナル旅店ニ豫約シ置キ之ニ宿泊セシムルノ方法ヲ講シ尙多數ノ移民宿泊ノ場合ニハ寺院其他適當ノ個所ヲ撰ミ宿泊セシムル等可及的費用ヲ減セシメ移民ヲ保護致度ト存候條夫々御取運置相成度
右依命及通牒候也

○多數團結移住民取扱ノ件

○拓殖部ヨリ 青森 函館 移住民取扱員事務所へ通牒 明治四十四年四月一日 電 信

罹災民以外ノ移住民ニ在テモ多數團結シテ渡道スル場合ハ其戸數人員移住地總代人名等ヲ當廳並ニ移住地ヲ管轄スル支廳ニ電報アリタシ

○新來移住民取扱ニ關スル件

○拓殖部長ヨリ各支廳長へ通牒 明治四十四年四月六日 拓殖第四一三三號

移住民ニ對シテハ簡易迅速ナル取扱ヲナシ速ニ立脚地ヲ與ヘ不安ノ念ヲ抱カシムルナカラシムコトヲ期スヘキ事ハ今般御訓達ノ次第モ有之候處尙ホ移住民ノ多クハ資金多額ナラサルヲ以テ宿泊料貨物輸送並ニ食料品農具種子類ハ成ルヘク低廉ニシ其費用ヲ省クノ必要有之候條豫メ營業者ト特約ヲ結ヒ是等移住民ニ對シテハ出來得ル限りノ割引ヲナサシメ又タ其移住地ニ入ルニ當リテハ隣佑相助ノ趣旨ニ依リ村長始メ村民等モ共ニ同情ヲ以テ十分助力ヲ與ヘシメ慰安ノ途ヲ授クル等移住民保護ノ趣旨ニ副フ様充分御注意相成度依命此段及通牒候也

○拓殖部長ヨリ各支廳長へ通牒 明治四十四年四月十九日 拓殖第四一三三號

本月六日拓殖第四一三三號ヲ以テ新來移住民取扱ニ關シ及通牒候處該通牒中今般御訓達ノ次第モ有之云々トアルハ本月十七日拓親第七一號通牒ヲ指シタル儀ト御承知相成度此段申進候也

○移住獎勵保護ニ關スル件

○拓殖部長ヨリ各支廳長へ通牒 明治四十四年四月十七日 殖親第七一號

本道移住民問題ニ就テハ移住者減少云々ノ事昨年來新聞紙上ニ喧喧セラレ朝野ノ一疑問トナリシモ昨年下半年期以來移住ノ成績頗ル良好ナルノミナラス昨年府縣水害罹災民ニ對シテ政府ニ於テ補助ヲ與ヘ移住セシムルコトナリタルニ依リ今般特定地ニ對スル希望者ハ續々移住スルノ趨勢ヲ見ルニ至レ

リ故ニ團體移住者若シクハ自作小農移住者ニ對シテハ出來得ル限り迅速ニ其目的ノ場所ニ配置シ以テ不安ノ念ヲ懷カシムルコトナカラシメ又豫メ各支廳間互ニ連絡ヲ保チ若シ確實ナル移住民ニシテ收容スヘキ適當ノ土地ナキ場合ハ證明ヲ與ヘ他支廳ニ移牒シテ速ニ其ノ堵ニ安ンセシムル等移民保護上遺漏ナキヲ期スヘキハ勿論支廳長町村長若クハ部落ノ主ナル者ハ時々新移住部落ヲ巡視シ懇切鄭寧ニ彼等ヲ指導獎勵スル等專ラ注意ヲナスヘキナリ

然ルニ大小地主ノ收容スヘキ小作農ニ於テハ比較的渡道者少ナシ是レ蓋シ東洋拓殖會社等ニ於テ募集ノ結果滿韓地方ニ吸收セラルルノ影響ナキニアラサルモ畢竟各地主ハ居ナカラ小作物ヲ地元ニ於テ競争的ニ雇人レントスルノ通弊アリテ之レカ爲メニ小作人ハ安ンシテ其ノ耘耕ニ從事スル能ハサルニ原因スルコト大ナヘシ依テ今後地主ニ於テ地主會ヲ組織シ小作農招來ノ方法ヲ定メ若ハ特ニ大地主ニ内諭ノ小作農募集ノ方法ヲ獎勵シ例ヘハ一 渡道旅費ノ全部若ハ幾分ヲ給シ、二 食料、肥料、種子代等ヲ貸付若ハ給與シ、三 農具家畜等ヲ貸與シ、四 開墾中ハ幾分ノ日給若ハ月給又ハ開墾料ヲ給シ、五 開墾ノ後土地ノ幾分ヲ附與シ若ハ實費ヲ以テ賣渡ノ契約ヲ爲サシムル等要スルニ無資ノ農民ヲシテ比較的簡易ノ方法ニ依リ安心以テ農業ニ精勵セシムヘキ途ヲ執ラシムルハ最モ緊要ニシテ機宜ニ適シタル處置ナリトス

○移住民取扱方ニ關スル件

○北海道廳訓令第二十二號 明治三十六年 三月二十日 支廳警察署 同分署 區役所 町村役場 戸長役場

拓殖ノ實ヲ舉ケント欲セハ主トシテ之レヲ移住民ニ待タサルヘカラス故ニ移住民ニ對シテハ其團體

移住タルト單獨移住タルトヲ問ハス充分ノ保護ヲ與ヘテ之レヲ獎勵スルハ本道ノ開發上一日モ忽諸ニ付スヘカラサルコトナリ之レヲ以テ從來種々ノ規定ヲ設ケテ移住ニ便ナラシメタルモノハ畢竟此ノ趣旨ニ出タルニ外ナラス然ルニ今移民ニ對スル待遇ノ實況ヲ視ルニ多クハ上陸地ニ於テノミ稍々懇切ナルモ漸ク目的地ニ進ムニ從ヒ其待遇ハ愈冷淡ニ流ル、ノ傾向ナキニアラス斯クテハ移住獎勵ノ趣旨ニ悖リ本道ノ開發ヲ妨クルコト實ニ尠少ニアラサルヲ以テ爾今上陸地ト否トヲ問ハス充分ノ保護トヲ與ヘ移住民ヲシテ安ンシテ其緒ニ就カシメ左ノ各號ニ付テハ特ニ注意ヲ加ヘ適宜方法ヲ設ケテ其實行ヲ努ムヘシ

- 一 移住民宿泊ニ供スヘキ旅人宿ニハ豫メ待遇上ノ注意ヲ與ヘ殊ニ宿料ニ注意スルコト
- 二 驛傳並解業者ヲシテ運搬ヲ迅速確實ナラシメ殊ニ賃錢ニ注意スルコト
- 三 鐵道乗車中ノ待遇及乗降ノ取扱ニ注意スルコト
- 四 回漕問屋旅人宿其他移住民ノ渡航ヲ周施スル者ノ移住民ニ對スル行動ヲ監視スルコト
- 五 移住民就産ノ途ヲ確實且ツ容易ナラシムルコト
- 六 其他旅費ヲ節約セシメ且ツ途中ノ安全ヲ與フルコト

○移住民二十人以上共同工事請負ニ關スル件

○勅令第三十七號 明治三十一年三月

北海道廳ニ於テ殖民地トシテ選定シタル區域内ニ於ケル道路橋梁排水工事ハ其區域内ノ移住民二十人以上ノ共同請負ニ限り隨意契約ヲ以テ請負シムルコトヲ得

○北海道移住ハ二箇年間戸數割ヲ賦課セサル件

○法律第三號 明治三十四年三月二十八日

北海道地方費法

(抄録)

第六條 戸數割ハ北海道移住民ニシテ主トシテ耕作又ハ牧畜ノ事業ニ引續キ從事シ移住ノ日ヨリ三年ヲ經過セサル者ニハ之ヲ賦課セス

○移民狀況報告ノ件

○殖民部長ヨリ函館、小樽、室蘭、河西廳長通牒明治三十五年四月十一日殖第一七四二號

移住民取扱上必要ニ有之候條自今左ノ條項ニ據リ前月ニ於ケル上陸移住民大体ニ就キ湊合シタル狀況ヲ其翌月五日迄ニ報告相成度長官經伺此段及通牒候也
但シ本年一月ヨリ三月末日迄ノ分ハ合併本月廿五日迄ニ報告相成度候

一、移住民ノ狀況

二、移住ノ原因

三、一船ニ百名以上上陸シタル時ハ其船名人員上陸月日並ニ出發地行先地等ノ梗概

四、上陸地ニ於テ移住民ニ對スル特殊ノ待遇並ニ設備

五、移住民ニ對シ官民共ニ注意ヲ要スル事項

○移住民旬報ノ件

○北海道廳訓第五十二號 明治四十年十二月三日

明治三十四年訓第八十號移住民上陸調ヲ移住民旬報ト爲シ其様式ヲ別紙ノ通り改メ明治四十一年一月一日ヨリ施行ス

(甲號) 注意 寄港又ハ通過移民ノ旬報ニハ上陸ノ二字ヲ相當更正スヘシ

上陸移住民旬報

第

回

自

月

日

三四二

港

種別	府縣別	戸	人口		農業人員	外農以	府受割引人員	府縣當廳	有證明書者	荷物數
			男	女						
東京										
京都										
大阪										
神奈川										
兵庫										
長崎										
新潟										
埼玉										
群馬										
千葉										
茨城										
栃木										
群馬										
愛知										
靜岡										
山梨										
滋賀										
岐阜										
長野										
富山										
石川										
福井										
秋田										
山形										
青森										
岩手										

種別	府縣別	戸	男	女	農業人員	外農以	府受割引人員	府縣當廳	有證明書者	荷物數
東京										
京都										
大阪										
神奈川										
兵庫										
長崎										
新潟										
埼玉										
群馬										
千葉										
茨城										
栃木										
群馬										
愛知										
靜岡										
山梨										
滋賀										
岐阜										
長野										
富山										
石川										
福井										
秋田										
山形										
青森										
岩手										

○號北海道移住民員數報告ノ件ハ之ヲ廢止ス

○移住民取扱ニ關スル規程廢止ノ件

○內務省訓令第二十八號 大正元年十一月十六日

北海道廳、府縣

明治二十八年^{四月}內務省訓令第四號市町村ニ設置スヘキ避病院設備標準、明治三十六年^{正月}同第十三號市區ニ於ケル出生死亡死産數等報告方ノ件明治三十九年^{正月}同第十八號北海道移住民ニ關スル規程ハ之ヲ廢止ス

第三類

●官有地處分

○官有地特別處分規則

○勅令第三百二十五號 明治二十三年七月

官有地特別處分規則

第一條 內務大臣ハ左ノ場合ニ限リ官有地ヲ競争ニ付セス隨意ノ契約ヲ以テ貸渡又ハ賣渡スルコトヲ得

一 直接公用ニ供スル爲又ハ公共ノ利益トナル事業ノ爲府縣郡市町村及公共組合又ハ其他ノ起業者ニ官有地ヲ貸渡又ハ賣渡ストキ

二 不用ニ屬スル官有地ニシテ其評定價格四百圓以內坪數六百坪未滿ノモノヲ賣渡又ハ其貸渡料一箇年四十圓以內貸渡期限五箇年以內ノモノヲ貸渡ストキ但望人二名以上アルトキハ此限ニアラス (明治三十九年八月勅令第二二二號ニ依リ更正)

三 鑛山ニ於ケル鑛物運搬道路冷溫泉場ニ於ケル汲泉場又ハ導泉敷地ノ如キ官許ヲ與ヘタル主タル事業ニ直接付隨シ必要缺クヘカラスト認メタル官有地ヲ其事業者ニ貸渡又ハ賣渡ストキ

四 會計法施行以前土地ノ形質ヲ變更シ又ハ建物ヲ建設スルカ爲メ貸渡シタル官有地ヲ其借地人ニ賣渡シ又ハ引續キ貸渡ストキ

第二條 直接公用ニ供スル官有地ヲ特ニ府縣郡市町村又ハ公共組合ノ直接公用ニ供スルトキハ借地料ヲ徵收セサルモノトス

第三條 府縣郡市町村又ハ公共組合ニシテ直接公用ニ供スル官有地ノ修理保存費ヲ負擔スルモノハ其直接公用ヲ廢スルトキ官有財産管理上必要ノモノヲ除外之ヲ其費用負擔者ニ無代下付ス府縣市郡町村又ハ公共組合ニ於テ其土地ヲ賣拂ハントスルトキハ隣接地主ハ先買ノ權ヲ有スルモノトス

第四條 北海道官有未開ノ土地並官有森林原野ニハ本令ヲ適用セス

○名所古蹟保存方ノ件

○大藏省布達第五十三號 明治五年四月 先般荒蕪除地等拂下ノ儀公布相成候ニ付テハ各地方古來ヨリ聲譽ノ名所古蹟等ハ素ヨリ國人ノ賞觀愛護スヘキ者ニ付右等ノ場所ハ叨リニ破壞伐木セサル様篤ト注意可致事

○官沒地ハ再公賣ヲ要セサルノ件

○内務省訓令第四〇九號 明治十九年六月十日 官沒地ハ公賣ニ付スヘキハ勿論ナリト雖モ一旦公賣ニ付シ望人ナキ場合ニ於テハ他日再公賣手續ヲ爲スニ及ハス相當代價ヲ以テ拂下苦シカラス處分濟届出ラルヘシ

○官有地ハ縁故ヲ以テ拂下ケサル件

○内務省訓令第七十四號 明治二十三年三月 官有地ヲ開墾シ又ハ民有地ニ接續スル狹隘ノ官有地ヲ利用スルノ目的ヲ以テ其土地及其地上ノ立竹木ヲ併セ拂下ヲ願ヒ又ハ既ニ借用セル官有地ヲ其縁故ヲ以テ拂下ヲ願フモノハ從來特ニ許可シ來リ候處本年四月一日以後ハ明治二十二年法律第四號會計法第二十四條ニ依リ總テ競争ニ付ス可キ筈ニ付右特別拂下貸下及下付ニ係ルモノハ一旦本省ノ指令ヲ得タルモノト雖モ本年三月三十一日マテニ

其應ヨリ許可ノ指令ヲ發セル分ハ總テ之ヲ停止スヘシ

○區町村ノ出願ニ係ルモノハ保證人ヲ要セサル件

○殖民部長ヨリ各郡區長へ通牒 明治三十年五月二十四日殖地第五八四號 官有土地水面ノ貸付又ハ使用等ニシテ區町村ノ出願ニ係ルモノハ自今保證人ヲ要セサルコトニ應議相決シ候條此段及通牒候也

○官有地拂下坪數制限ニ關スル件

○兵庫縣知事伺乙第三百六十八號 明治二十四年八月十八日 管下攝津國菟原郡都賀野村ノ内味泥村字中濱新田一番ヨリ四番マテ字西濱新田一番官有濱地都合五箇所 一箇所何レモ百五十坪以内 此合計代金四十六圓三十錢 一段歩ニ付三十圓ノ割 ニテ拂下ノ儀客年九月十七日庶甲二〇號ヲ以テ伺出同年十一月一日甲第一五〇號ヲ以テ競賣ニ付スヘキ旨御指令相成候其後都合ニテ處分見合セ居候處即今他ニ處分スヘキ分ト共ニ夫々處分ノ見込ニ有之然ルニ右ハ一箇所ノ地坪百五十坪以内ニシテ拂下代金前記ノ如ク特別處分規則ノ範圍内ニ有之殊ニ本願ハ伺面ニモ縷陳セシ如ク何レモ隣地主ニシテ其事柄タル間接ニハ道路ヲ安全ニ維持シ一ツハ村費ヲ裨補スル等ノ主意目的ナレハ特別處分規則ノ範圍内ニテ拂下許可ノ儀ヲ伺出タル義ニ有之右ハ何ニカ他ニ御詮議ノアルアリテ競賣ニ付スヘキ旨御指令相成タル儀ニ候哉前記ノ如ク未タ處分不致ニ付此際客月二十四日訓令第十四號第七項ニ據リ競争ニ付セス特賣處分致シ可然哉此段相伺候也

○内務大臣回答 明治二十四年八月二十八日

本年八月十八日乙三六八號伺地所拂下ノ件ハ最前指令ノ通心得ヘシ

但一箇所トハ縦令筆數數筆ニ涉ルモ連續シタル一區域内ノ土地ハ總テ一箇所ニ付之ヲ分裂シテ官有地特別處分規則ノ坪數制限ヲ通ル、コトヲ得ス

○町村學校病院等ノ基本財産目的ハ官有地特別處分規則

第一條一項ニ依ルヲ得サル件

○長官ヨリ庶務局長ヘ照會 明治二十八年九月二十六日 内地 第一三九六號
町村又ハ公立學校若クハ公立病院等ノ經濟ヲ維持スルノ必要ニ由リ其基本財産ニ供スルノ目的ヲ以テ官有宅地畑地等ノ貸渡若クハ賣渡ヲ郡區町村ヨリ出願シタルトキハ之ヲ公共ノ利益トナル事業ニ供スルモノト見做シ明治二十三年勅令第三百三十五號官有地特別處分規則第一條第一項ニ依リ處分スルコトヲ得ヘキヤ否至急何分ノ御回答煩度此段及照會候也

○内務省庶務局長回答 明治二十八年十月二日 地 第一二四〇號

本年九月二十六日内地第一三九六號ヲ以テ町村又ハ公立學校病院等ノ基本財産ニ供スルカ爲メ官有地ヲ賣貸スルハ官有地特別處分規則第一條第一項ニ依リ得ヘキヤ否ノ件御照會之趣了承右基本財産ニ供スルカ如キハ該條項ニ依ルヲ得サル儀ト存候此段回答候也

○市街地ノ解釋ニ關スル件

○拓殖部長ヨリ各支廳長ニ通牒 大正三年五月十九日 拓殖 第三六二三號

支廳長委任事項第四十八ノ市街トハ最近官報人口表ニ掲クル區町村ヲ指スコト、相成居候處自今右市街トハ區町、村落トハ其ノ他ヲ指スコトニ決定相成候條御了知相成度此段及通牒候也

○官有地特別處分規則第一條第二項適用方ノ件

○内務大臣官房庶務課長通牒 明治三十二年九月二十日 兵 甲 第二三五號

官有地特別處分規則第一條第二項ノ規程適用方ニ關シテハ從來各地方ニ於テ往々疑義伺出其都度指令通牒等相成候處今般更ニ決定相成候趣モ有之旁自今左記ノ趣旨ニ依リ處理相成可然爲念此段及通牒候也

追テ稟伺ヲ要スヘキモノト貴廳限リ處分スルコトヲ得ヘキモノトノ區分ハ總テ從前ノ通ニ有之候此段申添候也

第一 官有地一箇所(一箇所トハ假令筆數ハ數筆ニ涉ルモ連續シタル一區域ノ土地ヲ云フ)ノ坪數百五十坪以上ニシテ其賣拂價格貳百圓以上ナル場合又ハ一箇所(同上)ノ貸渡料五圓以上ナル場合ニ於テハ如何ナル理由ナルヲ問ハス之ヲ分割シテ官有地特別處分規則第一條第二項ニ依リ賣拂又ハ貸渡スコトヲ得ス

第二 官有地一箇所(同上)坪數百五十坪以下ニシテ其賣拂價格貳百圓以下ナル場合又ハ官有地一箇所(同上)ノ貸渡料五圓以下ナル場合ニ於テ之ヲ數區ニ分割シテ處分スルノ必要アルトキハ左ノ通

甲 分割シタル各區ヲ舉ケテ同時ニ處分スルトキハ官有地特別處分規則第一條第二項ニ依リ賣拂又ハ貸渡スコトヲ得

乙 分割シタル各區中ノ一又ハ數區ノミヲ處分セントスルトキハ其事情己ムコトヲ得サルモノアリテ且殘地ノ價格ニ影響ヲ及ホスヘキ虞ナキモノニ限リ該條項ニ依リ賣拂又ハ貸渡スコトヲ得

○同上移牒ノ件

○殖民部長ヨリ各支廳長ヘ通牒 明治三十二年十月六日 殖拓 第四〇〇五號

明治二十三年勅令第三百二十五號官有地特別處分規則第一條第二項ノ規程適用方ニ關シ今般其筋ヨリ左記(左記トハ前文庶務課長兵)ノ通決定ノ趣ヲ以テ通牒有之候ニ付爲念此段及移牒候也

○小學校紀念殖林ニ供スル土地處分方ノ件

○殖民部長ヨリ各支廳長へ移牒 明治三十七年十一月十六日 殖拓第四七五二號

戰時經營ノ一事業トシテ小學校紀念殖林地處分方ニ付官有地特別處分規則第一條第一號ノ範圍内ト認メ可然旨左記ノ通り埼玉縣知事照會ニ對シ其筋ニ於テ回答ノ儀通牒有之候ニ付キ爲御心得及移牒候也

左記

○理甲一〇號ノ内

別紙埼玉縣知事照會及之ニ對スル回答共爲御心得及通牒候也

明治三十七年十一月七日

內務大臣官房地理課長 大谷靖

北海道廳長官男爵園田安賢殿

○二收第二〇四六號

直接公用ヲ廢シタル官有地ヲ戰時經營ノ一事業トシテ小學校紀念殖林ニ充ルノ目的ヲ以テ其所在町村又ハ町村ノ一已若クハ學校組合等ヨリ拂下ヲ受ケントスルトキハ官有地特別處分規則第一條第一號ノ範圍内ト認メ可然哉疑義相生シ候間何分ノ御回示ヲ煩ハシ度此段及問合候也

明治三十七年十月十二日

內務大臣官房地理課長大谷靖殿

埼玉縣知事 木下周一

○戰時紀念殖林目的ニテ官有地拂下處分ノ件

○理甲第一〇號

本年十月十二日二收第二〇四六號ノニヲ以テ問合相成候官有地特別處分規則第一條第一號ノ範圍ニ關スル件ハ御見込ノ通りニテ可然ト存候經伺ノ上此段回答候也

明治三十七年十一月七日

內務大臣官房地理課長 大谷靖

埼玉縣知事木下周一殿

○第五部長ヨリ各支廳長へ移牒 明治三十九年五月四日 五地第九四〇號

官有地ヲ町村ニ於テ戰時紀念ノ殖林ニ供スル目的ニテ拂下出願ノ場合法規ノ適用方ニ付キ別紙之通牒有之候間爲御心得及移牒候也

(別紙)

庶發第五十三號

官有地特別處分規則第一條一號範圍内ニ關スル件ニ付去ル三十七年十一月七日理甲第一〇號ノ内御通牒ノ次第モ有之候處戰事紀念ノ一事業トシテ町村有紀念殖林ニ充ツルノ目的ヲ以テ其町村ヨリ拂下出願アリタル場合モ右御通牒同様取計可然ト存候得共爲念及御問合候條何分ノ御回示相煩度此段及照會候也

明治三十九年二月五日

茨城縣知事 寺原長輝

內務大臣官房地理課長大谷靖殿

○理甲第六號

本年二月五日庶發第五三號ヲ以テ照會相成候官有地特別處分規則第一條一號ノ範圍ニ關スル件ハ御見込ノ通取扱ハレ可然ト存候此段回答候也
明治三十九年四月五日

茨城縣知事寺原長輝殿

內務大臣官房地理課長

大 谷

靖

○小學校生徒樹栽地トシテ官有地處分ノ件

○內務大臣官房地理課長ヨリ通牒 明治三十九年四月十八日 內務省城甲第三八號ノ内

從來小學校生徒樹栽地トシテ官有地拂下若クハ貸渡ノ際ハ男生徒ニ限リ官有地特別處分規則第一條一項ニ據リ處理候處自今女生徒樹栽ノ場合モ同様該條項ヲ適用シ生徒一人ニ付三十坪以上五十坪以內ノ割合ヲ以テ許可相成候條依命此段及通牒候也

○小學校生徒樹栽地トシテ官有地處分方移牒ノ件

○第五部長ヨリ各支廳長ヘ通牒 明治三十九年五月十七日 五地第一〇八二號

從來小學校生徒樹栽地トシテ官有地拂下若クハ貸渡ノ際ハ男生徒ニ限リ官有地特別處分規則第一條第一項ニ據リ處理候處自今ハ女生徒樹栽ノ場合モ同様該條項ヲ適用シ生徒一人ニ付三十坪以上五十坪以內ノ割合ヲ以テ許可シ差支無之旨內務大臣官房地理課長ヨリ通牒有之候條右ニ御了知相成度此段及通牒候也

追テ從來男生徒樹栽ノ場合ニ限リタルハ文部省ニ於ケル最前ノ意見ニ有之候趣ニ付爲念此段申添候也

○官有地特別處分規則適用ノ件

○拓殖部長ヨリ各支廳長ヘ通牒 大正三年二月十三日 拓殖第一〇二〇號

御大禮紀念事業トシテ公共團體ニ於テ學校園、小學校紀念殖林又ハ模範林等ノ經營スルノ目的ヲ以テ官有地ノ拂下ヲ出願シタル場合ニハ官有地特別處分規則第一條一號ノ範圍ニ屬スルモノト認メ處分可然旨大谷內務大臣官房地理課長ヨリ依命通牒有之候ニ付此段及移牒候也

○官有地特別處分規則第三條適用方ノ件

○內務大臣官房地理課長ヨリ通牒 明治四十年十月三十一日 內務省香甲第四六號ノ内

官有地特別處分規則第三條ニ依リ官有地ヲ無代下付スル場合ハ修理保存費ヲ支出シタルコトアルト否トニ拘ハラス府縣郡市町村又ハ公共組合カ費用負擔義務者ナルトキハ同條ヲ適用シ得ルコトニ今般決定相成候間爲御心得及通牒候也

○官有地特別處分規則第三條適用方移牒ノ件

○第五部長ヨリ各支廳長ヘ通牒 明治四十年十一月十四日 五拓第六〇一一號

官有地特別處分規則第三條ニ依リ官有地ヲ無代下付スル場合ハ修理保存費ヲ支出シタルコトアルト否トニ拘ハラス府縣郡市町村又ハ公共組合カ費用負擔ノ義務者ナルトキハ同條ヲ適用シ得ルコトニ決定相成候趣其ノ筋ヨリ通牒有之候條爲御心得此段及通牒候也

○地所拂下代價算出方ノ件

○內務省乙第九十五號 明治九年 五月

從前地所拂下ノ代價算出ノ儀段別端歩有之分實地丈量ノ儘歩以下三除シ然シテ段金（類地比較代價

ヲ云フ以下同シ)ヲ乘シ代價算出候得共右ハ碎數不盡ノ數位二桁或ハ三桁ト適宜割出シ段金ヲ乘スル故桁數ノ多少ニヨリ金額異同ヲ生シ檢算上不都合ニ候間以來段別畝以上ニ先ツ三ヲ乘シ總步數ヲ得然シテ段金ヲ乘シ三除シ毛位四捨五入シテ厘位ニ止メ候儀ト可相心得此旨相達候事

○官有地評價ニ關スル件

○内務省訓令第三十七號 明治二十三年十月二十三日

本年勅令第三百三十五號官有地特別處分規則ニ依リ官有地ヲ賣渡シ又ハ貸渡サントスルトキハ其廳ニ於テ便宜評價委員ヲ設ケ其地價又ハ貸渡料ヲ評定セシム可シ其繼續シテ貸渡ス場合ニ於テモ亦同シ但最前貸渡ノ際豫メ地價ヲ定メ開墾成功ノ上賣渡スコトヲ許シタルモノハ此限ニアラス前項賣渡貸渡ニシテ從來經伺ヲ要セシ分ハ評價書ヲ作り願人ノ申立金額アレハ其金額ヲモ記載シ圖面ヲ添ヘ本大臣ニ具申ス可シ

○評價委員選定及費用ニ關スル件

○内務省書記官ヨリ通知 明治二十三年十月二十三日 地甲第二十三號

官有地特別處分ニ關スル當省訓令第三十七號評價委員ノ儀ハ常設又ハ臨時選定相成候トモ又官吏ニ限ラス總テ其事ニ精シキ者ヲ選定相成候トモ可然尤モ右ニ關シ別ニ當省ヨリ費用ヲ下付セラレ候間爲御心得此段申進候也

○官有地拂下願實地調査及評價委員選定ノ件

○第二部長ヨリ各郡區長へ通牒 明治二十三年十月三十一日 親展

本年勅令第三百三十五號官有地特別處分規則及勅令第六十九號官有森林原野及產物特別處分規則委任ノ件ニ付主務大臣へ上請ノ處今回内務省令第三十七號ノ趣モ有之候得ハ本則ニ依リ至急處分ヲ要ス

ルモノ有之候ハ、實地ヲ調査シ賣渡願地ノ如キハ民有ニ歸シタル後チ公共支障アルヤ否等ヲ精査シ執レモ評價書並實測圖添願出ハ當廳長官宛ヲ以テ御送達有之度長官命ニ依リ此段及御通牒候也

追テ本文規則ニ該當ノ賃貸地ニシテ公共上支障無之箇所ハ可成賣渡ノ見込ヲ以テ御取調相成度而テ土地評價ノ儀貴所ニ於テ便宜評價委員(常設又ハ臨時選定相成又ハ官吏)ヲ選定相成度尤モ右ニ關シ別ニ當廳ヨリ費用ハ交付セラレ候條御心得ノ爲申添候也

○評價委員ハ二名以上ヲ要スル件

○第二部長ヨリ各郡役所へ 明治二十四年一月二十三日 乙第三四〇號

從來土地特別拂下願ニ添付ノ評價書ニハ評價委員一人ノミ記名相成候コト往々有之候處評價ノ義ハ二名以上ヲシテ評價セシムル訓令ノ精神ニ可有之候ニ付自今二名以上ノ評定シタル評價書相添御進達相成度候尙目下貴所内評價委員ノ氏名御取調御送付相成度此段併セテ及御照會候也

○官有土地水面ノ賣拂等ニ關スル評價書作成方ノ件

○第五部長ヨリ各支廳長ニ通知 明治三十九年九月二十九日 五地第三一八五號

内務大臣官房地理課長ヨリ官有土地水面ノ賣拂等ニ關シ評價書作成方別紙寫ノ通り通牒有之候條右ニ依リ御取扱相成度此段及通知候也

○内務大臣官房地理課長通牒 明治三十九年九月十九日 内務省理甲第二二號

官有土地水面ノ賣拂讓與交換及貸付等ニ關シ明治二十三年十月廿日當省訓令第三十七號及三十一年三月七日庶甲第四〇號庶務局長通牒ニ依リ評價委員ノ評價書ヲ添付シ稟申セラル、モノニ在リテハ爾今該評價書中近隣類地ノ實際賣買價格又ハ賃貸借價格等評價價格算出ノ精確ナル根據標準ヲ詳記セシメラレ度依命此段及通牒候也

○官有土地水面處分受書ニ關スル件

○第五部長ヨリ各支廳長へ通牒 明治三十九年五月二十九日
五地第一三九八號

官有土地水面處分受書ノ義ニ付別紙ノ通り其筋ヨリ訓令相成候條此段及通牒候也

○内務省訓第三四四號 明治三十九年
五月十日

官有土地水面ノ處分ニ付契約ヲ爲ス場合ニ關シ明治三十七年訓第二三八號ヲ以テ及訓令候處右ノ内交換讓與(寄附土地
無代下付)スルトキ何等ノ條件ヲ付セサルモノハ受書ヲ徵セサルモ妨ケナキ儀ト心得ヘシ右訓令ス

○屠場ニ必要ナル國有ノ土地讓與又ハ無償使用ノ件

○法律第三十二號 明治三十九年
四月

屠場法

(抄録)

第一條 本法ニ於テ屠場ト稱スルハ食用ニ供スル目的ヲ以テ獸畜ヲ屠殺スル場屋ヲ謂フ本法ニ於テ獸畜ト稱スルハ牛、羊、豚、及馬ヲ謂フ

第二條 屠場ヲ設立セントスル者ハ地方長官(東京府ニ於テハ警視總監)ノ許可ヲ受クヘシ

第八條 内務大臣ハ必要ト認ムルトキハ屠場ノ設置ヲ市町村ニ命スルコトヲ得

第九條 市町村ハ地方長官(東京府ニ於テハ警視總監)ノ認可ヲ得ルニ非サレハ屠場ヲ廢止スルコトヲ得ス

第十條 市町村立屠場ノ用地ニ必要ナル國有ノ土地ハ之ヲ市町村ニ讓與シ又ハ無償ニテ使用セシムルコトヲ得

第十八條 本法中市町村ニ關スル規定ハ北海道ノ區、一級町村、二級町村及沖繩縣ノ區其ノ他市町村ニ準スヘキ地ニ適用ス

○官有地貸下規則

○北海道廳令第十三號 明治二十三年
四月一日

官有地貸下規則

第一條 官有既墾地ノ貸下ハ總テ競争ニ付シ其手續ハ一般ノ入札法ニ據ル

第二條 此規則ニ依リ貸下スヘキ既墾地ハ所在郡區役所ニ於テ臨時之ヲ公告スヘシ

第三條 貸下料ハ入札最高額ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 落札ヲ得タル者ハ保證人連署第一號式願書ニ第二號式畧圖ヲ添ヘ差出スヘシ

第五條 官有未墾ノ土地ニシテ拂下ケ難キ者ハ此規則ニ據リ貸下クヘシ

但シ競争ニ付セス

第六條 官有未墾地ノ貸地料ハ地價百分ノ一トス

第七條 官有地貸下期限ハ左ノ各項ニ依ルヘシ

十箇年以内 耕地 河岸場 魚鳥獵場 海
産干場 土石取揚場ノ類

一箇年以内 物置場ノ類

三箇月以内 社寺境内休憩所ノ類

第八條 凡ソ官有地ノ借地料ヲ期限ノ通り上納セサルモノハ其貸下ヲ取消スヘシ此場合ニ於テハ假令如何ナル勞費アルモ其償ヲ下付セサルモノトス

第九條 凡ソ官有地ノ貸下許可ヲ得タル者ハ其當初出願ノ目的ニ隨テ之ヲ使用スルヲ得ルト雖モ他

人へ質入書入ヲ爲スコトヲ得サルモノトス

但シ不得已事故アリテ轉貸セント欲スルトキハ願出ツヘシ

第十條 凡ソ官有地貸下期限中公益又ハ官用ニ依リ返地ヲ命シタル時ハ六箇月以内ニ之ヲ返納スヘシ

此場合ニ於テハ如何ナル勞費アルモ其償ヲ下付セサルモノトス

第十一條 貸下期限中返地セント欲スルモノハ第三號式ニ依リ願出其滿期返地ハ第四號式ニ依リ届出ツヘシ

第一號式

土地 貸 下 願

國郡村字年治地別紙圖面ノ箇所

一 宅 地(又ハ)

何 坪

但明治何年何月ヨリ同何年迄何年間

右ハ官有地貸下規則ヲ遵守シ何々日的使用ノ爲メ借用仕度別紙圖面相添保證人連署此段奉願候也

府縣北海道國郡町村番地

華士族平民

(當時國郡町村番地寄留)

府縣北海道國郡町村番地

華士族平民

(當時國郡町村番地寄留)

保證人 氏

名 印

年 月 日

前書之通出願ニ付進達候 郡 區 長 某 殿

年 月 日

郡區町村

戶 長 某

印

圖面畧ス

第三號式

貸下地返上願

國郡町村字番地

一 宅 地(又ハ)

何 坪

但明治何年何月何日御貸下

右借用仕居候處都合ニ依リ本年何月限り返上仕度此段奉願候也

府縣北海道國郡町村番地

華士族平民

(當時國郡町村番地寄留)

願 人 氏

名 印

年 月 日

前書之通出願ニ付進達候也 郡 區 長 某 殿

郡區町村

戶 長 某

印

第四號式

貸下地返上御届

國郡町村字番地

一宅 地(又ハ)

但明治何年ヨリ同何年迄何年何月何日
右借用仕居候處本年何月(何日)満期ニ付返上仕候此段御届仕候也

府縣北海道國郡町村番地
華士族平民

(當時國郡町村番地寄留)

年 月 日

郡 區 長 某 殿

氏

名 印

前書之通届出ニ付進達候也

郡區町村

年 月 日

戶 長 某

印

○官有地貸下規則取扱方ノ件

○北海道廳訓令第二十一號

明治二十三年四月一日

郡區役所

戶長役場

明治二十年六月當廳訓令第四十二號官有地貸下規則取扱方左ノ通改正ス

第一條 官有既墾地ノ貸下ヲ競争ニ付スルトキハ北海道廳地所物件賣買貸借順序ニ依リ規則第七條ノ期限ヲ定メテ貸下スヘシ

第二條 規則第五條ニ依リ官有未墾地貸下願出タルトキハ實地ヲ調査シ期限ヲ定メテ貸下ヘシ

第三條 堤塘竝寄洲ハ勿論河岸水害ノ憂アル土地及水源涵養土砂扞止等ヲ妨クル恐アル山野ハ貸下ク可ラサルモノトス

第四條 貸地料徴收ハ農商務省訓令第十三號明治十九年八月官有地諸收入金徴收規程年ヲ以テ定メタル貸地料ハ

第五條 官有地貸下年度ノ算數ハ曆年度ニ依ルヘシ第百三十五號ニ依リ取扱フヘシ(二十一年三月二十日農商務省訓令第八十一號ヲ以テ本條ノ十三號ヲ廢ス)

第六條 山野ニ於テ肥草秣刈取願ハ一時拂下ルモノト年季ヲ期シ拂下ルモノアリト雖モ事實土地ヲ借用スルモノハ五箇年以内ノ年季ヲ以テ貸下クヘシ

第七條 貸下及返地取消等處分濟内務省主管ニ係ル土地樹林地及原野地ニアラサルモノハ同省訓令第二十號明治二十年十月報

告例第五十六表ニ依リ其年分翌年一月三十一日限り農商務省主管ニ係ル土地樹林地及原野地ハ同省訓令第一號明治十九年四月表式ニ依リ上半季分ハ其年七月三十一日限り下半季分ハ翌年一月三十一日限り當廳第二部ヘ報告スヘシ

官有山野ニ係ル貸地料ハ農商務省訓令第二號明治二十年一月甲乙表式ニ依リ會計閉鎖期限後十五日以内ニ當廳第二部ヘ報告スヘシ(二十三年十二月訓令第八十八號ヲ以テ刪除)

○畦地處分規則

○地租改正事務局別表第六十九號達 明治十年二月

畦地處分規則

第一條 凡ソ甲乙兩地ノ中間ニ在ル畦地ハ上層地ノ所屬トスヘシ從來ヨリ下低所屬ノ確證アルモノハ舊慣ノ儘ニ据置クヘシ

第二條 畦地ノ險畝シタルモノニシテ假令中間ニ小樹ノ類茂立スルトモ土砂ヲ扞止スル迄ニ止リ他ノ用ヲナササルモノハ繩外トシ本地券腹面書ニ外何番地境畦地繩外所屬ノ趣ヲ記シテ其所屬主ニ付與スヘシ其傾斜ノ甚シカラス開墾シテ桑茶蔬菜等ヲ植付得ヘキ者ハ本地一繩ニ籠メ取調ヘシ

第三條 從前ヨリ河岸地半腹ヲ以テ境界トセルモノハ上條ニ照準シ實況ニ應シ各箇ニ處分スヘシ

第四條 第二條ノ桑茶蔬菜等植付得ヘキ河岸地ニシテ未タ所有者之ナク拂下ケテ要スルモノアルトキハ先ツ上層地主ノ望ニ任セ望ナキトキハ下低地主ヘ拂下クヘシ但斜面ノ極メテ緩ナルモノニシテ必シモ上層ノ地ニ屬セシムルヲ要セサル者ニテ上下共ニ拂下ケテ願フトキハ雙方ノ者ヘ入札法ヲ以テ拂下ルカ又ハ半腹ヲ界トシ雙方ヘ拂下モ妨ケナシ

第五條 石垣又ハ竹木柵等ヲ以テ土止ヲナセル河岸地ハ從前之證跡ニ據テ其所屬ヲ定ムヘシ即チ土止メ及修理等上下主ノ内一方ニテ爲シ來レル者ハ其一方ノ所屬トシ雙方合力シテ爲シ來レル者ハ雙方ノ共有トシ若シ地主轉換シテ證跡ノ微スヘキナキ者ハ以テ上層地ノ所屬トナシ第二條ノ如ク本地券面腹書ニモ所屬主ニ付與スヘシ但シ雙方ノ共有トナスモノハ兩券面ニ其趣ヲ腹書スヘシ

第六條 右ノ如ク其所屬ヲ一定シ其修理ハ所屬主ニ於テ爲サシムヘシト雖モ河岸上下地主ハ其所屬ノ何レニ在ルヲ問ハス均シク該河岸地保全ノ義務アルヲ以テ河岸上下共ニ其崩壞ヲ致スヘキ事功ヲ起スコトヲ得サル者トス

○畦地保全規則

○函館支廳第三十一號 明治十三年四月

第一條 凡ソ甲乙兩地ノ中間ニ在ル畦地ハ上層地ノ所屬ニスヘシトモ雖從來ヨリ下低所屬ノ確證アル

畦地保全規則

ルモノハ其儘据置クヘシ

第二條 畦地ニシテ傾斜ノ甚シカラス開墾シテ桑茶蔬菜等ヲ植付得ヘキ地ヲ除クノ外ハ除租ノ上本地券面ニ腹書スヘシ

第三條 畦地ハ上下地主其所屬何レニ在ルヲ問ハス均シク該地保全ノ義務アルヲ以テ畦上其下共ニ一已ノ便益ヲ圖リ土砂ヲ掘取隣地ノ崩壞ヲ致スヘキ事功ヲ起スコトヲ得ス

第四條 畦地ハ必ス其所屬ニ於テ石垣又ハ竹木柵等ヲ以テ土止ヲナスヘシ

第五條 石垣又ハ竹木柵等ヲ以テ土止保全ヲナセル畦地ハ從前ノ證跡即チ上層地方ノ一方ニ於テ爲セルモノハ上層地主ノ所屬トナシ上下協同土止ヲ爲シ來ルモノハ上下地主ノ共有トナスヘシ

第六條 從前上下地主協同又ハ上下ノ一方ニ於テ土止保全ヲ爲シタルニ拘ラス將來上下地主ノ内孰レカ一方ニ於テ土止保全ヲ爲スヘキコトヲ相對約束ノ上願出ルニ於テハ之ヲ許可シ更ニ將來土止保全ヲ爲スヘキモノノ所屬トスルコトアルヘシ

第七條 地主屢轉換シテ證據詳カナラサルモノハ第一條ニ依リ處分スヘシ

○土地拂下及拜借出願ノ際地價取調ノ件

○第二部通達地第四五九號 明治二十年四月二十六日

明治十九年六月閣令第十六號範圍外ニ於テ土地拂下及拜借出願ノ際ハ該地地價御取調願書御送達ノ節其地價御報導有之度尤モ從來地價査定無之場所ハ其比隣地價又ハ比隣スヘキ民有地無之候ハ、見込地價御通報有之度此段及御通達候也

○特別貸下拂下願進達ノ際注意ヲ要スル件

○内務部長ヨリ各郡區長ヘ通牒 明治二十七年三月二十四日

特別貸下拂下願書御進達ノ際實測圖ノ坪數ト願書面及評價書面ノ坪數トニ相違アル爲メ其都度更正方及御照會候テハ甚タ手數ノ至ニ付自今右等十分御注意ノ上彼是支吾ナキ様精査セシメラレタル上ニテ御進達相成度此段申進候也

○官有土地水面ノ處分ニ關シ受書徵收方ノ件

○内務省訓第一三八號 明治二十七年四月六日
官有土地水面ノ處分ニ關シ人民ト契約ヲ爲ストキハ法律命令ノ條項ニ據リ其他一切ノ事情ヲ參酌シ必要ト認メタル條件ヲ契約書ニ記載云々去ル二十四年八月訓第六八七號訓令第六項ヲ以テ及訓令候處二十六年十月勅令第百十二號ヲ以テ會計規則第八十二條改正相成候ニ付自今官有土地水面竝土石竹木等ノ價格一口五百圓未滿ノモノヲ隨意契約ニ依リ賣貸貸借交換讓與寄附土地スルトキハ會計規則第八十條及第八十一條ニ準據シタル契約書ヲ作クルノ必要アリト認メタル場合ヲ除クノ外單ニ必要條件ヲ記載シタル受書ヲ徵シ置クモ妨ナキ儀ト心得ラルヘシ

○官有土地水面賣貸ノ場合受書徵收方通牒ノ件

○内務部長ヨリ各郡區長ヘ通牒 明治二十七年四月二十四日
官有土地水面竝ニ土石竹木等ノ價額一口五百圓未滿ノモノ隨意契約ニヨリ賣貸貸借明治十九年閣令第十六號北海道土地交換讓與寄附土地等人民ノ出願規則ニ依リ貸下拂下ノ場合ヲ除ク交換讓與寄附土地等人民ノ出願ニ對シ許可ノ指令ヲ交付スル場合ニハ該指令面ニ記載シタル條件ヲ摘記シタル受書ヲ徵シ之ト引換ニ指令書ヲ交付シ右受書ハ貴所ニ於テ整理ノ上紛亂セサル様保存相成度此段命ニ依リ及通牒候也

○官有土地水面賣貸ニ關スル受書ヲ證憑書類トシテ提出ノ件

○内務部長ヨリ各郡區長ヘ通牒 明治二十七年八月二十二日
官有土地水面等隨意契約ニ依リ賣貸貸借明治十九年閣令第十六號北海道土地交換讓與寄附土地等人民ノ出願ニ對シ許可ノ指令書ヲ交付スル場合ニ於テ一口五百圓未滿ノ分受書徵シ方ノ儀本年四月二十四日第四〇四八號ヲ以テ御通牒ニ及置候次第モ有之候處自今右受書ニハ指令書ノ全文ヲ謄記セシメ且ツ別紙雛形ノ通記入ノ上本人若クハ相當代理人ヲシテ署名捺印セシメ指令書ト引換ニ之ヲ徵シ猶ホ檢閲シタル主任官吏又ハ戶長ニ於テ雛形ノ如ク證明ノ上該受書ニ由リ拂下代金又ハ貸下料及使用料等調定相成度將又右受書ハ貴所ニ新テ之ヲ整理保存シ置キ其本書若クハ謄本ヲ以テ租稅外歲入調定額證明規定第三條第一項ノ證憑書類トシテ提出之儀ト御承知相成度此段命ニ依リ及通達候也追テ從來拂下指令書及貸下料五圓以上ノ分貸下指令書ノ原證書謄本ハ其時々及御送付來候處本文ノ通御取扱相成候上ハ其必要ナキモノト相成候儀ニ付自今御送付不致候條御承知相成度此段申添候也

○一時返却シタル願書取扱方ノ件

○浦河外六郡長照會 明治三十年二月二十三日 浦一第六八九號
土地水面使用又ハ貸下願書取扱方内地第二七〇號御通牒之趣了承然ルニ土地特別拂下願ノ如キモ更正ノ爲メ一時本人ヘ返戻スル場合ニ於テ再三再四督促セサルヲ得ス爲メニ無用ノ手數ヲ煩候事往々有之候得共右ハ御申越之取扱ニ準スヘキ限リニハ有之間敷何分ノ御垂示相成度此段及御照會候也

○願書無効處分ニ關スル件

○内務部長回答 明治三十年三月十五日 内地第二七〇號
一時返却之願書取扱ノ儀浦一第六八九號ヲ以テ御照會之趣承知致候右ハ該通牒ニ準據シテ御取扱相成可然此段及御回答候也

○網走外三郡長照會 明治三十年三月十九日 丙第一七四號

北海道土地拂下規則若クハ特別處分規則ニ依リ土地水面使用又ハ貸下願訂正ヲ要スル場合ニ於テ相當之訂正期間ヲ與ヘ之レカ期日內ニ更正差出サ、ルトキハ願書無効力ノ儀通知若クハ付箋下戻スヘキ儀ハ明治二十八年一月内務部第四四三號及三十年二月内地第二七〇號御通達之趣モ有之候處右之願書ヲ無効力トスルハ即チ一ノ事件ヲ處分スル儀ニシテ彼ノ閣令第十六號ニ據ル三萬坪以內出願ノモノニ於テ郡長限リ直ニ前段ノ規程ヲ適用シ得ルハ敢テ疑ヲ容レサル儀ニ候ヘ共其三萬坪以上ノモノ若クハ特別處分規則ニ據ルモノニ於テハ勿論分任條件以前ノ事項ニ付良シ假令無効力ノ通知若クハ付箋下戻シ置クモ其無効トセラルヘキ期日成就シタルトキハ直ニ事由ヲ具シ上申何分ノ御指揮ヲ仰クヘキ儀ニ可有之哉實ハ前顯二通達ヲ案スルモ通知若クハ付箋下戻スヘントアリテ郡長限リ無効處分スル事ヲ得ルノ御明示無之疑義相生シ候ニ付何分ノ御開示ヲ煩シ度此段及御照會候也

○内務部長回答 明治三十年四月九日 内地第二七〇號

土地水面使用又ハ貸下願書無効處分ノ儀ニ付客月十九日丙第一七四號ヲ以テ御照會ノ趣承知致候右ハ何レモ貴官限リ處分相成可然尤モ内務部第四四三號ニ依リ無効處分ヲ爲シタル願書ニシテ一旦當廳ヘ差出シメルモノニ候ハ、無効處分濟ノ旨御通報ヲ要スル儀ト御承知相成度此段及御回答候也

○官有地ノ賣拂貸付其他ノ願書無効處分ノ件

○第五部長ヨリ各支廳長ヘ通牒 (室蘭支廳) 明治四十一年六月二十四日 (長ヲ除ク) 五拓第一二九五號

官有地ノ賣拂貸付交換使用若クハ產物拂下願書ニ對シ實地調査ノ爲メ願人ノ立會ヲ要スル時ハ適宜期日ヲ定メ該期日ニ立會セサル時ハ願書無効タルヘキ旨立會通知書ニ附記相成度依命此段及通牒候也 追テ私有水面ノ使用貸下及私有水面埋立等ノ願ニ對シテモ本文同様御取扱相成度此旨申添候也

○第五部長ヨリ室蘭支廳長ヘ回答 明治四十一年六月二十四日 同 號

官有地ノ賣拂貸付交換使用若クハ產物拂下願書ニ對シ實地調査ノ爲メ願人ノ立會ヲ求メ立會ヲナサ、ル場合願書無効處分ノ儀ニ付本年二月二十一日室拓第五六三號ヲ以テ照會ノ次第モ有之候處右ハ適宜期日ヲ定メ該期日ニ立會セサルトキハ願書無効タルヘキ旨立會通知書ニ附記相成度經伺此段及回答候也 追テ私有水面ノ使用貸下及私有水面埋立等ノ願ニ對シテモ本文同様御取扱相成度此旨申添候也

○北海道地方費經濟ニ屬スル土地取扱方ノ件

○長官ヨリ内務大藏兩大臣ヘ伺 明治三十四年十二月五日 殖拓第六一四一號

本年三月法律第三號ヲ以テ北海道地方費法ヲ公布セラレ其第八條ニ依レハ法律勅令ニ別段ノ規定アルモノ、外北海道地方費支辨ニ屬スル費目ヲ列舉シ尋井テ同月勅令第十八號ヲ以テ北海道地方費令附則第二十三條ヲ以テ本令施行ノ際ニ限リ北海道地方費ノ經濟ニ移スコトヲ得ル旨規定相成候ニ付同經濟ニ屬スル處ノ土地ハ北海道ノ所有トシ土地臺帳ヘハ其管理者タル北海道廳長官ノ名面ヲ記載スルモノトハ思考候得共其地種目名稱ハ孰レニ據ルヘキ哉疑岐ニ涉リ候ニ付此段相伺候也

○大藏内務兩總務長官回答 明治三十五年三月三十一日 北甲第二三六號

北海道地方費經濟ニ移シタル土地ノ件ニ付殖拓第六一四一號御伺出ノ處該土地ハ北海道地方費ノ所有トシ其地種目名稱ハ其土地ノ種類ニ依リ從來ノ如ク官有地ノ各種ニ區別シ其ノ內ニテ國有ト地方費有トヲ明カニシ置キ可然本件ハ別ニ指令不相成候條依命此段及通牒候也

○地方費經濟ニ屬スル土地地種目ニ關スル件

○殖民部長ヨリ各支廳長ヘ通牒 明治三十五年四月十六日 殖拓第六一四一號

北海道地方費經濟ニ屬スル土地ハ北海道地方費ノ所有トシ其地種目名稱ハ其土地ノ種類ニ依リ從來ノ如ク官有地ノ各種ニ區分シ其内ニテ國有ト地方費有トヲ明カニシ置ク事ニ決定相成候條右ニ御了知相成度爲念此段及通牒候也

○國有地ヲ地方費經濟ニ移付處分ノ件

○長官ヨリ内務大臣へ上申 明治三十五年五月十二日 殖拓第七一五號

後志國小樽區南濱町四丁目

官有地第三種公用物揚場

一、面積三十八坪六合八勺

此價格金參百八拾六圓八拾錢

右ノ土地小樽警察署水上派出所敷地ノ増地トシテ充用致度實地調査ヲ遂ケ候處何等支障無之被認候就テハ明治二十二年御省訓令第九十八號ノ次第モ有之候得共特ニ無償ヲ以テ官有地第二種地方費有ニ編入方御認可相成度實測圖一葉添付此段上申候也

追テ將來若シ國庫經濟ニ屬スル官有地ヲ地方費經濟ニ移付スヘキ必要ヲ生シタル場合ニハ總テ本文同様無償ニテ受授候様致度候條何分ノ義御指揮相成度此段副申候也

○内務總務長官回答 明治三十五年六月六日 北甲第八四號

五月十二日殖拓第七一五號ヲ以テ地種目交換ノ件ニ付當大臣へ上申相成候處該官有地ヲ無償ニテ地方費有ニ編入シ猶將來國庫經濟ニ屬スル官有地ヲ地方費經濟ニ移付スル義ハ特別ノ規定アルモノ、外ハ詮議難相成候間別ニ指令ニ及ハレヌ依命此段及通牒候也

○國有地ヲ地方費有ニ移替スル場合取扱方ノ件

○殖民部長ヨリ各支廳長へ通牒 明治三十五年八月二十日 殖拓第三四六六號
國庫經濟ニ屬スル土地ヲ地方費經濟ニ移替スル場合ノ取扱方ニ關シ別紙ノ通り其筋ト往答相成候ニ付爲參考及通牒候也

(別紙)

○長官ヨリ内務總務長官へ照會 明治三十五年七月二十一日 殖拓第三四六六號

北海道地方費法ニ依リ地方費ノ經濟ニ移シタル土地ノ所有者及地種目ノ義ニ付三十四年十二月五日付殖拓第六一四一號ヲ以テ内務大藏兩大臣へ伺出候處三十五年三月三十一日付北甲第二三六號ニテ貴官及大藏總務長官連署御通牒ノ次第モ有之候得共其後官有地ヲ無償ニテ地方費有ニ編入シ猶將來國庫經濟ニ屬スル官有地ヲ地方費經濟ニ移付スル義ハ特別ノ規定アルモノ、外ハ詮議難相成旨三十五年六月六日北甲第八四號ヲ以テ御通牒有之然ルニ三十四年三月勅令第十八號北海道地方費令附則第二十三條ニ依リ國庫經濟ヨリ地方費經濟ニ移シタル土地ノミニテハ事業擴張ニ要スル諸般ノ設備上完全ナラス假令ハ農事試驗場ヲ新設又ハ増設スルカ爲メ或ハ警察署若クハ分署ヲ新設又ハ移轉スル等ノ爲メ其用地トシテ國有地ヲ地方費有ニ移スノ必要有之候場合ハ地方費所屬ノ財産管理人ヨリ國有土地處分ノ法令ニ基キ賣拂又ハ付與等ヲ出願セシメ許可ノ詮議相成可然トハ存セラレ候得共疑岐ニ涉リ候條至急何分ノ御報示相成度此段及御照會候也

○内務總務長官回答 明治三十五年八月二日 北甲第一二七號

本年七月二十一日殖拓第三四六六號ヲ以テ國有土地ヲ地方費有ニ賣拂又ハ附與ニ關スル件照會ノ趣右ハ國有土地處分ニ關スル法規ヲ適用シ得ヘキモノニ付テハ各其ノ規定ニ依リ詮議ニ及ハルヘキ義ト存候此段回答候也

○官有地ヲ北海道地方費經濟ニ貸渡又ハ賣渡處分ノ件

○長官ヨリ内務大臣へ上申 明治三十五年九月二十五日 内議第三三七四號

北海道地方費經濟ニ官有地ノ貸渡又ハ賣渡ヲ受クルノ規定無之右ハ實際差支候場合モ不尠候ニ付相當ノ規定發布相成候様御詮議相成度此段上申候也

○長官ヨリ内務總務長官へ副申 明治三十五年九月二十五日 内議第三三七四號

官有地ヲ北海道地方費經濟ニ移付ノ義ニ付テハ先般北甲第八四號御通牒ノ次第モ有之候處官有地特別處分規則第一條第一號ニ依レハ直接公用ニ供スル爲メ又ハ公共ノ利益トナルヘキ事業ノ爲メ府縣等ニ官有地ヲ貸渡又ハ賣渡ス場合ノ規定有之候得共北海道地方費經濟ナルモノハ右條項中ニ包含スルモノトハ難被認他ニ何等規定セラレタルモノ無之ニ依リ結局地方費經濟ニ於テハ右等ノ場合ニ官有地ノ貸渡又ハ賣渡ヲ受クルヲ得サルコト、相成候然ルニ地方費經濟ニ於テハ警察署又ハ戸長役場等設備上其敷地ニ充ツル爲メ官有地ノ移付ヲ受ケサルヘカラサル場合ヲ生シ候ニ付規定上府縣同様官有地ノ貸渡賣渡ヲ受ケ得ル様御詮議ヲ煩度別紙上申書進達此段副申候也

○内務總務長官回答 明治三十五年十二月二十日 北甲第一六三號

明治三十五年九月二十五日内議第三三七四號ヲ以テ北海道地方費經濟ニ官有地ヲ貸渡又ハ賣渡之議ニ付上申並ニ副申相成候處北海道地方費ハ當然官有地特別處分規則第一條第一號其他ノ起業者中ニ包含セラレヘキモノニ付別ニ該經濟ニ對シ官有地ヲ貸渡シ又ハ賣渡スノ規定ヲ設クルニ及ハス條候右様御了知相成度此段通牒候也

○北海道地方費所有地ヲ民有地ニ編入ノ件

○内務省訓第三二一號 明治三十七年 五月三日

北海道

北海道廳北海道地方費ノ所有地ニシテ從來官有ニ編入シアルモノ及從來其所有ニ歸スヘキ土地ハ總

テ民有地ニ編入スヘシ
右訓令ス

○地方費所有地整理方ノ件

○北海道廳訓第五百三十五號 明治三十七年 五月十七日

内務部、支廳、警察署、廳立學校、農事試驗所、種畜場、測候場、水産試驗場、農事講習所

北海道廳地方費ノ所有地ニシテ從來官有地ニ編入シアルモノ及從來其所有ニ歸スヘキ土地ハ總テ民有地ニ編入スヘキ旨今般内務大臣ヨリ訓令有之候條其廳(部、署、校、場所)所屬地方費所屬地ハ總テ民有地ノ扱ヲ爲シ財産臺帳ニ官有地第何種トアルヲ地方費有ト訂正整理スヘシ

○官有地ノ民有地成及民有地ノ官有地成ノ場合所轄稅務署ニ通報ノ件

所轄稅務署ニ通報ノ件

○北海道廳訓第六十一號 明治三十年 七月二十四日

官有地ノ民有地成(未開地ヲ除ク)及民有地ノ官有地成ノ場合ハ當該指令書ニ據リ其郡區町村字地番(官有地成ノトキハ地番ヲ除ク)段別新舊所有者ノ住所氏名ヲ所轄稅務署ニ通報スヘシ

○官有地ノ民有地成ノ場合所轄稅務署へ其依據シタル

法令ノ條項通牒ノ件

○北海道廳訓第二百二十二號 明治三十一年 六月六日

明治三十年五月訓第九十一號北海道國有未開地處分法施行規程取扱細則第四十七條及同年七月訓第一百六十一號ニ依リ官有地ノ民有地成ノ場合所轄稅務署へノ通牒ニハ其處分ノ際依據シタル法律規則ノ條項ヲモ記載スヘシ

○土地水面ノ處分原議ニ依據シタル法令ノ記載ノ件

○本廳決議 明治三十一年八月十七日

土地水面處分ノ際各主任者ニ於テ起稿スル原議書ニ法律命令等其處分上依據セシ條項ヲ記入スル向ト記入セサル向ト之アリ候處之ヲ記入セサルニ於テハ統計上ハ勿論其他後日調査ノ必要アリテ該原議ヲ觀ルモ如何ナル規程ニ依據シテ處分シタルモノナリヤ或ル場合ニ於テハ不明瞭ノ事モ之アル可シト相像セラレ候間自今ハ必ス依據セシ法律命令ノ發布年月日番號及其法規ノ題名詞條項ヲ原議ニ記載スルト致度本旨御決定ノ上ハ各主任者へ回覽スル見込ニ候

○官有地取扱規則

○勅令第二百七十六號 明治二十三年十一月二十四日

官有地取扱規則

- 第一條 官有地ノ賣買讓與交換及貸付ハ内務大臣之ヲ處理ス
- 第二條 官有地ニ關スル願書ノ指令契約ノ締結登記ノ請求收入ノ徵收及收納竝訴訟ハ内務大臣地方長官ヲシテ之ヲ取扱ハシムヘシ
- 第三條 各廳ニ於テ官有地ヲ使用セントスルトキハ内務大臣ニ請求スヘシ
- 第四條 各廳ノ使用地不明ニ歸シタルトキハ内務大臣ニ還付スヘシ
- 第五條 甲乙兩廳ノ間ニ於テ官有地ノ使用ヲ移サントスルトキハ内務大臣其手續ヲ爲スヘシ
- 第六條 各廳ノ所用ニ供スル爲メ民有地ヲ寄附セントスルモノアルトキハ内務大臣受納ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第七條 官有地ヲ開墾センコトヲ請フモノアルトキハ無料ニテ之ヲ貸付スヘシ

但開墾成功ノ後事業者ニ於テ該地ヲ拂下ケントスルトキハ豫メ契約ニ依テ其代價ヲ定置メタヘシ

第八條 官有地ト民有地ノ交換ハ兩地ノ坪數及價格稍相均シキモノニアラサレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第九條 借地人ハ特ニ許可ヲ受クルニアラサレハ其地ヲ當初借用ノ目的ヲ以外ニ使用スルコトヲ得ス

借地人前項ノ規程ニ違反スルトキハ地方長官ハ其使用ヨリ生シタル損害ヲ賠償セシメ返地ヲ命スルコトヲ得

第十條 借地人官ノ許可ヲ得テ土地ノ原形ヲ變シタルトキハ借地滿期ニ至リ自費ヲ以テ之ヲ原形ニ復シ返納スヘシ但特ニ許可ヲ受ケタルモノハ此限ニアラス

第十一條 官ニ屬スル公有地及公有水面ハ其公有ヲ廢シタルニアラサレハ賣拂讓與交換又ハ貸付スルコトヲ得ス但公衆ノ妨害トナラサル限リハ公用ニ供シタル儘有料又ハ無料ニテ特ニ其使用ヲ許スコトヲ得

第十二條 官ニ屬スル公用水面ヲ埋立民有地ト爲サンコトヲ請フモノアルトキハ公衆ノ妨害トナラサル部分ニ限リ之ヲ許スコトヲ得

第十三條 官ニ屬スル私有水面ノ賣拂讓與交換貸付及使用ハ本令ニ定ムル土地ノ規定ニ準據スヘシ

第十四條 隨意ノ契約ニ依リ官ニ屬スル土地又ハ水面賣拂讓與交換又ハ有料貸付有料使用ヲ爲サントスルトキハ地方長官其評價ヲ爲サシム

既ニ貸付シ又ハ使用セシメタル土地又ハ水面ヲ引續貸付シ又ハ使用セシムル場合ニ於テモ亦前項ヲ準用ス

第十五條 官有地ニ關スル事項ニシテ本令ニ規定セサルモノハ官有財産管理規則ニ依ル

第十六條 本令ハ勅令ヲ以テ規定シタルモノ及官有森林原野ニ適用セス
 第十七條 官有地臺帳ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム
 第十八條 此規則ハ明治二十四年四月一日ヨリ施行ス

○海面及海濱ノ岩礁掘鑿處分ニ關スル件

○本長官ヨリ庶務局長ヘ照會 明治二十四年八月 甲第一號

當廳ハ四面環海ノ地ナルヲ以テ捕魚採藻ノ業ヲ營ムモノ殊ニ多シ然ルニ該海面及海濱ニ於テ岩礁連列スル處往々有之爲ニ漁船ノ出入ハ勿論罾袋網ノ繫留其地捕魚採藻上ノ不便實ニ鮮少ナラサルヲ以テ當道人民ハ夙ニ種々ノ方法ヲ以テ岩礁ヲ掘鑿シタルモノ及掘鑿セント欲シ出願スルモノ夥敷有之將來亦漁業進歩ニ伴ヒ愈多ヲ加フルハ必然ノ事ト被存候然ルニ右掘鑿願處分ノ儀ハ去ル二十年中當廳理事官堀基上京ノ際貴省ヘ打合當廳限リ處分差支無之趣御回答相成タル趣同官ヨリ移牒ニ據リ從來當廳限リ處分シ來リ候得共今日ニ於テハ明ニ公文書ニ徴シ充分之ヲ確認スルモノ無之取扱上不都合ニ候條左ノ件從前ノ通り當廳限リ處分方御確認相成候様御取計相成度

一 捕魚採藻ノ業ヲ營ム爲メ海面及海濱ノ岩礁掘鑿ノ件
 但海濱ハ春分秋分最高潮ノ到ル處ヲ限リトス

尤岩礁掘鑿ノ箇處ハ其掘鑿人ヘ所有及占有權ヲ得セシムルニ止マリ且出願許可ノ際ハ客歲十月貴省訓令第三十六號ニ依準シ命令書ヲ下付可致(但料金ヲ徵收セス)候右岩礁掘鑿ノ義ハ當道漁藻上從來ノ慣行ニ依リ其處分如何ニ因テハ漁業社會ニ尠カラサル影響ヲ及ホシ候儀ニ付一應從前取扱方ノ顛末ヲ記シタル意見承知致シ置キ度此段及御照會候也
 ○庶務局長回答 明治二十四年 九月十一日

八月十九日甲第一號ヲ以テ海面及濱海ニ於テ岩礁掘鑿ノコト及掘鑿箇所使用方等ノ義ニ付照會ノ趣了承右掘鑿ノ件聽許ノ儀ハ貴廳限リ處分相成可然掘鑿ノ箇所使用ノ義ハ其水面ノ四至ヲ區畫シテ之ヲ專用ヲ許スモノニ候ハ、申越ノ通訓令第三十六號ニ依テ取扱相成而シテ相當料金ヲモ納メシメラルヘク其水面ヲ區畫シテ專用セサルモノハ訓令ニ依ルニ及ハサル儀ト存候又海濱等ニシテ土地ノ使用ニ係ルモノハ官有土地貸渡ノ例ニ依テ取扱相成儀ト存候此段及回答候也
 追テ右岩礁掘鑿ノ件ハ大臣ヘモ伺濟ニ有之候間此旨申添候也

○官有土地水面公私有區分ノ件

○内務省訓第六九四號 明治二十六年 十一月二十日
 官有土地水面公私有ノ區別ニ就テハ是迄稟申ニ對シ指令ニ及ヒ置候旨モ有之候處自今公有私有ノ區分ヲナストキハ其公用ニ供シタルモノヲ公有トシ其他ヲ私有トシテ取扱フヘシ

○同上ノ件

○北海道廳内訓 明治二十六年 十二月二十七日
 官有土地水面處分ノ際公私有區分方ノ儀ハ自今現ニ公用ニ供シアルモノヲ公用トシ其他ヲ私有トシテ取扱ハルヘシ

○海面又ハ海岸ニ於テ土木工事施行ノ場合海軍鎮守府ヘ

協議ヲ要スル件

○内務大臣訓令 明治三十三年四月十九日 訓第四二四號
 海面又ハ海岸ニ於テ港灣ノ模樣替、船渠、埠頭、棧橋ノ設廢海面ノ埋立浚渫堀割ノ開通閉塞等苟クモ水陸交界及附近ノ狀態ヲ變更スルカ如キ土木工事ノ施行又ハ海面ヲ使用センコトヲ官廳ヨリ照會

北海道廳

アリタルトキ若クハ出願スルモノアリタルトキ又ハ北海道廳(府縣)ニ於テ施行若クハ使用セントスルトキハ豫メ所管海軍鎮守府司令長官へ協議ヲ遂ケ處理又ハ稟議スヘシ
但シ本大臣へ稟議スヘキモノハ當該鎮守府司令長官へ協議シタル旨ヲ附記スヘシ
右訓令ス

○千坪以内ノ海面使用ハ海軍鎮守府へ協議ヲ要セサル件

○内務大臣訓令 明治三十三年十月十六日
訓第九九〇號

北海道廳

明治三十三年四月訓第四二四號ニ依リ處理又ハ稟請前豫メ所管海軍鎮守府司令長官へ協議ヲ遂クヘキ事項中千坪以内ノ海面使用ニシテ水深及海岸地形ヲ變更セサル事件ハ自今豫メ右ノ協議ヲ要セス處分後毎年六月三十日マテニ一括シテ所管海軍鎮守府司令長官ニ報告スヘシ但許可ヲナスニハ必要ニ應シ何時ニテモ許可ヲ取消スヘキ條件ヲ附スヘシ
右訓令ス

○港灣又ハ海面ニ於テ土木工事ニ關スル願書進達ノ際
一般圖添付ノ件

○土木局長通牒 明治三十三年十二月十九日
海甲第六八號ノ内

海面又ハ海岸ニ於テ土木工事ノ施行又ハ水面使用ニ付テハ當該鎮守府司令長官へ協議セラルヘキ旨本年四月當省訓第四二四號ヲ以テ訓令相成候處從來右ニ關スル稟議書ニ添付ノ圖面ニシテ關係箇所ノ一部分ノミヲ掲記セラル、向モ有之調査上差支候條爾後ハ必ス其關係箇所ハ勿論該箇所ハ何レノ地方何レノ沿海ニ當ルヤ一目明瞭ナル一般圖ヲ添へ提出相成度依命此段及通牒候也

○殖民地部長ヨリ各支廳長へ通牒 明治三十四年二月二十八日
殖拓第一一九九號

港灣ノ模様替又ハ海岸ノ状態ヲ變更スル等客歲十二月二十二日訓第八百十七號訓令ニ該當スル事件及海面ノ使用ニ付テハ所管鎮守府へ協議ヲ要スル義ニ付右ニ關スル御進達ノ書類ニ添付スヘキ圖面ハ爾後必ス其關係箇所ハ勿論該箇所ハ何レノ地方何レノ沿海ニ當ルヤ實測圖ノ外別ニ明瞭ナル一般圖ヲ添へ御進達相成度依命此段及通牒候也

○海濱又ハ海岸ニ於ケル土木工事願ハ經伺ノ上處分スヘキ件

○北海道廳訓第八百十七號 明治三十三年
十二月二十二日

支廳

海濱地又ハ海岸ニ於テ港灣ノ模様替、船渠、埠頭、棧橋ノ設廢堀割ノ開通閉塞等苟モ水陸交界及附近ノ状態ヲ變更スルカ如キ土木工事ヲ施行セントコトヲ出願スルモノアリタルトキ又ハ支廳ニ於テ施行セントスルトキ其處分支廳長委任權内ニ屬スルトキハ關係書類ヲ添へ經伺ノ上處分スヘシ

○海面海岸ノ使用又ハ土木工事ヲ施行スルニ當リ鎮守府

司令長官ニ協議ニ及ハサル事項ノ件

○内務省訓第六四九號 明治三十五年
八月二十六日

明治三十三年四月訓第四二四號ヲ以テ海面又ハ海岸ニ於ケル土木工事ノ施行又ハ海面ノ使用ニ關シ所轄海軍鎮守府司令長官ニ協議スヘキ旨及訓令候處自今左ノ區域ニアリテハ現ニ海軍省所有地若クハ建造物附近ニ於ケル工事ノ施行又ハ極メテ重大ナル工事ニシテ海面海岸等ニ永久ノ變化ヲ生スルモノニ限リ協議ノ手續ヲ履行シ其他ハ右訓令ノ範圍外トシテ處理シ事後ニ於テ其工事ノ要領ヲ鎮守府司令長官ニ直接通知ヲ爲スヘシ

右訓令ス

- 一、北海道及千島ノ全岸但シ渡島國函館港及附近膽振國室蘭港及附近根室國根室港及附近並千島擇捉島留別港及附近ヲ除ク
 - 一、函館港及附近トハ葛登支岬燈臺ト尾花岬トヲ結合シタル直線以内ノ海岸海面及東岬ヨリ北東方ヘ約二海里ノ海岸海面ヲ謂フ(海軍海圖第六號參照)
 - 一、室蘭港及附近トハ「ムイ」鼻ト「ボテイシ」崎トヲ結合シタル直線以内ノ海岸海面及「ムイ」鼻ヨリ「チキウ」岬ニ至ル海岸一帯ヲ謂フ(海軍海圖第三百二十八號參照)
 - 一、根室港及附近トハ「ヘニケムイ」崎ヨリ「アツケシ」鼻ニ至ル海岸及距岸二海里以内ノ海面ヲ謂フ(海軍海圖第二百三十五號參照)
 - 一、留別港及附近トハ珊瑚崎及「ニセイ」崎ヲ結合シタル一線以内ノ海岸海面ヲ謂フ(海軍海圖第二百四十二號參照)
- 第二ヨリ第九マテハ北海道ニ關係ナキヲ以テ略ス
以上第一ヨリ第九ニ至ル區域ノ外及但書ノ區域内ハ從來ノ通訓第四二四號ニヨリ協議ノ手續ヲ爲スハ勿論ナリトス

○海面使用處分ニ關スル件

○北海道應訓第九百四十五號 明治三十五年(三十六年七月北海道應訓第一)十月二十二日(六三九號ヲ以テ一部改正)
 明治三十三年^三訓第八百十七號ヲ以テ海濱地又ハ海岸ニ於テ工事施行ノ場合經伺方及訓令候處今般廳令第三百三十五號ニテ海面ノ使用處分委任候ニ付自今左ノ區域内ニアリテハ現ニ海軍省所有地若クハ建造物附近ニ於ケル極メテ重大ナルモノニ限リ經伺ノ上處分シ其他ハ直チニ處分シ事後ニ於テ其

要領ヲ具シ申報スヘシ

- 一、北海道ノ全岸但渡島國函館港及附近膽振國室蘭港及附近根室國根室港及附近並千島國擇捉島留別港及附近ヲ除ク
 - 一、函館港及附近トハ葛登支岬燈臺ト尾花岬トヲ結合シタル直線以内ノ海岸海面及東岬ヨリ北東方ヘ約二海里ノ海岸海面ヲ謂フ(海軍海圖第六號參照)
 - 一、室蘭港及附近トハ「ムイ」鼻ト「ボテイシ」崎トヲ結合シタル直線以内ノ海岸海面及「ムイ」鼻ヨリ「チキウ」岬ニ至ル海岸一帯ヲ謂フ(海軍海圖第三百二十八號參照)
 - 一、根室港及附近トハ「ヘニケムイ」崎ヨリ「アツケシ」鼻ニ至ル海岸及距岸二海里以内ノ海面ヲ謂フ(海軍海圖第二百三十五號參照)
 - 一、留別港及附近トハ珊瑚崎及「ニセイ」崎ヲ結合シタル一線内ノ海岸海面ヲ謂フ(海軍海圖第二百四十二號參照)
- 以上四港及其附近ノ區域内ニ於テハ千坪以上ノ水面使用ハ經伺シ其他ハ直ニ處分シ其事項ハ翌年二月末日迄ニ申報スヘシ

○海面海岸ニ於ケル土木工事ノ施行又ハ海面ノ使用ニ關スル件

○内務省土木局長ヨリ通牒 明治三十八年九月二十七日 海甲第三三號ノ内
 海面海岸ニ於ケル土木工事ノ施行又ハ海面ノ使用等ニ關シ官廳ノ照會ニ對シ回答セラル、場合ニ於テ所管海軍鎮守府司令長官ニ協議ヲ遂ケラレシモノハ該回答書ヘ其旨附記相成度依命此段及通牒候也

○開港區域内土木工事施行ノ際當該稅關長ニ協議ノ件

○内務省土木局長ヨリ通牒 明治三十八年五月二十七日 秘乙第一四一號ノ内

貴管下函館、小樽、釧路、室蘭等ノ各開港区内ニ於ケル土木工事施行ニシテ貴官限リ處分セラルヘキモノハ前以テ當該稅關長ヘ協議相成度依命此段及通牒候也
 追テ本文各港灣ニ於ケル水面埋立ノ如キ當省ヘ稟伺セラルヘキモノニ付テハ本文ノ手續ヲ要セサル義ニ有之候條此段申添候也

○港灣又ハ海面ニ土工事施行ノ際一般圖提出方通牒ノ件

○第六部長ヨリ各支廳長(上川空知ヲ除ク)函館、小樽區長ヘ通牒
明治四十年十二月五日 六土第四二二三號

(區長ニハ第六部長單獨ニテ通牒シ且ツ追テ書ヲ記載セサルモノトス)

左記各項ノ一ニ該當スル土木工事ヲ出願シタル者アルトキハ土木工事取締規則所定ノ圖面ノ外海圖其物ニ位置、面積、形界等ヲ海圖ト同一ノ尺度ヲ以テ記入シタル一般圖ヲ提出セシメ進達相成度尤モ海圖大ニシテ遞送不便ナルトキ若クハ海圖ヲ提出シ難キ場合ハ關係部分ヲ切取又ハ之ヲ謄寫シタルモノヲ代用シ差支無之但シ此場合ニ於テハ海圖番號記入セシメラレ度依命此段及通牒候也
 追テ客月十二日五拓第六一八五號ヲ以テ第五部長ヨリ通牒シタル事項ハ本通牒ニ依リ消滅シタル儀ト承知相成度候

左記

- 一、函館、小樽、室蘭、釧路ノ各港灣ニ於テ港灣ノ改良ヲ目的トスル土木工事
- 二、同上港灣ニ於ケル公有水面ノ埋立工事
- 三、同上外ノ個所ニ於テ三千坪以上ノ公有水面埋立工事

○海面埋立又ハ海岸ニ關スル土木工事施行ニ關シテハ

大湊要港司令官ヘ協議スヘキ件

○内務省土木局長ヨリ通牒
明治四十一年三月三十一日 内務省四〇海甲第三一號ノ内
 海面埋立又ハ海岸ニ關スル土木工事施行等ニ付テハ豫メ所管海軍鎮守府司令長官ヘ協議ヲ遂ケ處理又ハ稟議セラルヘキ旨去ル明治三十三年四月訓第四二四號ヲ以テ訓令相成候處貴管内海岸海面ニ關シテハ自今大港要港司令官ヘ協議スヘキ事ニ相成候條右様御了知相成度依命此段及通牒候也

○風防林特別使用規則發布ノ件

○拓殖部長ヨリ各支廳長ニ通牒
大正三年五月四日 拓殖第三四六八號
 風防林地特別使用ニ關シ本日廳令第四十四號及訓令第三十九號ヲ以テ規則並施行細則發布相成候條御了知相成度依命此段及通牒候也
 追而許可指令書ニ添付スヘキ起業方法書ハ別紙様式ニ據ラレ度此段申添候也

指令書ニ添付スヘキ起業方法書

年次	種別	植栽地積	植栽樹種	補植及下刈	其他
初年 (大正何年)					
二年					
三年					
四年					
五年					

第七條 前條ノ苗木ハ長サ一尺五寸以上ニシテ發育良好ナルモノヲ用ウヘシ但シ插穂又ハ台切苗ヲ用ウル場合ハ切口周圍一寸以上ノモノナルコトヲ要ス

第八條 植栽ハ天然生木ヲ通算シ壹坪壹本ノ割合ニテ行ヒ新植シタル樹木又ハ天然生木ニシテ枯死シタル場合ハ補植スヘシ

前項ノ植栽本數ハ必要ニ應ジ許可ヲ得テ増減スルコトヲ得

第九條 風防林仕立成功期間ハ左ノ區別ニ依ル但シ使用期間ヲ超ユルコトヲ得ス

一、仕立地 參町步迄 五個年以内

二、同 十五町步迄 十個年以内

三、同 十五町步以上 十五個年以内

第十條 天災其他避クヘカラサル事故ニ因リ豫定ノ期間内ニ成功スルコト能ハサルトキハ其期間ヲ延長スルコトヲ得

前項ノ延長期間ハ通シテ當初豫定期間ノ半ヲ超ユルコトヲ得ス

第一項ニヨリ成功期間ヲ延長シタル場合ニ於テ使用期間ヲ超過スルニ至リタルトキハ使用期間モ亦之ニ準シテ延長スルモノトス

第十一條 使用許可スヘキ区域内ニ可用立木アルトキハ相當代價ヲ以テ使用者ニ賣拂フモノトス

第十二條 使用者ハ使用ノ目的ヲ變更シ又ハ其使用權ヲ擔保ニ供シ若ハ他ニ移轉スルコトヲ得ス但シ行政廳ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限リニアラス

相續ニ因リ使用權ヲ繼承シタルモノハ戶籍謄本ヲ添ヘ遲滞ナク其旨届出ツヘシ

使用者ノ權利ヲ取得シタルモノハ官ニ對シ前者ノ權利義務ヲ繼承ス

第十三條 公用又ハ公共ノ利益ト爲ルヘキ事業ノ爲メ其他公益上必要ナルトキハ使用地ノ返還ヲ命

スルコトアルヘシ但シ此場合ニ於テ使用者ニ損害アルモ之カ賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

使用者ノ便宜ニ依リ使用地ヲ返還セントスルトキハ出願許可ヲ受クヘシ

第十四條 許可指令ノ條件又ハ豫定ノ起業方法ニ違反シタルトキハ許可ヲ取消スヘシ

前項ノ場合ニ於テ使用者ニ損害ヲ生スルコトアルモ其ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

第十五條 第十二條第一項及第十三條第一項ノ場合ニ於テハ返還又ハ取消前官ニ對シテ負擔シタル植栽及監護ノ義務ノ不履行ニ付其損害ヲ賠償スヘシ

前項ノ損害額ハ北海道廳長官又ハ北海道廳支廳長ノ選任シタル評價委員ノ評定ニ依ルモノトシ使用者ハ其評定額ニ對シ異議ヲ述フルコトヲ得ス

第十六條 使用ノ許可ヲ取消シ又ハ使用地ヲ返還シタル場合ニ於テ其土地ニ工作物其他ノ物件アルトキハ所有者ニ於テ指定ノ期間内ニ之ヲ除去スヘシ若其期間内ニ除去セサルトキハ官ニ於テ適宜之ヲ處分シ其費用ヲ徴收スヘシ

使用期間満了シタルトキ亦前項ニ同シ

第十七條 共同シテ使用ノ許可ヲ受ケタル者ノ官ニ對スル義務ハ連帶トス

第十八條 許可ヲ受ケスシテ風防林地ヲ開墾耕作シ若ハ人ヲシテ開墾耕作セシメタル者ハ五拾圓以下ノ罰金又ハ五圓以上ノ科料ニ處シ尙其漫用ニ對スル辨償金ヲ徴收ス

附 則

第十九條 本規則ハ大正三年六月一日ヨリ施行ス

第二十條 本規則施行前風防林地ノ使用許可ヲ受ケタル者ハ大正三年八月三十一日迄ニ本規則ニ依リ更ニ出願許可ヲ受クヘシ

前項ノ期間内ニ出願セサル者ハ曩ニ許可シタル使用權ヲ拋棄シタルモノト看做ス
風防林使用願書式

風防林使用願

- 一、位置 何國何郡何町村大字何町村字何
- 二、イ使用地積 何町何段何畝何歩
- 内附帶地 何町何段何畝何歩
- 殘存地 何町何段何畝何歩
- ロ風防林仕立地 何町何段何畝何歩

三、使用ノ目的

四、使用期間

右風防林地特別使用規則ニ依リ使用竝立木ノ拂下御許可相成度圖面及風防林起業方法書竝戸籍謄本相添此段相願候也

大正何年何月何日

原籍何府縣何郡(市區)何町村大字何町村字何何番地
當時何府縣何郡(市區)何町村大字何町村字何何番地

何 某

印

北海道廳長官(北海道廳何支廳長)何某殿

風防林起業方法書式

一、風防林仕立地面積 何町歩

風防林起業方法書

植栽本數ハ天然生木ヲ通算シ壹坪ニ付壹本ノ割合トス

二、植栽樹種 何々

三、植栽計畫

初年 (大正何年) 植栽地何町歩

二年目 植栽地何町歩

外ニ補植及下刈ヲ行フ但シ補植ハ栽植シタル樹木又ハ天然木ニシテ枯死又ハ燒損シタル場合ニ之ヲ行フモノトス

三年以下二年目ニ做フ

四、手入及監護ノ方法

下刈ハ栽植ノ年ニ於テ一回以上次年以後ハ年二回以上行ヒ三年目ヲ以テ終了スルモノトス但シ秋季植栽ノ場合ハ其年ニ於ケル下刈ヲ省畧スルコトアルヘシ

風防林仕立地ハ山火其他ノ被害防除ノ爲毎年一回以上刈拂ヲ行フモノトス
隨時林内ヲ巡回シテ監護ヲ怠ラサルモノトス

注 意

一、初年トハ使用許可ノ翌年ヲ指スルモノトス

二、植栽スヘキ毎年ノ地積ハ之ヲ均一トス

三、成功期間ノ最終年ハ使用期間ノ最終年ヨリ少クモ一ヶ年前ナルヲ要ス

○北海道廳訓令第三十九號 大正三年五月八日

風防林地特別使用規則施行細則左ノ通定ム

風防林地特別使用規則施行細則

- 第一條 風防林地ニシテ幅員四十間未満ノモノ及相當ノ林相ヲ成シ現在若ハ將來ニ於テ風防ノ効力アリト認ムルモノハ其使用ヲ許可セサルモノトス
- 第二條 使用ヲ許可スヘキ風防林地ニハ生木ノ最多キ部分ニ於テ風防林地ノ境界線ニ平行シ幅員三十間ノ風防林仕立地ヲ其兩側ニ各五間ノ附帶地ヲ設クヘシ但シ仕立地ニシテ豫定道路又ハ既成道路ニ接スルトキハ其反對ノ側ニ於テノミ附帶地ヲ設クヘシ
- 第三條 規則第二條第二項ニ依リ告示シタル風防林地ノ圖面ハ北海道廳及所轄支廳ニ備付ケ縦覽ニ供スヘシ
- 第四條 北海道廳長官ノ處分ニ屬スル使用出願アリタルトキハ支廳長ハ第一號書式ノ調査ヲ添ヘ上申スヘシ
- 支廳長ニ於テ實地調査ノ指揮ヲ受ケタルトキハ調査ヲ遂ケ設計圖及評價書ヲ添ヘ進達スヘシ
- 支廳長處分ニ屬スルモノト雖處分前第一項ノ調査書ヲ添ヘ進達指揮ヲ受クヘシ
- 第五條 出願ニ對シテ許可ヲ與フルトキハ第二號様式ノ命令書ヲ下付シ全文ヲ記載シタル請書ヲ徴スヘシ
- 第六條 使用期間ハ許可ノ月ヨリ起算シ最終年ハ十二月ヲ以テ了ルモノトス
- 第七條 使用料ハ左ノ第一方式並標準ニ據リ評定スヘシ但シ仕立地ノ成功ヲ了リタル風防林地ヲ繼續セシムルトキハ第二方式ニ據ルヘシ

第一方式

$$\left(\frac{\text{有料使用地總反別}}{\text{壹ケ年ノ小作料}} \times \text{使用年限} \right) + \left(\text{植栽費} + \left\{ \frac{\text{使用年限} - 1}{\text{使用年限} - \text{成功年限}} \right\} \times \text{仕立地總反別} \right) \times \text{壹ケ年ノ小作料} = \text{對スル費}$$

$$\left(\frac{\text{有料使用地總反別}}{\text{壹ケ年ノ小作料}} \right) \times \text{使用年限} = \text{總額}$$

$$\left(\frac{\text{有料使用地總反別}}{\text{壹ケ年ノ小作料}} \right) \times \text{使用年限} = \text{壹反歩壹ケ年ノ使用料}$$

第二方式

$$\left(\frac{\text{有料使用地總反別}}{\text{壹ケ年ノ小作料}} \right) - \left(\frac{\text{仕立地總反別}}{\text{壹ケ年ノ監護費}} \right) = \text{對スル費}$$

$$\left(\frac{\text{有料使用地總反別}}{\text{壹ケ年ノ小作料}} \right) = \text{壹反歩壹ケ年ノ使用料}$$

一、小作料評定ノ標準

- 一等地 壹反歩ノ收穫見積價格 貳拾圓以上ト認ムルモノ金參圓
- 二等地 同 拾五圓以上ト認ムルモノ金貳圓貳拾錢
- 三等地 同 拾貳圓以上ト認ムルモノ金壹圓七拾錢
- 四等地 同 拾圓以上ト認ムルモノ金壹圓參拾錢
- 五等地 同 七圓以上ト認ムルモノ金壹圓
- 六等地 同 七圓未満ト認ムルモノ金六拾錢

二、壹段歩ニ要スル植栽費 金七圓貳拾錢

三、壹段歩ニ要スル壹ケ年ノ監護費 金參拾六錢

- 前項ノ方式ニ於ケル使用年限ハ許可ノ翌年ヨリ起算スルモノトス
- 第八條 風防林仕立地ニ對シテハ支廳ニ於テ毎年一回使用者ヲ立會セシメ検査ヲ施行シ検査後三十日以内ニ第三號様式ニ依リ其ノ狀況ヲ報告スヘシ
- 前項ノ検査ニ於テ使用者ヲ立會セシムルコト能ハサルトキハ附近居住者ヲ立會セシムヘシ
- 第九條 検査ヲ行フトキハ第四號様式ノ検査簿ニ其ノ成績ヲ記入シ立會人ト共ニ署名捺印スヘシ
- 第十條 前條ノ検査ニ於テ豫定方法ノ如ク成功セス又ハ規則第十一條第一項ニ違背シタルモノニ對シテハ第五號様式ノ臨檢調書ヲ作成シ其ノ北海道廳長官ノ處分ニ屬スルモノニアリテハ意見ヲ附

シ直チニ進達スヘシ

臨檢調書ヲ作成シタルトキハ尙左ノ事項ヲ調査シ其ノ調査書ヲ添付スヘシ

一、豫定方法ノ如ク成功セザリシ原因

一、使用許可地内ニ使用人ノ買受ケタル樹木ノ存在スルトキハ其本數材積

一、使用權ヲ擔保ニ供シ又ハ他ニ移轉シアル場合ニハ其擔保ヲ受ケ若ハ之ヲ取得シタル者ノ住所

氏名

第十一條 風防林地ノ使用ヲ許可シタルトキハ第六號様式ノ台帳ヲ作製シ長官處分ニ屬スルモノハ

支廳ニ支廳處分ニ屬スルモノハ本廳ニ其ノ謄本ヲ送付スヘシ

第十二條 支廳長權内ニ屬スル取消返還其ノ他許可地ニ異動アリタルトキハ其ノ旨直ニ報告スヘシ

第十三條 支廳長ハ每會計年度經過一ヶ月以内ニ各使用地ニ付前年度ニ於ケル使用料ノ納否ヲ報告

スヘシ

第一號様式

風防林地使用願調查書

受理 番 號	年月日	地	名	出願 許可 見込 反別	反別	摘	要	職 業	氏	名

備考

處分ノ資料トナルヘキ事項ヲ簡明ニ摘要欄ニ記載スヘシ
第二號様式

原籍
住所

何
某

大正何年何月何日願何國何郡何町村大字何町村字何ニ於テ官有風防林地何町何段何畝何歩使用竝立
木拂下ノ件許可候條左ノ條件ヲ遵守スヘシ

大正何年何月何日

北海道廳長官(支廳長)

第一條 風防林地使用區域ハ別紙圖面何色ノ個所トス

第二條 使用ノ目的ハ耕作ニ供スルモノトシ他ノ目的ニ供スルコトヲ得ス

第三條 使用期間ハ許可ノ月ヨリ大正何年十二月迄滿何年何個月トス

第四條 使用地内ニ於ケル立木ノ代金何圓何拾何錢ハ納入告知書指定ノ期間内ニ納付スヘシ

第五條 使用料ハ壹個年金何圓トシ納入告知書指定ノ期間内ニ納付スヘシ

第六條 風防林中別紙圖面何色ノ個所ニハ別紙起業方法書ニ基キ樹木ノ植栽及手入監護ヲ爲スヘシ

第七條 全部ノ植栽ヲ終リタル後ト雖モ使用期間中ハ手入監護及補植ノ義務ヲ負擔スルモノトス

第八條 風防林附帶地ニ就テハ常ニ防火上ニ注意シ野火延焼ヲ誘致スル物件ヲ除去スヘシ

第九條 使用權ハ官ノ許可ヲ受クルニアラサレハ擔保ニ供シ又ハ他ニ移轉スルコトヲ得ス

第十條 風防林仕立地ニ於テ植栽及手入監護上樹木ノ伐採ヲ必要トスルトキハ出願許可ヲ受クヘシ

第十一條 法律命令ノ施行上又ハ公益若クハ官ニ於テ必要ト認ムルトキハ此命令書ノ條件ヲ増減變

七月八日札地第四二八號ヲ以テ幅員四十間未滿ノ風防林地ニ對スル樹木植栽寄附ノ件ニ付伺出相成候處右者御申越ノ通其方法適切ニシテ且確實ト認ムル場合ニハ許可相成ルヘキ見込ニ候條御了知相成度尙今後御部内ニ於ケル個人及團體等ニ對シ此種ノ事業御獎勵ノ上風防愛護ノ精神ヲ喚起シ風防ニ關スル施設ノ發達ヲ期セラレ度回答ヲ兼此段依命及通牒候也

大正三年八月十八日
拓殖第五二三四號

○拓殖部長ヨリ各支廳(札幌支廳長ヲ除ク)通牒
幅員四十間未滿ノ風防林地ニ對シ樹木ノ植栽寄附ヲ出願スルモノアルトキハ其方法適切ニシテ且確實ト認ムル場合ニハ許可相成ヘキ見込ニ候條御部内ニ於ケル個人及團體等ニ對シ相當御獎勵ノ上風防林愛護ノ精神ヲ喚起シ風防ニ關スル施設ノ發達ヲ期セラレ候様致度依命此段及通牒候也

○堤防敷地處分規程

○北海道廳訓令第九號 明治三十一年
二月二十五日

堤防敷地處分規定

第一條 堤防敷地ハ河川、湖沼池、溜池、用水路、排水路及鑿泉地ニ沿ヒタル土地ニシテ堤塘築造ノ爲メ除地シタル官有地及明治三十年當廳訓第一百六十五號土地調査心得第六條第七條ニ依リ同シク除地スヘキ官有地トス

第二條 堤防敷地ノ使用ハ左ノ種目ニ據ラシムルモノトス

但シ特別ノ規定アルモノハ此限ニアラス

第一項 畑地

但シ河川等ニ土砂流出ノ虞ナキモノニ限ル

第二項 宅地
但シ一時居住スル爲メ建造物ヲ假設スルモノニ限ル

第三項 物揚場

第四項 物乾場

第五項 物置場

第六項 渡船場

第七項 水車場

第八項 繫船場

第九項 前各項ノ外公益ノ事業水利ノ便ニ依ラサルヲ得サル事業

第三條 堤防敷地ヲ畑地又ハ宅地ニ使用ヲ出願セントスルモノハ接續地主若クハ接續地使用者ニ限ルモノトス若シ他人ニ於テ出願セントスルトキハ接續地主又ハ使用者ニ於テ故障ナキ旨ノ承諾書ヲ添附スルヲ要ス

第四條 堤防敷地ノ使用地積ハ其事業ノ目的ニ依リ必要ト認メタルモノニ限ルヲ以テ其目的ニ應シ不相當ト認メタルトキハ相當地積ニ訂正セシムルモノトス

第五條 堤防敷地ニ樹木ヲ植付ケ之ヲ寄附シ又ハ芝草ヲ蒔取其他雜產物ノ賣渡若クハ道路水路及排水浪除柵等私費築造又ハ設置ヲ出願スルモノアルトキハ水利治水竝公益上障礙ノ虞ナキ場合ニ限リ之ヲ許可スルコトヲ得

第六條 堤防敷地トシテ樹木密生ノ箇所ハ使用ヲ許サスト雖モ樹木ヲ伐採スルトキ水利治水竝公益上利益アリト認メタルトキハ之ヲ許可スルコトヲ得

第七條 堤防敷地ノ使用ヲ出願スルモノアルトキハ水利治水ノ關係ヲ審査シ其他公益上障礙ノ有無

ヲ調査シテ之ヲ處分スルモノトス

第八條 堤防敷地ハ直接公用ニ供スルカ又ハ公共ノ利益トナル事業ノ爲メ使用ヲ出願シタルモノノ外ハ使用料ヲ徴收スルモノトス

第九條 堤防敷地ノ使用料ハ願人ノ申出金額及評價委員ノ評價金額ヲ酌量シテ之ヲ定ムルモノトス

第十條 堤防敷地ノ使用期限ハ滿五箇年以内トシ滿期後繼續使用ヲ許可スル事ヲ得

第十一條 堤防敷地ハ左ニ規定ノ事項ヲ記載シタル命令書ヲ下付シテ之ヲ許可スルモノトス

但使用地域ヲ示シタル實測圖ヲ添附スヘシ

第一項 出願人ノ住所氏名

第二項 使用地ノ位置及坪數

第三項 使用ノ目的及期限

第四項 使用料金及納付期日

第五項 使用地他人ニ使用セシムルヲ得ザルコト

第六項 使用地ノ修理保存及之ニ要スル諸費ハ使用人ノ負擔タルコト

第七項 法律命令ノ施行及公益又ハ官用上必要アルトキ若クハ公害ヲ生シ又ハ公害ヲ生セントスル虞アリト認ムルトキハ何時ニテモ此命令書ノ條件ヲ増減變更シ若クハ土地ノ使用ヲ停止シ又ハ禁止スルコト

第八項 此命令書ノ條件ニ從ハサルトキハ使用免許ヲ解クコト

第九項 使用免許權ヲ失ヒタルトキハ使用地内ニ現存スル使用人ノ物件ハ行政廳ノ指定シタル期限内ニ之ヲ除去スルコト

第十項 前項ノ場合ニ於テ己成工事ニシテ他ニ障礙ヲ及ホシ又ハ堤防敷地保存等ノ爲メ障礙アリト認ムルトキハ行政廳ノ指定シタル期限内ニ之ヲ原形ニ復スルコト

第十一項 使用期限滿了又ハ使用人ノ都合ニ依リ使用ヲ止メタル場合モ第九項第十項ヲ適用スルコト

第十二項 免許ヲ受ケタルモノニ於テ此命令書ニ基ケル義務ヲ履行セザルトキハ行政廳ハ代テ之ヲ執行シ又ハ第三者ヲシテ代テ之ヲ執行セシムルコト

第十三項 此命令書ニ從ヒ免許ヲ受ケタル者ノ履行スヘキ義務ノ爲メ生スル費用及前項ノ費用ハ總テ免許ヲ受ケタルモノノ負擔タルコト

第十四項 此命令書ニ基ヒテ發スル命令ニ依リ免許ヲ受ケタル者ニ於テ損害ヲ蒙ルコトアルモ其賠償ヲ請求スルコトヲ得サルコト

○堤防敷地特別使用規則

○北海道廳令第三十四號 大正二年 四月十三日

堤防敷地特別使用規則

第一條 本規則ハ別表河川ノ堤防敷地中特ニ指定シタル區域ニ付第二條ノ目的ヲ以テ其ノ使用ヲ爲サムトスル者ニ對シ之ヲ適用ス

前項ノ區域ハ其ノ時々之ヲ告示ス

第二條 楊柳又ハ牧草ノ栽培其ノ他耕作ノ目的ヲ以テ堤防敷地ヲ使用セムトスル者ハ本規則ニ依リ許可ヲ受クヘシ

前項ニ依リ許可ヲ受ケタル土地ニ對シテハ一尺以上ノ鋤起シヲ爲シ畦畔ヲ一尺以上ノ高トシ又ハ水田其ノ他常時堤防敷地ヲ濕潤スヘキ方法ヲ以テ耕作シ又ハ地下ヲ穿堀スルニ非サレハ植栽若ハ

採取スルコトヲ得サル長根ノ作物ヲ耕作スルコトヲ得ス

第三條 前條ノ願書ニハ別紙様式ニ依リ左ノ事項ヲ記載シ使用區域ノ實測圖ヲ添付スヘシ

一 使用地ノ位置、坪數及其ノ現況

二 使用地内ニ存在スル物件ノ種類及其ノ數量

三 使用ノ目的、方法及作物ノ種類

四 使用ノ期限

第四條 堤防敷地ノ使用期限ハ滿五箇年以内トス但シ繼續使用セムトスル者ハ期間滿了三箇月以前

ニ出願許可ヲ受クヘシ

第五條 使用者ハ別ニ定ムル所ニ依リ使用料ヲ納付スヘシ

作物ノ收穫前ニ於テ第九條第二項ニ依リ土地ノ返還ヲ命シ其ノ他收穫ヲ不能ナラシメタルトキハ

其ノ地積ニ對スル其ノ年ノ使用料ハ之ヲ徵收セス

使用料ノ納期ハ十一月三十日トス

前項ノ納期以後ニ於テ使用ノ許可ヲ受ケタル者ニ對シテハ其ノ年ノ使用料ハ之ヲ徵收セス

第六條 使用者ハ使用地ニ接續セル堤防敷地ニ對シ素地ノ儘楊柳ヲ栽培スルノ義務ヲ負フ

前項ノ區域及栽培ノ方法其ノ他必要ナル事項ハ別ニ指定スル所ニ依ル

第七條 使用者ハ使用ノ目的ヲ變更シ又ハ其ノ使用權ヲ擔保ニ供シ若ハ他人ニ移轉シ又ハ他人ヲシ

テ耕作セシムルコトヲ得ス但シ特ニ許可ヲ受ケタル場合ニ限り其ノ使用權ヲ他人ニ移轉シ若ハ他

人ヲシテ耕作セシムルコトヲ得

相續ニ因リ使用者ノ權利ヲ取得シタル者ハ戶籍謄本ヲ添ヘ直ニ其ノ旨ヲ届出ツヘシ

使用者ノ權利ヲ取得シタル者ハ本規則及本規則ニ基ク處分ニ依ル前者ノ權利義務ヲ承繼ス

第八條 使用期限内ニ於テ使用地ヲ返還セムトスルトキハ出願許可ヲ受クヘシ

前項ノ許可カ翌年ニ涉リタルトキハ其ノ年ノ使用料ハ之ヲ徵收セス

第九條 第二條第二項、第五條第一項若ハ第三項、第六條又ハ第七條其ノ他本規則ニ基ク命令ニ違

反シ又ハ不正ノ手段ヲ以テ許可ヲ受ケタル者ニ對シテハ許可ヲ取消シ又ハ停止シ其ノ他必要ナル

處分ヲ爲シ尙損害アルトキハ使用者ノ費用ヲ以テ之カ修補ヲ命スルコトアルヘシ

公用ニ供スル爲又ハ公共ノ利益ト爲ルヘキ事業ノ爲其ノ他公益上必要ナルトキハ使用地ノ返還ヲ

命シ又ハ前項ノ處分ヲ爲スコトアルヘシ

第十條 前條ノ處分ニ依リ使用者ニ於テ損害ヲ受クルコトアルモ之カ賠償ヲ求ムルコトヲ得ス

第十一條 本規則又ハ本規則ニ基ク處分ニ依リ使用者ノ義務履行ノ爲ニ要スル費用ハ使用者ノ負擔

トス

第十二條 使用地ヲ返還シ又ハ使用ノ許可ヲ取消サレタル場合ニ於テ使用地内ニ私有物件アルトキ

ハ指定ノ日限内ニ之ヲ除去スヘシ其ノ之ヲ除去セサルモノハ使用者ニ於テ拋棄シタルモノト看做

シ適宜之ヲ處分シ尙其ノ費用ヲ使用者ヨリ徵收スルコトアルヘシ

第十三條 本規則ニ依リ提出スル書類ハ所轄區役所町村役場又ハ戶長役場ヲ經由スヘシ

第十四條 本規則又ハ本規則ニ基ク處分ニ依リ命シタル行爲ヲ爲サ、ルトキハ代リテ之ヲ執行シ又

ハ第三者ヲシテ之ヲ執行セシムルコトアルヘシ

第十五條 許可ヲ受ケスシテ第二條ノ目的ヲ以テ堤防敷地ヲ使用シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ

五圓以上ノ科料若ハ五日以上ノ拘留ニ處シ尙其ノ使用ニ對シ第五條ノ規定ニ準シ使用料ニ相當ス

ル金額ヲ徵收ス

第二條第二項ニ違反シテ耕作ヲ爲シタル者ハ二十五圓以下ノ罰金又ハ科料若ハ十五日以下ノ拘留

ニ處ス

前二項ノ場合ニ於テハ違反者ノ費用ヲ以テ原狀ニ回復セシメ其ノ他必要ナル處分ヲ爲スコトアルヘシ

附 則

第十六條 本規則ハ大正二年五月一日ヨリ施行ス

第十七條 第一條ノ指定區域内ニ於テ本規則施行前許可ヲ受ケ第二條ノ目的ヲ以テ堤防敷地ヲ使用スル者尙引續キ使用セムトスルトキハ其ノ使用地ニ對シ本規則ヲ適用スル日ヨリ滿一箇年以内若一箇年以内ニ許可期間滿了スルトキハ其ノ滿了前本規則ニ依リ更ニ出願許可ヲ受クヘシ

第十八條 第一條ノ指定區域外ニ屬スル別表河川ノ堤防敷地ニ付テハ當分ノ内第二條ノ目的ニ依リ使用ヲ禁止ス其ノ禁止ヲ犯シタル者ニ對シテハ第十五條ノ規定ヲ準用ス但シ本規則施行ノ際該目的ヲ以テ現ニ使用スル堤防敷地ニ付テハ左ノ除外例ヲ以テ本規則ノ規定ヲ準用ス

(イ) 現ニ許可ヲ受ケ堤防敷地ヲ使用スル者ニ付テハ左ノ例ニ依ル
前條ノ例ニ依ルヘシ

(ロ) 使用地ノ區域、使用ノ目的、方法、作物ノ種類又ハ使用料金ニ付テハ相當ノ制限ヲ加ヘ又ハ之ヲ變更シ又ハ第六條ニ準シ楊柳ノ栽培ヲ命スルコトアルヘシ

二 本規則發布前許可ヲ受ケスシテ現ニ堤防敷地ヲ使用スル者尙引續キ之ヲ使用セムトスルトキハ大正二年八月三十一日迄ニ出願許可ヲ受クヘシ

三 前二號ニ依リ出願スル區域ハ現ニ使用スル區域ヲ越ユルコトヲ得ス但シ現ニ使用スル區域カ堤防敷地ノ境界線ヨリ現在河岸ノ天端ニ達スル距離ノ三分ノ二ヲ越ユルトキハ之ヲ三分ノ二

以內ニ短縮スヘシ

四 使用區域ニ付テハ出願ノ際確實ナル實測圖ヲ提出スヘシ其ノ區域ニ付テハ後日調査ノ結果誤謬アルコトヲ發見シ又ハ之カ變更ヲ命セラル、コトアルモ使用者ニ於テ異議ヲ申立又ハ既納料金ノ還付ヲ請求スルコトヲ得ス若其ノ區域内ニ他人ノ所有地又ハ貸付地ノ存在スルコトヲ發見シタルトキハ使用者ニ於テ其ノ責ヲ負フヘシ

五 第一號イ後段又ハ第二號ノ規定ニ依リ特別使用ノ許可ヲ受ケタル區域ニ對シ第一條第二項ノ告示アリタルトキハ前條ノ規定ヲ準用ス

願書様式(用紙半紙)

堤防敷地特別使用願

一 使用地ノ位置 何國何郡何區町村大字何字何番地先何第何號第何番(ノ内イロハ)

二 坪數

制限耕作區域

何坪

普通耕作區域

何坪

計

何坪

三

現況

樹林地(草生地)(畑地)平地(斜傾地)砂利質(粘土質)(沖積土)(泥炭地)

使用地内ニ存在スル物件ノ種類及其ノ數量

一 樹木

何本 何尺

内

何木 目通三寸以上 何本 何尺

雜形第二號

使用ノ方法及作物ノ種類ニ關スル區域圖

(圖面畧ス)

一 制限耕作區域		二 普通耕作區域	
畑地	畑地	畑地	畑地
何坪	何坪	何坪	何坪
內 楊柳牧草	內 楊柳牧草	內 楊柳牧草	內 楊柳牧草
何坪	何坪	何坪	何坪
素地ノ儘	素地ノ儘	素地ノ儘	素地ノ儘
何坪	何坪	何坪	何坪
內 楊柳牧草	內 楊柳牧草	內 楊柳牧草	內 楊柳牧草
何坪	何坪	何坪	何坪
別表	別表	別表	別表
河川名	河口地名	河川名	河口地名
石狩川	石狩郡石狩	石狩川	石狩郡石狩
江別川	札幌郡江別	江別川	札幌郡江別
夕張川	空知郡幌向	夕張川	空知郡幌向
千歳川	札幌郡廣島	千歳川	札幌郡廣島
豊平川	札幌郡對雁	豊平川	札幌郡對雁
空知川	空知郡空知太	空知川	空知郡空知太
忠別川	上川郡旭川	忠別川	上川郡旭川

雨龍川	雨龍郡雨龍太
美瑛川	上川郡神居
美唄川	空知郡北村
當別川	石狩郡當別
十勝川	十勝郡十勝
札内川	河西郡下帶廣
利別川	中川郡河合
浦幌川	十勝郡浦幌
猿別川	中川郡止若
音更川	河東郡音更
然別川	河東郡然別
足寄川	足寄郡足寄太
大津川	十勝郡大津
釧路川	釧路郡釧路
阿寒川	釧路郡釧路
雪裡川	釧路郡釧路
茶路川	白糠郡白糠
天鹽川	天鹽郡天鹽
朱太川	壽都郡樽岸
熱鄕川	歌棄郡熱鄕

尻別川	磯谷郡尻別
知内川	上磯郡知内
常呂川	常呂郡常呂
鷓川	勇拂郡鷓川
染退川	靜内郡下下方
留萌川	留萌郡留萌
龜田川	函館區
野田追川	山越郡野田追
遊樂部川	山越郡八雲
大野川	上磯郡上磯
久根別川	龜田郡有川
沙流川	沙流郡佐瑠太
厚別川	沙流郡厚別
新冠川	新冠郡高江
西別川	野付郡西別
堀株川	岩内郡堀株
羽幌川	苫前郡羽幌
厚澤部川	檜山郡柳崎
網走川	網走郡網走
渚滑川	紋別郡渚滑

○堤防敷地特別使用規則施行細則

○北海道廳訓令第三十六號

大正二年
四月十三日

堤防敷地特別使用規則施行細則

第一條 堤防敷地ノ特別使用ヲ禁止シ及之ヲ許可スヘキ區域ハ左ノ標準ニ依リ之ヲ定ムヘシ

一 左ノ區域ハ使用ヲ禁止スヘキ區域トス

(一) 河岸缺壞ノ虞アル區域

興部川	紋別郡興部
標津川	標津郡標津
長流川	有珠郡長流
斜里川	斜里郡斜里
利別川	瀬棚郡瀬棚
幌別川	浦河郡幌別
湧別川	紋別郡湧別
幌別川	枝幸郡枝幸
幌内川	紋別郡幌内
元浦川	浦河郡荻伏
歴舟川	廣尾郡歴舟
虫類川	目梨郡虫類
於古發川	小樽區

- (二) 地表洗堀シ又ハ洗堀ノ虞アル區域
- (三) 地面ノ傾斜急ナル區域
- (四) 既設治水工事其ノ他公共ノ設備ニ屬スル物件及沿岸ノ村落ヲ保護スルカ爲必要ナル區域
- (五) 以上ノ區域ヲ除キタル殘地ノ外方約四分ノ一ノ區域但シ其ノ幅員カ三間乃至五間ニ達セサルトキハ三間乃至五間ノ區域
- 二 前各號以外ノ區域ハ左ノ區別ニ從ヒ使用ヲ許可スヘキ區域トス
 - (六) 堤防敷地中使用ヲ許スヘキ區域ノ外方約三分ノ一ノ區域ハ楊柳又ハ牧草栽培ノ目的ヲ以テスルニ非サレハ許可セサル區域トス但シ左ノ場合ニ於テハ此ノ限リニ在ラス
 - (イ) 河岸ノ土質堅牢ニシテ堤防敷地ノ高サカ洪水面ヲ拔キ其ノ地面ノ傾斜緩徐ナルカ又ハ全ク平坦ナル區域ナルトキ
 - (ロ) 亂流區域ニ屬セサル舊河川ニ沿フ區域ナルトキ
 - (七) 其ノ他ノ區域ハ普通耕作ヲ許スヘキ區域トス
- 三 前二號ノ區域ハ左記各號ノ事項ヲ調査シ且將來ノ事實ヲ推測シテ査定スヘシ
 - (一) 地勢
 - (二) 既知ノ洪水水位及汎濫ノ區域
 - (三) 流身ノ方向及流速
 - (四) 上下流ノ關係

(五)(六)(七)

河身變化ノ趨勢
障害ノ狀況
河岸ノ土質

- 第二條 土木部ニ於テハ拓殖部ヨリ回付シタル堤防敷地調査實測圖ニ基キ實地ヲ調査シ前條ノ標準ニ依リ堤防敷地特別使用區畫圖ヲ調製スヘシ
- 第三條 堤防敷地特別使用規則適用ノ區域ヲ告示スルトキハ其ノ時々該當堤防敷地特別使用區畫圖ヲ支廳及區役所ニ送付スヘシ
- 第四條 支廳及區役所ニ於テ前項圖面ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ヲ縦覽ニ供スヘシ
- 第五條 堤防敷地ノ稱呼ニ付テハ堤防敷地番號ヲ用ウヘシ
- 第六條 堤防敷地番號ニハ河川名、堤防敷地圖番號及圖中ノ地積番號ヲ用ウヘシ但シ河川名ハ其ノ頭字ヲ用キ同一ノ頭字ヲ有スル河川二個以上アルトキハ其ノ二字ヲ連用スヘシ
- 第七條 一 番號ニ屬スル敷地區域ヲ分割處分スルトキハ其ノ番號ヲ更ニ(イ)(ロ)ハニ區分スヘシ此ノ場合ニ於テハ圖面ニ掛紙ヲ爲シ其ノ内譯番號及區域ヲ表示スヘシ
- 第八條 第五條 使用出願ニ對シテハ第三條ノ圖面ニ依リ相當處理スヘシ
- 第九條 各使用者ニ於テ規則第六號ニ依リ楊柳ヲ栽培スヘキ區域ハ使用許可區域ニ基キ適宜區分指定スヘシ左ノ區域ハ處分上豫メ之ヲ控除スヘシ
 - 一 他ノ目的ヲ以テ既ニ使用ヲ許可シタルモノ
 - 二 他ノ目的ヲ以テ使用セシムルヲ適當ナリト認ムルモノ
 - 三 公益上必要ナリト認ムルモノ

第六條 左ニ記載スル者ニ對シテハ其ノ事故ノ已ミタルトキヨリ二年間堤防敷地ノ特別使用ヲ許可スルコトヲ得ス

- 一 規則第九條第一項ニ依リ許可ノ取消ヲ受ケタル者
- 二 使用料ノ納入ヲ怠リ二回以上滞納ノ處分ヲ受ケタル者
- 三 規則第十五條第一項ニ因リ處分セラレタル者

第七條 許可ヲ與フヘキ場合ニ於テ二人以上ノ競願者アルトキハ左ノ順位ニ依リ之ヲ許可スヘシ

- 一 堤防敷地ノ内方隣接地ノ所有者
- 二 堤防敷地ノ内方隣接地ノ借地人
- 三 現在ノ使用者
- 四 其ノ他企業確實ト認ムル者

特別ノ事由ニ因リ前項ノ規定ニ依ルコト能ハサルトキ又ハ之ヲ相當ナラスト認メタルトキハ指揮ヲ受クヘシ

第八條 出願ニ對シ許可ヲ與フルトキハ命令書(様式第一號)ヲ下付シ請書ヲ徵スヘシ

第九條 使用期限ハ大正六年十二月三十一日ヲ以テ初期ノ最長期トシ爾後毎五箇年目ノ同日ヲ以テ次期ノ最長期トナスヘシ

第十條 使用料ハ左ノ標準ニ依リ之ヲ定ムヘシ

- 一 等地 一段歩ニ付收穫見積價格十五圓以上ト認ムルモノ 一圓五十錢
- 二 等地 一段歩ニ付收穫見積價格十二圓以上ト認ムルモノ 一圓二十錢
- 三 等地 一段歩ニ付收穫見積價格十圓以上ト認ムルモノ 一圓

四 等地

一段歩ニ付收穫見積價格七圓以上ト認ムルモノ

七十錢

五 等地

一段歩ニ付收穫見積價格五圓以上ト認ムルモノ

五十錢

六 等地

一段歩ニ付收穫見積價格五圓未満ト認ムルモノ

三十錢

第十一條 規則第六條ノ楊柳栽培ニ付テハ嚴ニ其ノ施行ヲ監督シ栽培上遺憾ナキヲ期スヘシ

第十二條 他人ヲシテ耕作ヲ爲サシメントラ出願シタル使用者ニ對シ許可ヲ與フルトキハ命令書(様式第二號)ヲ下付シ請書ヲ徵スヘシ

第十三條 規則第十八條第一號及第二號ニ依リ許可ヲ與フル場合ニ於テハ其ノ使用料ハ第十條ニ依リ之ヲ定ムヘシ

第十四條 規則第十八條第一號ニ該當スル使用者ノ使用地ノ區域、使用ノ目的、方法、作物ノ種類及使用料金ノ額若ハ其ノ納期等ニシテ規則ノ規定ニ適合セサルトキハ規則ヲ施行スル年ノ收穫期以後ニ於テ相當ノ制限變更又ハ命令ヲ爲スヘシ

第十五條 命令書(様式第一號)第六條ノ申告ヲ受ケタル場合ニ於テ修補ニ堪ヘスト認ムルトキハ遲滞ナク之ヲ改設スヘシ

第十六條 支廳長及區長ハ常ニ實地ニ就キ使用者カ適當ニ其ノ義務ヲ履行シツ、アリヤ否及許可ヲ受ケスシテ堤防敷地ノ使用ヲ爲セル者ナキヤ否ヲ監視スヘシ

第十七條 監視スヘキ事項ノ概目左ノ如シ

- 一 耕作ノ方法及作物ノ種類ノ適否ニ關スル事項
- 二 楊柳栽培ノ義務履行ニ關スル事項

- 三 官設標識及標杭ニ關スル事項
 - 四 無願使用ニ關スル事項
 - 五 使用區域及禁止區域變更ノ要否ニ關スル事項
 - 六 流身ノ變更、河岸ノ缺壞ニ關スル事項
 - 七 其ノ他監督上必要ナル事項
- 監視シタル事項中各使用者ニ關スルモノハ監視簿(様式第六號)ニ記載シ一般ノ狀況其ノ他數人ニ共通ノ事項ハ別紙ニ記載シ整理保存スルコトヲ要ス
- 第十八條 支廳及區役所ニハ堤防敷地特別使用許可臺帳(様式第三號)ヲ備置クヘシ
- 第十九條 支廳長及區長ハ毎年未現在ニ依リ左ノ事項ヲ調査シ翌年一月三十一日迄ニ之カ報告ヲ爲スヘシ
- 一 使用出願及許否件數(様式第四號第一表)
 - 二 堤防敷地使用許可地積及使用料(様式第四號第二表)
 - 三 使用料徴收ニ關スル成績(様式第四號第三表)
 - 四 規則違反ノ使用者及之ニ對スル處分(様式第四號第四表)
 - 五 規則第十五條違反者及之ニ對スル處置(様式第四號第五表)
 - 六 標杭改設及其ノ經費(様式第四號第六表)
- 第二十條 支廳長及區長ハ左ノ場合ニ於テハ様式第五號ニ依リ直ニ各支廳長及區長ニ通報スヘシ
- 一 規則第九條第一項ニ依リ許可ヲ取消シタルトキ
 - 二 使用料納入ヲ怠リタル者ニ對シ滯納處分ヲ爲シタルトキ
 - 三 規則第十五條第一項ニ依リ處分セラレタル者アリタルトキ

前項ノ通報ハ別ニ編綴整理スヘシ

第二十一條 第二條ノ圖面中其ノ使用許可區域及使用禁止區域ニ付變更ヲ爲スノ必要アリト認メタルトキハ其ノ事由ヲ具シ上申スヘシ

様式第一號

命 令 書

第一條 使用區域ハ何國何郡何區町村大字何字何番地先何第何號第何番(ノ内イロハ)ニ於テ願書ニ添付セル圖面記載ノ箇所何坪何合何勺トス

第二條 使用ノ目的、方法及作物ノ種類ハ左ノ通トス

- (一) 使用ノ目的 耕作
- (二) 使用ノ方法 畑地(素地ノ儘)
- (三) 作物ノ種類

(イ) 制限耕作區域 楊柳(牧草)

(ロ) 普通耕作區域 楊柳(牧草)(穀菜)

第三條 使用期限ハ何年何月何日限トス

第四條 使用料ハ一箇年金何圓何拾何錢トシテ當廳ヨリ發スル納入告知書ニ依リ納付スヘシ

第五條 使用者ハ使用期限中別記雛形ノ標杭ヲ使用地内最見易キ場所ニ樹立スヘシ

第六條 使用者ハ使用許可區域内ノ官設標識ヲ保存修補スルノ責ニ任シ其ノ修補ニ堪ヘサルモノアルトキハ速ニ之ヲ所轄支廳長又ハ區長ニ申告スヘシ

第七條 堤防敷地ノ使用ニ伴ヒ野籜、肥料小屋又ハ簡易ナル塙等ヲ設クルノ必要アルトキハ別ニ許

可ヲ受クルコトヲ要セス適宜之ヲ設置スルコトヲ得

第八條 規則第六條ノ楊柳栽培ニ付テハ左ノ各號ニ依ルヘシ但シ其ノ區域内ニ現存スル楊柳其ノ他ノ立木カ第六號ノ制限以上ニ存在スル部分ニ付テハ之ヲ省畧スルコトヲ得

一 楊柳ヲ栽培スヘキ區域ハ別紙圖面ノ通トス

二 楊柳ノ種類ハかはやなぎトス但シ已ムヲ得サルトキハこりやなぎ又ハきぬやなぎヲ代用スルコトヲ得

三 栽培シタル楊柳ハ無償官有トス

四 植付ハ許可ヲ受ケタル日ヨリ一箇年以内ニ於テ最近ノ適當ナル季節ニ之ヲ實施スヘシ

五 圖上ニ指定シタル箇所ニ對シテハ河岸ニ相當ノ法切ヲ施シタル上之カ植栽ヲ爲スヘシ

六 植付ノ方法ハ各三尺ノ間隔ヲ以テ正三角植トシ春季ハ四月下旬ヨリ五月上旬迄ニ於テ植樹法又ハ挿條法ニ依リ秋季ハ十月下旬ヨリ十一月上旬迄ニ於テ植樹法ニ依リ其枯損シタルモノアルトキハ直ニ之ヲ補植スヘシ

七 植樹又ハ挿條ノ方法ハ別紙心得書ニ依ルヘシ

八 刈拂枝打等ノ手入ハ當廳ノ指示ニ依リ又ハ當廳ノ許可ヲ受ケタル場合ノ外私ニ之ヲ爲スコトヲ得ス

九 植付ヲ終リタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ届出検査ヲ受クヘシ

第九條 使用區域内ニ存在スル立木ハ別ニ出願許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ伐採スルコトヲ得ス

第十條 使用ニ因リ堤防敷地、堤防、護岸又ハ附帶工作物ニ破損缺壞等ヲ生シ若ハ生セントスルトキハ使用者ノ費用ヲ以テ修補ヲ加ヘ又ハ之カ豫防ノ設備ヲナスヘシ

第十一條 河川ノ狀況變更シタルカ爲許可區域ノ變更ヲ必要ト認ムルトキハ規則第九條第二項ニ依

リ處分スルコトアルヘシ

楊柳栽培心得

一 植樹法

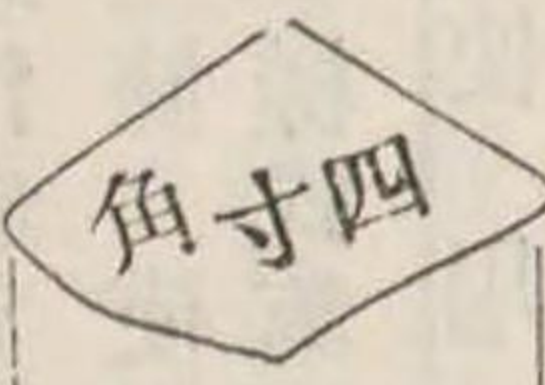
植樹法ハ春季(自四月下旬至五月上旬)秋季(自十月下旬至十一月月上旬)トモ三尺前後ノ健全ナル苗木ヲ掘取り之ヲ所定ノ距離ニ植付クヘシ但シ春季ニ在リテハ挿條法ニ依リ必スシモ植樹ノ方法ニ依ルヲ要セス

二 挿條法

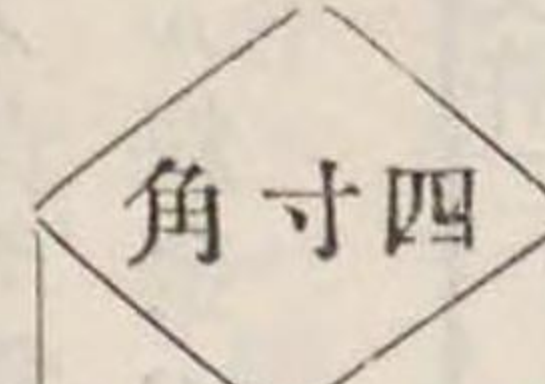
四月下旬ニ未タ發芽セサル強壯ナル枝ヲ切り長八九寸位ト爲シ地中ニ凡ソ五六寸頭ヲ下流ニ向ケ斜ニ挿シ込ミ堅ク踏ミ着ケ置クヘシ其ノ枝ノ太サハ通常指大ナルヲ良トス又挿條ノ年齡ハ二年乃至四年生ヲ最適トシ其土地濕氣適度ニシテ固キトキハ挿條ヲ短クナシ砂地又ハ乾燥地ニハ少シク之ヲ長クスヘシ若石礫地其ノ他硬質ノ土地ナルトキハ豫メ適當ナル穴ヲ穿チテ之レヲ挿植シ樹皮ノ剝離セサル様注意スヘシ

別記標杭雛形

見出シ四尺以上



堤防敷地特別使用區域 (表)
制限耕作區域
普通耕作區域
何坪
何坪



使用期限何年何月何日限 (裏)
何年何月住所氏名
何日許可

樣式第二號

命令書

第一條 使用者ハ耕作ヲシテ何年何月何日指令第何號ヲ以テ命令シタル事項ヲ遵守セシムヘシ
 使用者ハ耕作ヲシテ他人ニ其ノ耕作地ヲ使用セシムヘカラス
 耕作カ前二項ノ規定ニ違反シタルトキハ使用者其ノ責ヲ負フヘシ
 第二條 使用者カ自己ノ利益ノ爲ニ耕作者ヨリ取立ツル料金ハ使用料ノ半額ヲ越ユルコトヲ得ス
 様式第三號

何第何號何番(何ノ)											
受許者 資格	處分 條項	楊柳栽培地積 及法切線延長	使用 期間	使用 種類	使用 方法	使用 位置	國郡區町村大字 番地	受許 者	國郡區町村大字 番地	氏名	關係ノ動異利權
			年	年	年	年					
			年	年	年	年					
			年	年	年	年					
			年	年	年	年					
			年	年	年	年					
			年	年	年	年					
			年	年	年	年					

備考	使用許及地等級	使用料額及場所	何坪	停止 其ノ 處分	許事 可 消 滅	日 月 年

- 備考
- 一 臺帳ハ河川別ニ口座ヲ設ケ且規則第一條指定ノ區域ト然ラサルモノ等ヲ區別シ前者ニ在リテハ敷地番號ノ順ニ依リ後者ニ在リテハ國郡區町村ノ別ニ依リ之カ整理ヲ爲スヘシ
 - 二 敷地番號ハ施行細則第四條ノ例ニ依リ之ヲ記入スルモノトス
 - 三 使用權ヲ移轉シ又ハ他人ヲシテ耕作セシムル場合ニハ權利異動關係欄ニ記入整理スルモノトス
 - 四 處分條項ノ欄ニハ使用許可ノ基礎タル條項(規則第二條、第十七條又ハ第十八條第一號若ハ第二號)ヲ記入スヘシ
 - 五 受許可者ノ資格ハ施行規則第七條ノ例ニ依リ記入スヘシ

氏名	住所
事件ノ要旨	
處分ノ要領	
處分ノ月日	

右及報告候也

年 月 日

様式第六號

各支區宛

支

應(區)

河川名	監視簿	臺帳番號
氏名	第一回	第二回
	第三回	第四回
	第五回	第六回

規則第二條第二項
違反ニ關スル事項
制限耕作ニ關スル
規定違反ノ事項

楊柳栽培ノ義務履 行ニ關スル事項 官設標識及標杭ニ 關スル事項	其ノ他	監視年月日	及官職氏名

備考

- 一 監視簿ハ監視ニ際シ關係部分ヲ持參シ行キ調査ノ結果ヲ記入スヘシ
- 二 監視簿ハ一人別ニ作製シ堤防敷地特別使用許可臺帳ト同一順序ニ編綴シ置クヘシ
- 三 監視簿ハ其ノ都度支廳長又ハ區長ノ檢閲ヲ經ヘシ
- 四 記載事項夥多ニシテ豫定欄内ニ記入スルコト能ハサルトキハ下ノ數欄ニ使用スルモ妨ナシ

○堤防敷地調査處分ニ關スル件

○土木部長拓殖部長ヨリ札幌空知 上川釧路各支廳長へ通牒大正二年六月二十日 土庶第一九四二號
堤防敷地調査濟ノ河川ニシテ堤防敷地圖面上又ハ堤防敷地特別使用區圖ニ未開地編入豫定ノ區域記
載ノ部分ニ對シテハ更ニ何分ノ通牒候迄堤防敷地特別使用規則ニ依リ使用ノ許可又ハ未開地トシテ
賣拂貸付ノ處分方停止相成候條其旨御了知相成度依命此段及通牒候也

○同上

○土木部長拓殖部長ヨリ河西支廳長へ通牒大正二年六月二十日 土庶第一九四二號
堤防敷地調査濟ノ河川ニ對スル調査圖ハ不日送付スヘキ筈ニ有之候處右堤防敷地ノ内未開地編入豫

定ノ區域記載有之候區域ニ對シテハ更ニ何分ノ通牒候迄堤防敷地特別使用規則ニ依リ使用ノ許可又ハ未開地トシテ賣拂貸付ノ處分ヲ爲サ、ル様御取計相成度依命豫メ此段及通牒候也

○渡船場用地ニ關スル件

○土木部長ヨリ各支廳長へ通牒 明治四十四年六月九日 土庶第二二一號

國費地方費渡船場用トシテ堤防敷地ヲ使用スル際ハ別ニ地種組替ノ手續ヲ爲サスシテ堤防敷地ノ儘充用スルコトニ決定相成候尙本件ノ場合ハ當該土木派出所長ニ於テ一定ノ區域ヲ定メ實測圖ヲ添へ貴官へ通報相成筈ニ付可然御處理相成度此段及通牒候也

○堤塘並木敷使用料取扱方ノ件

○内務省達乙第二十五號 明治十四年七月

堤塘使用料及並木敷貸渡料ノ儀ハ從來雜收入トシテ大藏省へ上納致來候處十四年度以後ハ地方稅ニ合セ土木費ニ使用スヘシ此旨相達候事

○堤塘使用料取扱方ノ件

○内務省達第四十六號 明治十四年九月

堤塘使用料之儀ニ就テハ明治十一年九月乙第五十八號及本年七月乙第三十五號ヲ以テ相達候次第モ有之候處十四年度以降地盤ノ官民有ニ拘ラス使用地ノ修繕地方稅負擔ニ係ル者本年乙第三十五號達ノ通相心得協議負擔ニ係ル者ハ協議費支出ノ町村へ下渡堤塘修繕費ニ充シムヘシ尤連帶支辨ニ係ル者ハ其主擔ノ方へ可屬此旨相達候事

○道路並木枯損木拂下代處分方ノ件

○内務省令第三號 明治二十年十一月五日

- 一 地方稅ノ支辨ニ係ル道路ノ並木枯損木拂代金ハ明治二十一年度ヨリ該年度(地方稅)土木費雜入ニ組入レ並木植續費ハ該土木費ヨリ支出ス可シ
- 一 地方稅ヲ以テ支辨ス可キ事業ニ關スル寄附金ノ支出豫算議案及精算報告書式ハ明治二十一年ヨリ警察費國庫下渡金ノ例ニ準シ寄附者指定ノ費目ニ於テ地方稅ト寄附金ト内譯ヲ爲ス可シ
- 一 物件ノ寄附又ハ年賦寄附等ニシテ通常豫算ニ編入シ難キモノハ便宜別議案ヲ以テ議定ニ附スルコトヲ得
- 一 明治十五年(十二月)内務大藏兩省乙第七十二號達(地方稅)收入豫算議案並精算報告書式中戶數割ノ次合計以下明治二十一年ヨリ左ノ通改正ス
(收入豫算議案並精算報告書式略之)

○堤塘道路使用料及竹木代金取扱方ノ件

○内務省訓令第十七號 明治二十一年七月十七日

- 地方稅又ハ區町村費ノ支辨ニ係ル堤塘使用料及道路並木敷貸渡料其他同トノ並木及堤塘道路用惡水路土居敷等ニ屬スル竹木拂代金ハ左項ニ準シテ取扱フヘシ
- 但本文ニ抵觸セシ從前ノ指令訓令ハ取消ス
- 一 修繕費ノ全部ヲ地方稅ヨリ支辨スル箇所ノ收入ハ地方稅へ其區町村費ヨリ支辨スル箇所ノ收入ハ區町村費へ毎年度ニ於テ編入セシムヘシ
 - 一 修繕ハ區町村ノ主擔ニシテ地方稅ノ補助ニ係ル箇所ノ收入ハ區町村へ編入セシムヘシ
 - 一 地方稅ト區町村費ト修繕ノ主擔ヲ定メスシテ分擔支辨ニ係ル箇所ノ收入ハ其支出金額ノ歩合ニ隨ヒ編入セシムヘシ

- 一 地方税ト區町村費ト年々修繕負擔ヲ異ニスル箇所ノ收入ハ該年度負擔ノ方ニ編入セシムヘシ
- 一 區町村費ノ支辨ニ係ル堤塘道路用惡水路土居敷修繕費及並木植繼及保護費ハ區町村費中土木費ヨリ支出セシムヘシ
- 一 前各項ノ收入金ニシテ府縣廳ヘ積置シタル分ハ前各項ニ準據シ本年度中悉皆交付スヘシ

○道路堤塘使用處分ノ件

○内務省訓令第四百六十二號

明治二十四年五月

府縣(沖繩縣ヲ除ク)

地盤ノ官有ニ屬スル堤塘道路並木敷ノ使用ハ自今其費用ヲ負擔スル府縣及市町村ニ於テ處分スヘシ

但市町村ノ處分ニ係ルモノハ府縣廳ノ認可ヲ請ハシムヘシ

前項堤塘道路並木敷使用料及堤塘道路用惡水路土居敷等ニ屬スル竹木其他ノ收益ハ其費用ヲ負擔スル府縣及市町村ノ收入ニ屬スヘシ

費用ノ主擔定ラサルカ又年々負擔ヲ異ニスル堤塘道路並木敷用惡水路土居敷等ニ關スル事項ハ府縣廳ニ於テ處分シ其收益ニ屬スルモノハ府縣廳ニ於テ之ヲ徵收シ費用ヲ負擔スル府縣及市町村ニ配付スヘシ

地盤ノ市町村有ニ屬スル堤塘ノ使用及堤塘ヨリ生スル收益等ハ市町村ノ管理ニ歸セシム

○内務省訓令第三百五十四號

明治二十五年五月

明治二十四年五月二十二日訓令第四六二號ヲ以テ堤塘道路並木敷使用處分方訓令ニ及ヒタル處當省直轄又ハ流域兩管轄以上ニ跨ル河川ノ堤塘及國道使用ニ關シテハ先ツ土木監督署ヘ協議シテ本大臣ニ稟議スヘシ

○道路豫定地及河岸地使用處分ノ件

○内務省訓令第八〇四號

明治二十八年十一月十四日

其管下ニ於テ開拓漁業等ニ從事セントスル者ニシテ物件ノ荷揚ニ供シ又ハ住宅ヲ營造スルマテ假ニ小屋掛ヲ爲ス等ノ爲メ道路豫定地若クハ河岸地ノ使用ヲ請フモノアルトキハ將來道路堤塘築設ノ計畫上又ハ治水上支障ナク公共ノ妨害トナラサル部分ニ限り自今其廳ニ於テ相當ノ料金ヲ徵シ其使用ヲ許可スヘシ

但建造物ハ一時假設ニ係ルモノノ外之ヲ許可スヘカラス

○内務省縣治兩局長ノ通牒

明治二十八年十一月十四日

本年十一月十四日訓令第八〇四號ヲ以テ道路豫定地及河岸地有料使用ノ儀訓令相成候處右ハ命令書ヲ下付シ使用料額ヲ評定セシムル等夫々法規ニ依據シ處分可相成筈ニ有之此段命ニ依リ及通牒候也

○開墾目的ヲ以テ堤防敷地使用ヲ許可セサルノ件

○北海道廳訓第七百五十一號

明治三十二年十二月二十六日

内務部 支廳 區役所

開墾ノ目的ヲ以テ出願セル堤防敷地ノ使用ハ自今新規出願ハ之ヲ許可セサルハ勿論既ニ其使用ヲ許可セシ者ト雖モ滿期後繼續使用ヲ許可セス若シ其用法上止ムヲ得サル場合ニハ使用坪數及年限ヲ短縮シテ繼續使用ヲ許可シ漸次回收スル様注意スヘシ

○道路堤塘使用處分ノ件

○長官ヨリ内務大臣ヘ稟申

明治三十六年一月二十三日

殖拓第二八六四號

明治二十四年五月内務省令第四百六十二號地盤ノ官有ニ屬スル道路堤塘並木敷地使用處分ニ關スル訓令ハ當廳ニ對シ訓令セラレタルモノニ無之候處本道ニ於テ己ニ北海道區制北海道一二級町村制及ヒ

北海道地方費施行ノ今日ニ在リテハ道路堤塘ノ種類ニ依リ其費用ヲ負擔スヘキ區別有之候ニ付該訓令適用ノ上其費用カ本道地方費ノ負擔ニ屬スルモノハ其使用料ハ北海道地方費ノ收入トシ又々費用ヲ區町村ニ於テ負擔スヘキモノニシテ北海道區制北海道一二級町村制ヲ施行セラレタル區町村ハ當該區町村ニ於テ處分シ其使用料ハ其區町村ニテ收入候様致度候間當廳管内ニ於テモ該訓令適用ノ儀御承認相成度此段稟申候也

○内務省指令第一八號 明治三十六年三月十八日
本年一月二十三日殖拓第二八六四號稟申明治二十四年五月二十二日内務省訓令第四百六十二號適用ノ件聞届ク

但使用處分ハ從前ノ通取扱フヘシ
○内務省土木局長通牒 明治三十六年三月十八日 北甲第一八號ノ内

本年一月二十三日殖拓第二八六四號ヲ以テ道路堤塘使用處分ノ件御稟申相成候處使用處分ヲ公共團體ニ委スルノ可否ニ付テハ目下取調中ニ有之候ニ付別紙ノ通り指令相成タル義ニ候條御承知有之度依命此段及通牒候也

○道路使用願進達ノ際所轄警察署長ノ意見ヲ徵スル件

○殖民部長ヨリ各支廳長ヘ通牒 明治三十四年四月五日 殖拓第一八一六號
道路使用願ニ對シ使用セラル、モ支障ナシト被認願書御進達ノ際ハ豫メ所轄警察署長ノ意見ヲ聽キ其意見ノ要領ヲ具シ上申相成度依命此段及通牒候也

○地盤ノ官有ニ屬スル堤塘道路用悪水路及其敷地使用願ニ關スル件
○北海道廳令第四十三號 明治三十七年四月九日

地盤ノ官有ニ屬スル堤塘道路用悪水路及其敷地等ニシテ區町村ニ於テ其維持費用ヲ負擔シ且ツ區町村ノ營造物ニアラサルモノ、使用ヲ出願スルモノハ當該區役所町村役場戸長役場ヲ經由シ町村ニ在リテハ所轄支廳長ニ區ニ在リテハ北海道廳長官ニ願出ツヘシ
但街路取締規則第五條第二號第四號第七號第八號第九號第十號第十二號第十四號ノ事項ハ本令ヲ適用セス

○鑛泉地及池沼等處分ノ件

○内務部長ヨリ各郡區長ヘ通知 明治二十九年二月二十六日 内地第七二三號
鑛泉地及池沼等ハ森林(官林モ 赤同シ)原野内ニ在ルモノト雖モ總テ内務省主管地トシテ取扱フヘキモノトシテ官有地取扱規則及官有地特別處分規則ニ依ルノ外地區ノ大小ニ拘ラス官有森林原野特別處分規則若クハ北海道土地拂下規則等ニ依リ處分スヘキモノニ無之ハ勿論右取扱方ニ關シテハ猶ホ左之通御承知相成度候

- 一 池沼等ノ周圍ハ明治二十年無號訓示土地調查心得第七條ニ依リ必ス相當除地スヘキ事
但近傍道路ニ通スル路線モ亦同シトス
- 一 鑛泉地ノ周圍ニモ前項ニ準シ相當ノ除地(即チ五間乃 至三十間)ヲ置クヘキハ勿論近傍道路ニ通スル路線モ亦除地スルモノトス
- 一 鑛泉地及池沼等ニシテ公共用上支障ナキ場合ニハ有料ニテ使用又ハ貸下クルコトヲ得ルモノトス故ニ右等ノ出願アルトキハ特ニ支障ノ有無ニ關シ意見ヲ附シテ進達相成度事
- 一 鑛泉地ノ周圍ニ於テ除地シタル土地ハ該鑛泉地貸下人又ハ鑛泉使用者等之ニ附隨シテ必要ナル者ニ有料ニテ貸下クルコトヲ得ルモノトス

○鑛泉水取扱方ノ件

○根室外九郡役所照會 明治二十九年十一月五日 第三〇七六號

鑛泉水取扱方ニ付テハ本年二月内地第七二三號御通知ノ趣モ有之候處右ニ對シ左ノ件々承知致度候
一 第二項鑛泉水周圍ノ除地ハ其鑛泉水積ノ廣狹ニ拘ハラズ最小定限五間以上ヲ要スル儀ニ候哉
將又實地ノ狀況ニ依リ假令ハ鑛泉水地僅ニ一坪乃至三坪位ノモノハ適宜其必要ト認メタル間數
ヲ除地シ差支無之哉

二 前項除地ヲ貸下又ハ使用ヲ出願セントスルモノアルトキハ其土地ハ性質堤防ニ屬スルヲ以テ
堤防地トシテ取扱フヘキモノナルヤ

三 泉池ヲ使用セスシテ地下數尺ノ間ニ鐵管又ハ竹管ヲ埋沒シテ泉脈ヲ噴出セシメ直ニ之ヲ浴場
ニ注流セントスルモノアリタルトキハ其埋管ノ地域ヲ劃シ鑛泉水トシテ貸下若クハ使用ヲ出
願セシムヘキモノナルヤ果シテ然ラハ其周圍ハ除地ヲ要セサル儀ニ候哉

○内務部回答 明治二十九年 十二月一日

鑛泉水取扱方ノ義ニ付第三〇七六號ヲ以テ御照會ノ趣承知致候左ニ

- 一 御照會第一項ハ前段ノ通り五間以上ヲ除地スヘキモノニ候
- 二 同上第二項ハ御照會ノ通り
- 三 同上第三項ハ前段ハ御照會ノ通後段ハ相當除地ヲ要スル儀ニ候

○官林地内鑛泉水使用等出願ニ付取扱方ノ件

○夕張外四郡長照會 明治三十年 二月三日

官林地内鑛泉水使用等取扱上左ノ項疑義ニ涉リ候ニ付何分ノ御回答煩ハシ度此段及御照會候也

一 鑛泉水使用等出願ノトキ鑛泉水認ムヘキ標準ハ相當學識アル技術者又ハ醫師ノ分析證明書等
ニ依ルヘキ哉又ハ當該官廳ノ相當證明ニ依ルヘキモノニ候哉

二 前項鑛泉水ナルコトヲ認メ候上ハ其鑛泉水地及敷地ハ客年二月二十六日内地第七二三號御通牒
ニヨリ貸下ヘキハ勿論ニ候處官林地内鑛泉水地ノ如キハ概凸凹極リナキ溪谷ノ間ニ發見セラレ周
圍五間乃至三十間ヲ除地シタル敷地内ニ浴場其他客室等必要ノ建築物ヲ造營スル能ハサル場
合往々有之候右等鑛泉水使用ニ附隨シ必要ナル敷地ヲ其附近適當ノ位置ニ於テ貸下ノ途有之候
ハハ詳細御回答煩ハシ度候

○内務部回答 明治三十年 二月十六日

官林地内鑛泉水取扱上疑義ノ件本月三日御所第三六〇號ヲ以テ御照會之趣承知致候則チ左ニ

御照會第一 鑛泉水認ム云々鑛泉水ハ溫泉冷泉ヲ併稱スルモノニシテ溫泉ニ附テハ別段疑義モ之
ナカルヘシ獨リ冷泉ニ附テハ果シテ鑛泉水含有シアリヤ否ヲ識別セサルヲ得サルヲ以テ相當學識
アル技術者又ハ醫師ノ分析書ニ據リ區分相成可然候

同第二 鑛泉水ノ周圍ニ除地等ノ件ハ假令凸凹極リナキ山間溪谷ノ個所ト雖モ其周圍ニハ堤防地
ノ性質ヲ以テ五間乃至三十間ヲ除地スルモノニシテ隨テ鑛泉水使用方認可ノモノニシテ附隨シテ
右除地ヲ必要トスル場合ハ之ヲ貸附又ハ使用ヲ許可スルモ該除地シタル個所ハ建築物ヲ造營スル
コト能ハストシテ他ニ之ヲ建物敷地ノ控除ハ難相成ハ勿論右等鑛泉水使用ニ附隨シ必要ナル敷地ハ
北海道官林地貸渡規程第二條ノ範圍内ニアラサレハ貸下ノ途無之義ト御承知相成度候

○溫泉營業者へ官林地貸付方ノ件

○釧路外十二郡役所照會 明治三十年三月十二日 往第六二〇號

明治二十七年九月廳令第五十二號北海道官林地貸渡規程第一條ハ同二十九年四月同令第十七號ヲ以テ改正相成候處右改正ノ趣キニ依レハ官林地ハ宅地トシテ貸下能ハサル次第ニ有之候得共温冷鑛泉ヲ官林地内ニ於テ發見シ浴場ヲ開キ茲ニ營業ヲナサントスルモノ、如キハ營業人住所ハ勿論浴室浴客宿泊所等ハ宅地ノ名義ヲ以テ貸下出願セサルヘカラサルモノナルモ尙之ヲ貸渡スコト能ハサル儀ニ有之候哉否ヤ何分ノ儀承知致度此段及照會候也

○内務部長回答 明治三十年三月二十六日
内林第一九五號

本月十二日付往第六二〇號ヲ以テ官林地貸渡ノ儀ニ付御照會ノ趣キ了承宅地ノ目的ヲ以テ官林地ヲ貸渡ス可ラサルハ林地貸渡規程第二條ニ據リ明カナル所ニ有之然ルニ鑛泉地及同附屬地ニ對スル處分方ハ客年二月二十六日付内地第七二三號通牒ニ基キ元内務省主管地トシテ取扱モノニシテ隨テ官林地貸渡規程ニ據ルヘキモノニ無之然ルニ若シ右附屬地ノミニテ事業經營上不足ヲ生シ必要止ムヲ得サルトキハ鑛泉事業ニ附帶ノ用地トシテ營林上支障無之場合ハ同規程ニ據リ官林地ヲ一時貸渡ス儀ハ差支無之存候條右ニ御了知相成度此段及御回答候也

○國有林ニ於ケル鑛泉地池沼等除地シタル際報告ノ件

○拓殖部長ヨリ各營林區所長ヘ通牒 明治四十四年十二月廿三日
拓林第一一三九八號

國有林地内ニ於テ鑛泉及池沼等ヲ發見シ除地シタルトキハ其位置ヲ示シタル五万分一ノ地形圖及除地區域並ニ其面積標杭ノ位置番號等ヲ表示シタル實測圖ヲ添ヘ其都度報告相成度依命此段及通牒候也

追テ從來發見ノモノニシテ貴廳限リ處理セシモノアルトキハ本文ノ例ニ依リ此際報告相成度申添候也

○檜山營林區分署長ヨリ長官ヘ稟申 明治四十四年十二月七日
檜第一三三八〇號

當署部内瀨棚郡利別村字上利別國有林字ビリカベツニ於テ山越郡長萬部村字國縫三百六十八番地寄留東條九郎太ヨリ温泉場敷地四坪小屋掛敷地九十六坪貸渡ノ義檜山支廳ニ出願ニ對シ本年二月十三日付ヲ以テ該廳ニ於テ許可致居候ヲ今般發見セシニ右件ニ付テハ從來當署ニ向テ何等ノ通知モ無之候ニ付及照會候處右ハ三十五年道廳令第七十六號支廳長委任事項第三十八號第三十九號ニ依リ處分致候旨回答有之候然ルニ國有林野内ニ於ケル鑛泉地池沼處分ハ二十九年二月内地第七二三號ニ依ルヘキ義ト被存候ヘ共該委任事項ハ其後ノ發令ニシテ自然消滅候様被認候ニ付テハ今後支廳ニ於テ國有林野内鑛泉地池沼處分ノ場合ハ一應關係廳ニ支障ノ有無照會スルカ又ハ許可ノ場合ハ其旨通知相成候様致度此段及稟申候也

○土地水面ノ處分ニ付テハ圖面ヲ添付シテ指令スルヲ要スル件

○内務部長ヨリ各郡區長ヘ通牒 明治二十四年十月十九日
乙第一二七〇號

水面埋立及使用願其他賃貸地等凡テ契約書又ハ命令書ヲ下付スル土地及水面ノ處分ニ付テハ必ス圖面ヲ添付シテ指令スヘキ旨内務大臣ヨリ訓令相成候ニ付自今圖面二葉相添御進達相成候様致度長官命ニ依リ此段及通牒候也

追而水面埋立及使用願ノ圖面ハ從來殆ト見取圖様ノモノ多ク取扱上不都合ニ候條自今最モ正確ノ圖面添付候様豫テ御注意相成度右爲念申添候也

○水面埋立及使用願進達ノ際圖面添付方ノ件

○内務部長ヨリ各郡區長ヘ通牒 明治三十年二月二十五日
内地第三九九號

水面埋立及使用願其他賃貸地等凡テ契約書又ハ命令書等ヲ下付スル土地水面ノ處分ニ付テハ必ス圖

面ヲ添付シテ指令スヘキヲ以テ該願書送致ノ際ハ圖面ニ葉送致方去ル明治二十四年十月十九日內務部乙第一二七〇號ヲ以テ及通牒置候處中ニハ之ヲ添付セサルヲ以テ其時々照會ノ上徵收候向モ有之不都合ニ候間自今ハ必ス添付候儀ト御承知相成度此段及通牒候也

○官有地特別處分方ニ關スル件

○(內務省地方局長)ヨリ申進 明治三十八年九月一日
○(內務大臣官房地理課長)ヨリ申進 青甲第四一號ノ内

官有地特別處分方ノ義ニ關シ青森縣知事ヨリ別紙甲號ノ通り上申有之候ニ付乙號ノ通り及通牒候條爲念此段申進候也

○甲號

官有地特別處分方ノ件上申

市町村又ハ公立小學校ニ於テ其基本財産ニ充ツル目的ヲ以テ國有土地森林原野ノ賣拂ヲ請ハントスルトキハ其森林原野ニ就テハ國有林野法中特別ノ規定ヲ設ケ少カラサル便宜ヲ與ヘラレ候得共官有土地ニ就テハ是等ノ規定無之ニ付官有地特別處分規則第一條第二項又ハ官有地取扱規則第七條ニ依ルノ外隨意ノ契約ヲ以テ處分スルヲ得ス爲ニ右等團體カ其企業地トシテ希望セル適當ノ不
用土地アルニモ拘ハラス多クハ其目的ヲ達スル能ハスシテ折角ノ企圖モ空シク挫折セサルヘカラサル結果ニ立至ラシメ候次第ニテ甚遺憾ニ存候特ニ右基本財産造成方ニ付テハ嘗テ御訓諭等ノ趣モ有之精々勸誘ニ努メ居候今日ニモ有之候ニ付特ニ右基本財産ニ充ツルモノニ限り植樹開墾其他ヲ間ハス總テ國有林野同様特賣處分ヲ爲シ得ルコトニ別段ノ規定ヲ設ケラレ候様御詮議相成度此段上申候也
明治三十八年六月二十一日

內務大臣宛

○乙號

明治三十八年六月二十一日發第一三〇三號ヲ以テ官有地特別處分法ニ付上申相成候處目下別段ノ規定ヲ設ケラル、コトハ到底詮議難相成尤モ基本財産ニ充ツル目的ヲ以テ開墾又ハ植樹ヲ爲サントスルトキハ官有地取扱規則第七條ニ依リ豫約拂下相成候ニ付右ノ範圍内ニ於テ相當處理相成度上申ニ對シテハ別ニ指令ニ及ハレス候間右様御諒知有之度此段及通牒候也
明治三十八年九月一日

青森縣知事

內務大臣官房地理課長
內務省地方局長

青森縣知事宛

○官民有地交換處分ノ件

○內務大臣官房地理課長ヨリ通牒 明治三十九年十二月十二日
內務省廣甲第一四五號ノ内

別紙之通廣島縣知事伺ニ對シ指令相成候條爲御心得及通牒候也
(別紙)

○土第五八七號

明治三十九年十一月三十日

內務大臣 原敬 殿

廣島縣知事 山田春三

官有地ト民有地ト交換縣限リ處分ノ件

縣市町村及私設鐵道會社ニ係ル官有地ト民有地トノ交換處分ノ義ハ明治三十年五月二十六日內二
乾第九二〇號並ニ三十二年六月二十六日同第七五七號伺ニ對シ明治三十年七月八日御省指令甲第
六六號及三十二年七月十三日同第九九號御指令ノ趣モ有之爾來縣限リ取扱來候處官有道路溝渠等
ニシテ其修理保存費ハ從來ノ慣行ニ依リ縣市町村若クハ其一部又ハ關係地主ニ於テ負擔シ來リタ
ルモノ、內交通上若クハ排水上ニ不便ナル廉アルヲ以テ其關係地主ニ於テ私費ヲ以テ變更又ハ改
修ノ計畫ヲ爲シ其舊敷地ト新設道路溝渠等ノ敷地ト交換ノ義出願スルモノアリ右御指令ノ範圍外
ニ屬スルヲ以テ其都度經伺スヘキ筈ニ候得共其面積三百坪以下ノモノハ自今經伺ヲ要セス縣限リ
處分ノ義御聞届相成度此段相伺候也

○內務省廣甲第一四五號

廣 島 縣

明治三十九年十一月三十日土第五八七號伺官有地ト民有地トノ交換縣限リ處分ノ件聞届ク
明治三十九年十二月十二日 內務大臣 原 敬

○外國人へ土地家屋貸渡ノ際經伺方ノ件

○大政官布告第八十五號

明治七年
八月

外國人へ家屋地所等貸渡ノ節約束上輕忽疎漏ヨリ竟ニ内外人民ノ間不都合ヲ生シ候テハ自然交際ニ
モ差響候條自今學校其他ノタメ備入レ居留地外へ住居スヘキ外國人及公使館附屬書記官等へ貸家借
地ノ節ハ先ツ約定草案相添其管轄廳へ伺出許可ノ上結約可致此旨布告候事

但建物取毀賣拂ノ分ハ幾日以内取拂ノ約定取結可賣渡尤モ賣渡ノ上ハ其旨管轄廳へ可届出事

○函館ニ於テ外國人へ土地貸渡ノ際經伺方ノ件

○訓第八二七號

明治二十三年
十二月十二日

其管下函館ニ於テ自今外國人ニ對シ官有地ヲ貸渡シ又ハ民有地相對貸渡ノ認可ヲ與ントスルトキハ
其貸渡ヲ要スル事由ヲ具シ契約書按竝地位坪數ヲ明記シタル圖面ヲ添へ及貸借人名等詳細取調總テ
稟議スヘシ

○官有地ヲ公使館敷地ニ隨意契約ヲ以テ貸渡方ノ件

○勅令第七十五號

明治二十四年
七月

外國公使官敷地トシテ官有地ヲ貸渡ス場合ニ於テハ競争ニ附セス隨意ノ約定ニ依ルコトヲ得

○官有財產管理規則

○勅令第二百七十五號

明治二十三年
十一月二十四日

官有財產管理規則

第一條 此ノ規則ニ於テ官有財產ト稱スルハ國ノ所有ニ屬スル土地、森林、原野、營造物、家屋船
舶及其ノ附屬物トス

第二條 官有財產ハ主管ノ各省大臣之ヲ管理ス

第三條 官有財產ノ賣拂、讓與、交換及貸付ハ特別ノ規程アルモノヲ除ク外總テ此ノ規則ニ依ルヘ
シ

第四條 官有財產賣拂代金ハ其ノ財產引渡ノ際一時ニ納付セシムヘシ

第五條 官有財産ヲ貸付スルトキハ其ノ貸付料ヲ徵收スヘシ但公益ノ爲メ官有財産ヲ貸付シ又ハ森林經濟ノ爲メ森林ヲ貸付スルトキハ別ニ主管大臣ノ定ムル所ノ規則ニ依ル

第六條 官有財産ノ貸付料ハ每年前納セシムヘシ若シ前納スル能ハサルトキハ相當ノ保證ヲ出サシムヘシ

貸付財産ノ修理其ノ他ノ費用ヲ負擔スル方法ハ貸付契約ヲ爲ストキ之ヲ定ムヘシ

第七條 官有財産ノ貸付ハ左ノ期限ヲ超ユルコトヲ得ス

第一 樹木培養ニ供スル土地ハ八十年以内

第二 農工其ノ他ノ營業及住居ニ供スル土地ハ三十年以内

第三 土地森林ノ使用權ハ十五年以内

第四 右ニ掲ケサル物件ハ三年以内

第八條 官有財産ノ貸付期限中政府ニ於テ之ヲ國ノ使用ニ供スルノ必要アルトキハ貸付ノ契約ヲ解キ之ヲ返還セシムヘシ

前項ノ場合ニ於テ借受人ハ其ノ直接ニ受ケタル損失ニ付賠償ヲ求ムルコトヲ得

第九條 官有財産ノ借受人ニシテ主管大臣ノ許可ヲ得スシテ其財産ノ原形ヲ變シ若クハ故意怠慢ニ由リ之ヲ荒廢ニ歸シ又ハ毀損亡失シタルトキハ主管大臣ハ其損失ヲ賠償セシムヘシ

第十條 官有財産ノ借受人ハ主管大臣ノ許可ヲ得ルニアラサレハ其財産ヲ他人ニ轉貸スルコトヲ得ス

第十一條 官有財産ヲ以テ他人ノ所有物ト交換スルコトヲ得ルハ同一種類ノ財産ニシテ少クトモ評定價格相均シキモノニ限ル

森林原野田畑ハ同一種類ノ財産ト見做スコトヲ得

營造物、家屋、船舶及其附屬物ハ他人ノ所有物ト交換スルコトヲ得ス

第十二條 府縣都市町村公共ノ道路、公園、市場、河川、竝木敷、堤塘、溝渠等ノ用ニ供スル爲メ官有ノ土地森林ヲ必要トスルトキハ主管大臣ニ於テ之ヲ其府縣都市町村ニ讓與スルコトヲ得

第十三條 府縣都市町村ニ於テ新ニ道路、公園、市場、河川、竝木敷、堤塘、溝渠等ヲ開設シ爲ニ不用ニ歸シタル官有ノ舊同種類ノ土地ハ内務大臣ニ於テ其府縣都市町村ニ讓與スルコトヲ得

但シ官林内若クハ官廳使用地内ニ包含セルモノ又ハ他ノ官有財産保護上離權シ難キモノハ此限ニアラス

第十四條 官有財産ヲ賣拂貸付若クハ交換スル場合ニ於テ其財産ヲ管理シ若クハ其取扱ヲ爲ス官吏ハ之ヲ買受ケ又ハ自己ノ所有物ト交換スルコトヲ得ス

第十五條 此規則施行ノ前ニ官有財産ノ賣拂若クハ貸付ノ契約ヲ爲シタルモノハ其ノ契約ノ滿期迄總テ舊契約ニ依ルヘシ

貸付ノ期限ナキモノハ此ノ規則施行ノ日ヨリ三箇年以内ニ於テ此ノ規則ニ依リ更ニ契約ヲ爲スヘシ

第十六條 各省大臣ハ每十年其年三月三十一日ニ現在スル所管官有財産ノ目錄ヲ調製シ其年開會ノ帝國議會ニ報告ノ手續ヲ爲スヘシ但シ國防用防禦營造物ハ此限ニ在ラス(明治三十四年四月勅令第五十六號ヲ以テ但書追加)

第十七條 各省大臣ハ每會計年度間ニ於ケル所管官有財産ノ増減異動報告書ヲ調製シ翌年度開會ノ帝國議會ニ報告ノ手續ヲ爲スヘシ但シ國防用防禦營造物ハ此限ニ在ラス(同上)

第十八條 第十六條ノ目錄及第十七條ノ報告書ハ其ノ事由ニ依リテ區別シ左ノ事項ヲ示スヘシ

第一 買入ニ係ルモノハ其代價

第二 賣拂ニ係ルモノハ各廳ニ於テ最低賣價實際ノ賣拂代價及目錄價格アルモノハ其價格

第三 讓與交換又ハ亡失毀損ニ係ルモノハ其目錄價格
 第四 交換ニ係ルモノハ其交換ニ由リテ得タル財産
 第五 買入又ハ賣拂ノ契約ニ特別ノ條件アルモノハ其條件
 第十九條 此規則第十六條ニ掲クル官有財産ノ目錄ニシテ第一回ノモノハ明治二十四年三月三十一日ノ現在高ヲ以テ同年六月三十日マテニ之ヲ調製スヘシ但調査未済ノ官有財産ハ調査ヲ了ルマテ其概算ヲ目錄ニ掲クヘシ
 第二十條 此ノ規則ハ明治二十四年四月一日ヨリ施行ス

○官有財産貸付規程

○内務省令第十一號 明治四十五年七月三日

官有財産貸付規程左ノ通相定ム

官有財産貸付規程

第一條 公益事業ノ爲メ府縣郡市町村公共組合及公益法人ニ官有財産ヲ貸付スルトキハ貸付料ヲ徴セサルコトアルヘシ
 第二條 貸付ヲ受ケタル官有財産ハ公益事業ノ外ニ使用スルコトヲ得ス
 第三條 左ノ各號ノ一ニ該ルトキハ直ニ貸付ノ官有財産ヲ返還セシム
 一、官用ノ爲メ必要ヲ生シタルトキ
 二、公益事業ヲ廢シタルトキ及本大臣ニ於テ公益事業ヲ廢シタルモノト認メタルトキ
 三、貸付ヲ受ケタル官有財産ヲ公益事業ノ外ニ使用シタルトキ

附則

第四條 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○並木敷地及運河用地ニ關スル事務主管ノ件

○本廳決議 大正元年十月二十二日

並木敷地及運河用地ハ從來國有地トシテ拓殖部ニ於テ取扱來リ候處並木敷地ハ道路ト又運河用地ハ堤防ト其性質格別ノ相違ナク且ツ管理上統一ヲ期スルノ必要有之候ニ付爾今並木敷地ハ道路ノ一部ト見做シ運河用地ハ堤防地ノ一部ト見做シ土木部ニ於テ取扱フ様致度候
 本議御決裁ノ上ハ並木敷地及運河用地ニ關スル出願ハ別途土木部ニ引繼ク見込ニ有之候

○一町村内大字へ公共用地讓與ノ件

○内務農商務兩書記官通牒 明治二十四年八月三日 甲 第一二五號

府縣郡市町村公共ノ道路公園市場河川並木敷堤塘溝渠等ノ用ニ供スル爲メ官有ノ土地森林ヲ必要トスルトキハ官有財産管理規則第十二條ニ依リ讓與スルコトヲ得ルモ大字ニ於テ公共ノ道路等ニ供スル爲メ官有ノ土地森林ノ讓與ヲ出願スルトキハ該條ノ明文外ニ涉リ許可難相成筋ニ有之尤モ大字ニ於テ右等ノ用ニ供スル場合ト雖モ町村全体ヘ讓與ノ議ヲ町村長ヨリ出願スルトキハ證議可相成事ニ省議決定候條爲念此段及通牒候也

○溜池敷地處分ノ件

○農商務書記官通牒 明治二十六年六月二十二日 甲 第六八號

府縣郡市町村及公共組合ニ於テ公共ノ用ニ供スル溜池敷ノ爲メ官有ノ土地森林ヲ必要トスルトキハ自今官有財産管理規則第十二條ニ據リ處分シ得ルコトニ決定相成候條此段及通牒候也

○砂防風防林ニ供スル土地讓與ニ關スル件

○本長官伺 明治二十六年七月十日
砂防林風防林ニ供スル爲メ官有財産管理規則第十二條ニ據リ土地森林ヲ郡區町村ニ讓與スルコトヲ得ヘキヤ直ク御指揮ヲ乞フ

○内務書記官通牒 明治二十六年七月二十二日 北 甲 第二〇八號
砂防林風防林ニ供スル爲メ官有財産管理規則第十二條ニ依リ土地森林ヲ郡區町村ニ讓與スルコトヲ得ヘキヤ電報ヲ以テ伺出相成候處右ハ該條ニ據リ讓與シ難キ義ニ有之候本件ニ對シ別ニ指令不相成候間此段依命及通牒候也

○官有ノ建物附屬物ヲ郡町村ニ賣貸方ノ件

○勅令第二百二十八號 明治二十六年十月二日
官有ノ建物及其ノ附屬物ヲ公用ニ供スル爲メ府縣都市町村及公共組合ニ賣渡シ又ハ貸渡ストキハ競争ニ付セス隨意ノ契約ニ依ルコトヲ得

○官有地ヲ府縣都市町村又ハ公共組合ニ讓與ノ件

○庶務局長通牒 明治三十一年三月七日 庶 甲 第四〇號
官有財産管理規則第十二條第十三條官有地特別處分規則第三條等ニ依リ官有地ヲ府縣都市町村又ハ公共組合ニ讓與セントスルトキハ官有地取扱規則第十四條第一項ニ依リ其評價ヲ爲サシメ該稟申書ニ添付御差出可相成管ニ有之候處之ヲ差出ササル向往々有之爲メニ往復等處務上ノ手数不少候自今必ス評價書御差出相成度依命此段及通牒候也
追テ明治二十四年當省訓令第十四號委任條件第一條第十號ニ依リ貴廳限リ處分相成候モノニ關シテモ本文同様必ス評價セシメラルヘキハ勿論ニ有之且官有地増減報告中讓與ノ部分ニ目錄價格ヲ

記入セサル向往々有之候得共右目錄欄内ヘハ前記評價額必ス記入相成候様致度此旨申添ヘ候也

○新條約實施ノ際警察其ノ他公用ニ供シタル國有ノ土地物件處分ノ件

○勅令第二百七十四號 明治三十三年六月
内務大臣ハ從來外國人居留地ニ關スル警察其ノ他公用ニ供シタル國有ノ土地建物物件ヲ新條約ノ實施ニ際シ其事務ヲ引繼キタル府縣其ノ他公共團體ニ讓與スルコトヲ得

○町村制實施ニ際シ戸長役場其他公用ニ供シタル土地建物物件無償付與ノ件

○勅令第二百七十九號 明治三十三年六月
内務大臣ハ北海道一級町村制及北海道二級町村制ノ實施ニ際シ從來戸長役場其ノ他公用ニ供シタル國有ノ土地建物物件ニシテ不用ニ歸シタルモノヲ無償ニテ其ノ事務ヲ繼承スル町村ニ付與スルコトヲ得

○官設驛遞所土地建物及附屬物件無償付與ノ件

○勅令第二十二號 明治三十六年三月十三日
北海道廳長官ハ官設驛遞所存立ノ必要ナシト認ムル場合ニ於テハ五箇年以上引續キ其驛ニ在勤シ功勞顯著ナル驛遞取扱人ニ該驛舎敷地收場及馬匹其他ノ附屬物件ヲ無償ニテ付與スルコトヲ得
相續人カ引續キ驛遞取扱人タルトキハ其勤務年數ニ前驛遞取扱人ノ勤務年數ヲ通算ス

○官設驛遞所土地建物及付屬物件付與ニ關シ取扱方ノ件

○內務省訓第一七一號 明治三十六年三月十七日

北海道廳

北海道官設驛遞所土地建物及附屬物件無償付與ノ件本年三月十三日勅令第二十二號ヲ以テ發布相成候ニ付テハ左記各項ノ通り心得ヘシ

- 第一 一驛遞取扱人ニ付與スヘキ牧場畑地ノ坪數及馬匹ノ個數ハ制限ヲ設ケ之ヲ報告スヘシ
- 第二 牧場及畑地ハ未成功ノ部分ハ一切之ヲ付與スヘカラス
- 第三 左ノ事項ハ處分後遲滞ナク報告スヘシ
 - 一 無償付與處分ノ年月日
 - 二 驛遞取扱人ノ住所氏名
 - 三 驛遞所ノ所在地
 - 四 驛遞取扱人ノ勤務年數
 - 五 功勞顯著ト認メタル事由
 - 六 驛舍敷地牧場畑地及馬匹其他ノ附屬物件ノ品名數量及評價格

右訓令ス

○驛遞所規程

○北海道廳訓令第八十四號 明治三十八年八月十五日

驛遞所規程

第三條 驛遞所ノ建物及敷地ハ之ヲ官設スルモノトス

但取扱人ノ所有又ハ使用ニ係ル建物又ハ敷地ヲ充用スルコトヲ得

第四條

驛遞所ニハ必要ニ應ジ畑地及牧場ヲ官設スルコトヲ得

第七條

建物以外ノ官設物件ノ設備ハ左ノ制限ニ依ル但官馬ノ産出セル馬匹ヲ算入セス

一、敷地ハ千坪以内

二、畑地ハ三萬坪以内

三、牧場ハ三十萬坪以内

四、馬匹ハ十頭以内

○官有財産管理規則及官有地特別處分規則準用ニ關スル件

○勅令第九十六號 明治三十六年五月二十二日

官有財産管理規則及官有地特別處分規則中府縣ニ關スル規定ハ北海道地方費ニ市ニ關スル規定ハ北海道沖繩縣ノ區ニ町村ニ關スル規定ハ沖繩縣ノ間切島ニ準用ス

○家祿奉還者へ資金給與並ニ産業資本ノ爲メ官林荒蕪地

拂下規則ノ件

○大政官達第四百二十六號

明治六年十二月二十七日

(七年第百十八號布告參看八年大政官第百二十五號達) マ以テ當分奉還停止九年第百八號布告ニ依リ消滅

使 府 縣

士族以下家祿賞典ハ祿ハ百石未滿ノ者願出次第奉還聞届候旨及布告候ニ付別冊方法ノ通相心得夫々處分可致此旨相達候事

(別冊)

家祿奉還ノ者へ資金被下方規則

七年第八十三號
布告ヲ以テ
第九條ヨリ第
十一條迄增加

七年太政官第
九號達以テ規
則附録ヲ定ム
七年內務省乙
第四十號達參
看
七年內務省甲
第十五號布達
ヲ以テ七年十
二月迄延期

(第一條乃至第七條省署)

第八條

一、農業或ハ牧畜等志願ノ者ハ官林田畑荒蕪ノ地等故障無之分ハ別紙拂下規則ノ通取計フヘシ尤右代價ハ此度可相渡公債證書ヲ以上納不苦候事

(別紙)

產業資本ノ爲メ官林荒蕪地拂下規則

第一條

一、家祿奉還資本金受取候者農業或ハ牧畜營業ノ爲メ官有ノ田畑城郭跡屋敷跡並荒蕪地山林等拂下相願地元村方組合村方又ハ政府ニ於テ故障無之分ハ相當代價ノ半價ヲ以相渡スヘク候條附録雜形ニ照準シ來六月三十日限封書ヲ以管轄廳ヘ可願出尤他管轄ノ地所ヲ望ム者ハ本管ノ添書ヲ以右期限迄ノ內望地ノ官廳ニ可願出同日以後出願處分ハ公ノ入札法ヲ以拂下可申事
但拂下出願ノ地所ハ相當代價ノ半價建物立木ノ分ハ相當代價ニテ可拂下事

第二條

一、地所拂下願書ハ開札日限相定メ願人立會開封ノ上三番札マテ取揃大藏省ヘ申出ツヘシ尤同直段ノ者有之トキハ出願ノ遲速ヲ以可相定事

第三條

一、地所拂下許可ニ至リ管轄廳ニ於テ代金上納申付地券相渡可申尤券面ニハ相當代價ヲ以記載シ歟下年季明貢租付ノ時ニ至リ更ニ書改可申事

第四條

一、地所拂下一人當リ步數ノ制限ハ願人ノ多寡拂下地ノ廣狹ニ寄リ候儀ニ付地方官ニ於テ見込相立

大藏省ヘ可申立事

但田畑並城郭跡屋敷跡ハ一町步以下荒蕪地ハ三町步以下山林ハ五町步以下ニ限ルヘシ尤田畑五反山林二町半ヲ併セ拂下候テモ不苦且又陸羽諸國其他僻遠ノ地ニテ廣邈ノ場所ハ此限ニ非スト雖トモ凡右ノ目的ヲ以取調可申事

第五條

一、地所ノ代價政府ニ於テ不相當ト視認ルニ於テハ拂下差止候事

第六條

一、地所建物立木共拂下代ノ儀ハ一時上納ノ事

第七條

一、熟田畑拂下ノ分ハ直ニ從前ノ貢租ヲ上納致スヘシ尤從前貢租未定ノ分ハ隣地比較ヲ以租額ヲ定メ沽券法施行ノ地ハ地租百分ノ三舊法因襲ノ地ハ舊額ノ米金ヲ貢納スヘキ事

第八條

一、城郭跡屋敷跡ハ歟下トシテ十ヶ年ノ間荒蕪地ハ十五ヶ年山林開墾ノ分ハ二十ヶ年免租タルヘシ尤山林立木其儘存置キ候分ハ隣地比較ヲ以テ稅額取調ヘキ事

第九條

一、開墾年中拂下ノ地所他人ヘ讓渡ハ勿論質入等ノ儀堅ク禁止セシムヘキ事
但本人長病一家ノ內他ニ著手スヘキ者ナキ歟或ハ其他己ムコトヲ得サル事故アル者ハ管轄廳ヘ詳細具狀何分ノ差圖ヲ可受事

第十條

一、地所拂下相願候者姓名ヲ他人ニ假與ヘ或ハ反別木數ヲ僞ル等各種奸詐ノ所業有之拂下ノ後發覺

七年第六十四號
布告ヲ以テ
第九條削除

候ニ於テハ假令地所著手或ハ成功ノ後タリ共右地所引揚當人竝ニ連累ノ者相當ノ罪科可申付ハ
勿論萬一右地所賣買イタシ候後タリトモ同様處斷スヘキ事
(雛形省畧)

○家祿奉還者山林荒蕪地拂下規則

○開拓使第三號布達

八年五月
二十二日

家祿奉還資本金受取候者家産營業ノ爲メ北海道ニ於テ地所拂下願出候節ハ別冊規則通可相心得此旨
相達候事

(別冊)

家祿奉還ノ者産業資本ノ爲メ北海道ニ於テ山林荒蕪地所拂下規則

- 第一條 家祿奉還資本金受取候者家産營業ノ爲メ北海道ニ於テ地所拂下願出候節ハ明治六年十二月
第四百二十六號御布告別冊方法照準シ願出書式様等一切其手續ヲ經志望ノ地所等本人所在ノ便宜
ニ依リ當使本支廳及東京出張所ニ可願出事
- 第二條 拂下地所步數一人十萬坪ヲ限リ上等千坪一圓五十錢中等一圓下等五十錢原價トシ其半額ヲ
以テ拂下營業著手ヨリ二十ヶ年間ハ除租可申付事
- 第三條 各所ノ便宜ニ因リ上中下三等ノ土地ヲ雜ヘ且數所ニ於テ願出候節全數十萬坪ニ滿ル迄可拂
下事
- 第四條 該地所ニ生立スル樹木ノ代價ハ上納ニ不及事
- 第五條 拂下許可ヲ得明治七年八月第八十三號御布告ノ手續ヲ以テ代價上納ノ土地券可相渡尤モ券
面ニハ原價ヲ記載シ置キ除租滿期ノ後地位ノ等差ニ依リ相當ノ租額ヲ定メ新券ト交換可申付事

第六條 既ニ拂下ヲ受タル土地ニ於テ種植牧畜一切ノ營業ハ勿論外國人ヲ除クノ外ハ相當ノ賣買等
本人ノ自由タルヘク尤モ營業著手ノ節ハ地質水性運輸ノ便否ヲ注意シ其方法竝ニ期限等ヲ詳細ニ
可申出事

第七條 地所拂下ノ後上等ハ十二ヶ月中等ハ十五ヶ月下等ハ二十ヶ月ヲ過キ營業ニ著手セサル者ハ
上地可申付事
但シ本人病ニ罹リ餘ノ家人著手スヘキ者ナキカ或ハ止ヲ得サル事故アル者ハ詳細具狀シ管轄廳
ノ差圖ヲ可受事

第八條 凡拂下ノ地所ハ右ニ掲ケタル條款ノ外總テ北海道土地賣貸規則並ニ地所規則ノ通リタルヘ
キ事

○還祿兵役者へ官地拂下方ノ件

○大政官布告第七二號

明治七年
七月五日

家祿奉還ノ者へ地所拂下ヶ期限ノ儀ハ兼テ布告ノ旨モ有之候處士族並元卒ノ内戸主ニテ現今兵役服
役中ノモノニ限リ特別ノ譯ヲ以テ免役ノ月ヨリ六ヶ月間ニ地所拂下出願處分ハ右成規ニ準シ半價ヲ
以テ拂下ヘシ

但服役中ト雖名代ヲ以テ出願苦シカラス

○還祿者ニ地所拂下ニ付處分方ノ件

○内務省訓示(内務省農商務兩大臣連署)

明治十五年
六月十三日

還祿者へ地所拂下ニ付處分方ノ義自今左ノ通り相心得ヘシ

第一 明治七年第七十二號公布ニヨリ官有地拂下ケテ願出地所撰擇ヲ許可スルトキハ其ノ許可ノ日

府 縣

ヨリ一百日間ニ撰擇シ申出ルニアラサレハ一切許可ノ効ハ消滅スルモノトシ且ツタトヒ他府縣ニ轉願セントスルモ此ノ期限内ニアラサレハ之ヲナスコトヲ得ス又他府縣ニテハ新タニ期限ヲ與ヘサル旨等併セテ相達置クヘシ

但シ一百日ノ期限經過スト雖モ兵隊服役中又ハ免役後六ヶ月以内ニ在ルモノハ猶新ニ出願スルコトヲ得ヘシ

第二 其ノ撰擇ヲ許可セシ甲府縣ニ望ミノ地所ナクシテ一百日ノ期限内乙以下ノ府縣ニ轉願シタルトキハ唯其ノ期限ノ盡キサル時間地所撰擇スルヲ許可スヘシ
若シ其ノ期限經過シタルトキハ一切採用スヘカラス

第三 現今無期限ニテ還祿者ヘ地所撰擇ヲ許可シタルモノハ第一項ノ例ニ據リ處分スヘシ

第四 還祿ニヨリ地所拂下濟ノモノ官ノ都合ニヨリ取消更ニ換地撰擇セシムルトキモ第一第二ノ例ニ從フヘシ

○還祿者ヘハ市街宅地拂下サケタル件

○庶務局長通牒 明治二十七年十月二十三日 (稟請書畧ス)

大 阪 府

本年十月十日二第二六六三號稟請官有地拂下ノ件ニ對シ本日指令相成候處抑明治六年太政官第四百二十六號ヲ以テ家祿賞典祿奉還ノ者ヘ地所拂下ノ義布告相成候主意ハ農業或ハ牧畜志願ノ者ニハ資本ノ爲メ田、畑、城郭跡、屋敷跡並山林等ヲ拂下ントノコトニ付市街宅地ノ如キハ該公布ニ基キ詮議難相成義ニ有之候依命此段及通牒候也

○還祿者土地拂下處分前認可ヲ要スル件

○内務省訓第八九號 明治三十九年 二月十九日

明治八年開拓使達第三號ニ依リ土地ノ拂下ヲ爲サントスルトキハ處分前其土地ノ位置地種目實地ノ狀況時價拂下價格ヲ具シ本大臣ノ認可ヲ得クルコトヲ要ス
右訓令ス

(參 照)

○屯田兵土地給與規則

○法律第七十九號 明治二十三年 九月

屯田兵土地給與規則

第一條 屯田兵トシテ北海道ニ移住スル者ニハ一戸凡ソ一萬五千坪ノ土地ヲ給與ス其下士ニ任セラレタルトキハ凡ソ五千坪ノ土地ヲ増給ス

屯田兵出身ニアラサル下士ニシテ屯田兵條例ニ依リ服役スル者ニハ凡ソ二萬坪ノ土地ヲ給與ス

第二條 移住ノ屯田兵二百五十戸以内ヲ以テ屯田兵村トシ一戸凡ソ一萬五千坪ノ割合ヲ以テ戸數ニ應シ其村ノ公有財産トシテ土地ヲ給與ス公有財産ノ管理利用並ニ開墾ノ事ハ屯田兵司令官ノ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 屯田兵及屯田兵村ニ給與シタル土地ハ服役中及其滿期ノ年ヨリ十年間國稅及地方稅ヲ免除ス

第四條 移住ノ年ヨリ三十年間ハ屯田兵ニ給與シタル土地ノ讓渡若ハ質入書入ハ無効トス且強制執行ヲ之ニ施スコトヲ得ス

第五條 屯田兵ニ給與シタル土地ニ移住ノ年ヨリ三十箇年ヲ過キテ開墾セサル部分ハ沒收ス

第六條 屯田兵ニシテ召募ノ條件ニ違反シ其他正當ノ理由ナクシテ兵役ノ義務ヲ履行セサルトキハ其給與シタル土地ヲ沒收ス

第七條 從前北海道ニ移住シタル屯田兵ニ給與ノ土地本則第一條ノ坪數ニ及ハサルモノハ之ニ滿ツル迄追給ス其屯田兵村ニハ公有財産トシテ土地ヲ給與ス其坪數及管理ノ方法ハ本則第二條ノ例ニ依ル

第八條 從前北海道ニ移住シタル屯田兵及屯田兵村ニ給與ノ土地ハ服役中及其滿期ノ年ヨリ二十年間國稅及地方稅ヲ免除ス

明治十七年ヨリ同二十三年マテニ召募シタル者ニ係ルモノハ第三條ノ例ニ依ル

第九條 屯田兵死亡シ又ハ服役ヲ免セラレタルトキハ給與ノ土地ハ其ノ兵役相續人ニ其ノ所有權ヲ相續セシム

第十條 屯田兵死亡シ又ハ服役ヲ免セラレ兵役相續人ヲ缺クトキハ其ノ給與ノ土地ハ家督相續人ニ其ノ所有權ヲ相續セシム

前項ノ所有權ハ後日兵役ヲ相續スル者アルトキ之ヲ其服役者ニ移スモトス
第十一條 前條ノ場合ニ於テ家督相續人定マラサルトキハ其ノ間家族ヲシテ其ノ土地ヲ保管セシム
第十二條 此ノ規則中屯田兵ニ關スル規程ハ第十條第一項及第十一條ニ依リ給與ノ土地ヲ所有若クハ保管スル者ニモ之ヲ適用ス

○屯田兵給與地取扱規則

○勅令第五百三十三號 明治二十八年十一月一日

屯田兵給與地取扱規則

- 第一條 屯田兵移殖地ノ區域ヲ定メントスルトキハ其概測圖ヲ添ヘ陸軍大臣ヨリ之ヲ内務大臣ニ協議スヘシ
- 第二條 前條移殖地ノ區域定リタルトキハ陸軍大臣ハ給與地積ト其區域内ニ於テ公用ニ供スヘキ地積等ヲ區分シ其畧圖ヲ添ヘ土地ノ引渡ヲ内務大臣ニ請求シ内務大臣ハ北海道廳長官ニ令達シ北海道廳長官ハ實測圖ヲ添ヘ之ヲ第七師團監督部長ニ引渡スヘシ
- 第三條 前條土地ノ引渡ヲ受ケタルトキハ第七師團監督部長ハ屯田兵土地給與規則ニ依リ屯田兵及屯田兵村ニ給與スヘキ土地及其他ノ土地ノ區畫割ヲナシ第七師團長ニ移シ師團長ハ官有トシテ存置ヲ要ル土地竝ニ道路堤塘溝渠等ニ充ツヘキ部分ヲ除キ其他ノ土地ヲ屯田兵及屯田兵村ニ給與スヘシ
- 第四條 第七師團監督部長ハ前條ノ區畫割ヲ爲スニ際シ道路堤塘溝渠等ノ計畫竝ニ工事ノ仕様ニ關シテハ北海道廳長官ニ協議スヘシ爾後其ノ新設又ハ變更ニ於ケルモ亦同シ
- 第五條 第七師團長ニ於テ土地ヲ給與シタルトキハ同時ニ其土地竝ニ官有ニ屬スル道路堤塘溝渠等ノ明細圖面ヲ添ヘ左ノ事項ヲ給與シタル年月日
- 一 給與シタル年月日
- 二 給與シタル人名及其ノ住所竝ニ服役滿期ノ年月
- 三 公有財産トシテ給與シタルトキハ其村名竝ニ當該兵村屯田兵服役滿期ノ年月
- 四 給與シタル土地ノ地名地目地積及地番號
- 五 道路堤塘溝渠等ヲ設置シタルトキハ其地名地目地積及地番號
- 第六條 北海道廳長官前條ノ移讓ヲ受ケタルトキハ屯田兵及屯田兵村ニ給與シタル土地ヲ民有地ニ編入スヘシ
- 第七條 北海道廳長官ニ於テ公益ノ爲メ屯田兵移殖地ノ一部ヲ使用スル必要アルトキハ之ヲ第七師團監督部長ニ協議シ各其所管

大臣ニ具申スヘシ

第八條 屯田兵移殖地若クハ屯田兵村内ノ道路堤塘溝渠等ノ興廢ニシテ其工事兵村ノ利害ニ止マラサルモノハ北海道廳長官之ヲ施行ス

第九條 屯田兵土地給與規則第五條ニ該當スル土地ノ沒收ハ北海道廳長官之ヲ施行ス

同規則第六條ニ該當スル土地ノ沒收ハ第七師團長之ヲ施行ス

第十條 北海道廳長官本則第六條ノ手續ヲ履行シ若クハ第九條第一項ノ處分ヲ爲シタルトキハ第七師團長ニ通知シ所管郡區長ニ示達スヘシ

第十一條 左ニ掲ケル土地其ノ所要ヲ終リタルトキ又ハ本則第九條第二項ノ處分ヲナシタルトキ其土地ハ公有財産トシテ兵村ニ給與スルコトヲ得但公有財産トシテ既ニ給與シタル土地ヲ併セ屯田兵土地給與規則第二條ノ制限ヲ超過スルコトヲ得ス

- 一 官有建物所要地
- 二 練兵場
- 三 射的場

四 軍事教育用ノ作業場

前項ノ土地ノ全部若クハ一部ヲ兵村ニ給與セサル場合ニハ師團長ヨリ第五條ノ事項 第九條第二項ニ依リ爲分シタル土地ヲ記シ之ヲ北海道廳長官及第七師團長ニ移讓シ監督部長ハ其給與セサル土地ニ付テハ明細圖ヲ添ヘ陸軍大臣ニ報告スヘシ

附 則

第十二條 本則ハ從前北海道廳長官ヨリ第七師團長ヘ引渡シタル土地ニモ亦之ヲ適用ス但第七師團長ハ本則施行ノ日ヨリ二箇年以内ニ第五條ノ手續ヲ爲スヘシ